1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第11巻第1号　1967年1月1日発行

聖徒の道

1

VOL. 11　No. 1

ホーム・ティーチングの根本的な土台…… 1

＜伝道部長会メッセージ＞……アドニー・Y・小松…… 4

扶助協会とホーム・ティーチング…… 5

＜系図のページ＞…… 8

＜アロン神権者用テキスト＞……12

＜メルケゼデク神権者用テキスト＞……32

＜扶助協会レッスン＞……57

聖 徒 の 道 11巻1号

1967年1月1日

ホーム・ティーチングの根本的な土台

兄弟姉妹、教会で開かれるこの種のものとしては最初の、そして歴史的なこの集会に皆様と集う機会を喜んでいます。今私は神権の権能について一言、二言話すように導かれています。一九二一年ラバティ・ステーキ部のヒュー・J・キャノン部長と教会の各伝道部を訪問した時、船が港を出るとまもなく、見知らぬある船客が、御婦人と一緒に、自己紹介しました。しばらく会話を交してから、御婦人は、申し訳なさそうに「一つお聞きしてもよろしいでしょうか?」といいました。そこで私は「ええどうぞ、でも聞かれる前に答えますと、私は一人しか妻がいません」と答えました。御婦人は私に「では複数結婚が貴方の宗教の目的ではないとしたら、何が目的ですか?」とたづねました。「私たちはクリスチャンですと」答えると「私たちもそうです。」と御婦人も答えました。

そしてこの御婦人はとても重要な質問をして、「ではあなたがたの教会の特徴は何ですか? あなたの教会と私のそれとの違いは何んですか?」とたづねました「いくつかあります」と答え「直接の啓示による神の権能がそのおもなものです」といいました。このことについて話したいのですが、神の権能だけが特徴ではありません。ローマカトリックは使徒ペテロから直接神の権利を受け継いでいると主張しています。ギリシャ正公会はペテロの死後生きていた五人の使徒からの権能を主張します。北アメリカのコプト教会もまた権能を主張し、このようにローマカトリック、ギリシャ正公会や、コプト教会はそれぞれ神の権能を主張しますが直接の啓示による神の権能を持つ教会は唯一つしかありません。

数百年前、アメリカのバプテスト教会の長の職を辞めるにあたって言った、ロージャーウイリアムスの言葉は正しいのです。「現在正しく組織された教会は地上にはないし、誰れも教会の儀式を行う許しを持った人もいない。また新らたに教会の偉大な長から使徒が遣はされなければそのようなことはできない。が私

はそれを待っている」と。

一八二〇年神の使いは真に来ました。神御自身と御子は、予言者ジョセフ・スミスに現れ、少年、若い予言者は「これはわが愛子なり……彼に聞け」という声を聞きました。次いで神の使たちは神権を回復されました。パプテスマのヨハネ、このヨハネは生まれた時から教えられ救い主御主身から認められた、アロン神権を回復し、いかなるクリスチャンも疑うことのないペテロ、ヤコブ、およびヨハネが来て予言者、ジョセフ・スミスにメルケゼデク神権を回復しました。

管理監督によって管理されるアロン神権には祭司、教師、および執事の職があります。メルケゼデク神権は三人の大祭司、一人の長と二人の顧問により管理されます。昔パウロが言った言葉にあるように、この地に大祭司、七十人そして長老もあります。

「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師とし、ある人を教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と、彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」（エペソ人への手紙四・十一～十三）

今話しているのは「聖徒達をととのえ奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ」と言う教えを持って聖徒たちをととのえさせるために訪れて行く責任ある人です。

教会にはすでに話したように、ステーキ部長の管理のもとに長老があり、七十人も特にその任に召され大祭司も定員会があります。

このように教会には、教会の宗務とは別にはっきりと分れた二つの組織があり、宗務には、ステーキ部や伝道部があります。ステーキ部には、ステーキ部長を二人の副部長、並びにいくつかのワード部とそこに監督がいます。大神権には使徒、大祭司、七十人、長老と教会の大管長直接の管理の下にあります。七十人は啓示により召された特別の会長会があります。長老は宗務の長として、知られるステーキ部長および伝部部長の管理の下りあります。アロン神権は、アロン神権会長会の職を持つ監督会の管理の下にあり監督は聖任にともない祭司定員会会長であります。教師も執事もワード部の監督会の管理の下にあります。

こういう訳で教会には二つの権能の元があり、一つは定員会そして、もう一つは宗務と分れています。

各定員会は特に任命された三人によって管理されます。大祭司定員会長は、今後各ステーキのステーキ部長となりましたこの定員会の会長は宗務の組職で知られるステーキ部の長であります。

七十人は独自の組職を持ち、長老定員会の会長会はステーキ部の管理を受けます。

定員会の会長の責任は定員会の各会員と逢い共に座して話し合い会員各自の責任を教えることです。くり返し言いますが各会員と共に座して話し合い会員各自の責任を教えることです。定員会の一団として集うときは、ステーキ部長をのぞいて宗教的な権能に関係しません。

定員会の会長会は、それが大祭司であっても、七十人であっても、また長老であっても、定員会の会員と話し合って、それぞれの責任を教え、責任を果していをかどうかを見とどける責任があります。この組職は教会を通して他と異なる組織であり、今日、教会は意味あるいは重要さを理解していません。

世間に対して秩序の秘決は何かというなら、定員会が末日聖徒イエス・キリスト教会の何であるかといえるのです。定員会は友情、友愛や兄弟として、また愛を団体として助成しなければなりません。個人として教会の組織に任えねばなりません。各自は定員会の会員としてではなく、教会の会員として宗務の権能に従います。

各定員会の会員は、それぞれ属する定員会の会長会に従い定員会会員を一致させるのは定員会会長会の責任であります。

もっとよく解るように、今一度船に乗

っていたときにあったことを話してみよう。一人の男が私を見て気付いた様子で、こちらにやって来ましたが、私はその人が誰れであるか、わかりませんでした。私の手を取って握りましたがすぐ「失礼しました。」と言って手をはなし、私のつけていた星と三日月のピン（妻から贈られた）に目をやっていました。このピンの象徴するものを知っているようでした。この人は私の手を取って握りましたがそれにこたえなかったのですぐはなしました。全く知らない人でしたが象徴するものを見て友情を持とうとしました。

ときとして私たちはこれと同じ精神を定員会に持たねばなりません。定員会はお互いに助け合い、霊的な面だけではなく経済面やあらゆる面においても助け合うように心を一つにしなければなりません。もしこの一致の精神を定員会として持つことが出来れば、教会の完全な神権組織の意味がわかりはじめたと言えます。

今一度くり返しますと、監督は長老や七十人や大祭司に命令する権能はないにしても、定員会の会員は監督の宗務上の導きと管理を受けます。一ワード部会員として、什分の一を収め、日曜学校の会長MIAやその他の宗務上の役に召されるのは監督に従いますが、定員会の仕事をする時は会長会に従い、もし定員会の会員が正しい標準にあった生活をしていないとき、この人をDSEELLOWSHIPするのもその定員会の権利です。私はある七十人定員会で不適切なために友情の手をひっこめてしまった例を思い出します。定員会は破門する権利を持っていませんが自らふさわしくなるまで友情の手を差しひかえる権利があります。

民間組織の権威者チャールズ・ゼブリン氏をデグス郡とウェーバー郡の間にある灌漑用水の視察に案内しようとしたときの会話を思い出します。視察に出かけるとまもなく私たちは灌漑用水の話しではなく教会の組織について話していました。行く道私は「左側にあるのが第一ワード部で、右に見えるのが第九ワード部です。各ワード部には祭司教師、執事があり、それぞれ会長会が管理しています」そして、教会の宗務と定員会の組織を説明しました。するとゼブリン氏は「ワード部」という言い方を何か教育機関であるかのように受け取ったらしく「どうして皆んなをワード部に来させますか?」とたずねましたので、私は皆んな一人一人が責任を持っていますから、と答えました。氏は「世の中のすべての町にこの—皆んなが責任を持つ—ことをどうやって教えたらよいだろうか!!」と言われました。私は「どうしたらよいか解りませんが、皆んなが同じ方向に行かなくてはね」と答えました。すると氏はその共通するものは宗教でなければ無理でしょうか?」と言われ「それは解りませんが、私たちにとっては宗教であり、非常にうまく行っています」と答えました。教会の組織は神の指示によるものであり、私達がその組織の円滑さをはかれば、三百人いるワード部であろうと、五千人いるステーキ部であろうとまた世界のどこの国であろうと効果的であります。宗教上の指導者、ワード部の監督、大祭司、七十人や長老としてどうしてホームテーチングに摘用できるでしょうか? 定員会として会員を教え導くことの重要性を強張したと同じです。ホームテーチングの兄弟たちは小神権者たちの助けをかりて「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせキリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」（エペソ人への手紙第四章十二～十三節）

ホームテーチャーが責任を果すにあたって各会員の福祉に心をとめることは、もっともなことです。宗務上の責任者は自分の持つ権能をよりよく自覚し直接受ける導きによって正しく割り当てるようにします。

神の祝福があり新しいプログラムの精神をもたらすことができますよう、ブランチテーチングに代って行はれる新しい役割をはたすことができますよう、また神の御子から直接来る神権を常に自覚できますように祈っています。神の祝福がありますようイエス・キリストの御名により申上げます。アーメン

伝道部長メッセージ

愛する兄弟姉妹のみなさん

アドニー・Y・小松（伝道部長）

明けましておめでとうございます

一九六六年は何と速く過ぎ去って行ってしまったことでしょうか。

消え去った歳月はもう私たちのものではありません。それは誠に素晴らしい楽しい経験でした。私たちはヒンクレー長老御夫妻及びハンクス長老御夫妻を、お迎えして三つの教会堂が献堂されました。宣教師たちのたゆまぬ努力と、会員たちの素晴らしい模範によって、多くの新しい家族たちがイエス・キリストの福音を受け入れました。

また、東北の福島、北九州、熊本及び長崎の各地に支部を開設するために四つの新地域が伝道のために開かれました。

一九六七年は私たちの眼前に展開されました。そしてこの年を私たちの生涯に於ける最上の年となす可能性は私たちの直面する挑戦であります。この新年を計画するに当って私たちは、人は過去に生きるべきものでなくて過去から学ぶべきであることを念頭におくようにしましょう。

本年の計画を定めるに当って私たちは熱心に主の御業に従事していることを、はっきりさせましょう。私たちの多くが昨年中収入の十パーセントである什分の一を百パーセント払いました。本年も同様にするように決心しましょう。しかして私たちは時間に於ても少くとも十パーセント以上はいろいろな面の教会活動に参加することを確実にすべきであります。

本年度はホーム・ティーチング、福祉系図及び伝道計画を含む神権コーリレーション（相関）・プログラムの使命に乗出します。伝道部、地方部及び支部の指導者を通じ、指示されてある通りにこれらのプログラムに積極的に参加しようではありませんか。これらのプログラムに関連してあなたに配布されるでしょう多くの書かれた資料を充分に時間をかけて勉強しましょう。神権コーリレーション・プログラムは一九六三年度に全教会を通じてシオンの組織されたステーキ部内で始められたものであります。

ホーム・ティーチングはこのプログラムの中で最も大切なものでありましょう。教会の兄弟たちが活発に参加することによって、その召しを発揚し、友なる会員を訪ね世話をする時彼らは福音の内にある愛と結合を感ずることができるのであります。

私は、もし私たちが教会の会員として、この新しいプログラムに私たちの指導者たちを支持するならば、私たちの生活は美しく幸福にお互の間に愛と結合がもたらされるであろうことを知っております。

扶助協会とホーム・ティーチング　＜マリオン・G・ロムニ＞

（1965年9月30日扶助協会年次大会ステーキ部役員会での話）

姉妹たちにとって長い一日だったと思います。そしてこの会の終りに、全ての心暖まる話しの後に、私が話すことは少々ドライであるかも知れません。今日、話そうとしているテーマは扶助協会会長会より与えられました。話すようにたのまれましたテーマは「扶助協会とホームティーチング」です。背景として、このことを考えるにあたり、イエス・キリストの教えはこの世の生活をまっとうするためになくてはならないものであり、それに従って行くという根本的な真理を、頭に入れておきましょう。人は正しく教えられ、福音を実践するようにはげまされることは、とても重要なことですから主は自らいかにしたら良いかと言うひな形を作られました。

ひな形の大切な要素は次の五つの段階になります。

一、神は予言者に福音を啓示します
二、予言者はその旨証します
三、両親による子供の教育
四、神権を支持する
五、補助組織による助け

この形ははじめから守られて来ました、父なる神は自らエデンの園でアダムと、イブに教えました。神のすぐ御前からたち切られた後も、エデンの園を指して行く途のかなたより声聞えて、彼ら……（モーセの書五章四節）主の誡命に従順なアダムに、報として天使を遣し、アダムに福音を教えました。モルモンはこの形

式を定められた慣習として引用し、主が選びたもうた者、予言者にキリストの御言葉を伝えました。

その者たちにキリストのことを証させることによって世の人の間に道を備えるにある。主なる神がこのように天使らを使いたもうによって、右の選ばれた者以外のすべての世の人も、キリストを信じてその心に聖霊を受けることのできる道が備えられるのである。このようにして、御父は世の人に立てたもうた誓約を果したもう。（モロナイ書七章三十一、三十三節）主はアダムに教えてから子供たちに教えよと伝え「故にわれ汝に一つの誡命を与えてこれらのことを汝らの子らに教えしむ」（モーセの書六章五八節）「アダムとイヴは……見る娘らにすべてのことを知らしめたり。」（同五章十二節）

聖典はいつの時代でも両親に導きをあたえています。アブラハムについて言えば、主は「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせる……ために彼を知ったのである」（創世紀十八章十九節）モーセは「努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければ、ならない。」（申命記六章七節）

モルモン経の中にこのような引用文がいたる所にあります。ニーファイは自分の両親を「善い」といい、父の知っていたすべての学問の中から教えを受けたといっています。

イエスは自分の父を正しい人と言って「私の父が父の言葉で教え、また主の愛と誡命とを私に教えたから……かように父から教えを受けたから、私は私の神の御名を讃美する」（イノス書一節）

モーサヤ王は彼の民にもし信じるなら「お前たちは自分の子供らに真の道を行うことと真面目でなければならぬことと互いに愛し、互いに助けねばならぬことを教えるであろう」（モーサヤ書四章十五節）と伝えました。

他の聖句は神の神権と教会の組織が両親の教えに助けを与えていることを示しています。新約、旧約の聖書は神権と補助組織について語り、同じようなことがニーファイ人の間でも行なわれました。

ベンジャミン王の言葉は集った民に宣べられました。（モーサヤ書二～四節）イエスがニーファイ人の所へおいでになった時「会堂や礼拝堂」「ニーファイ第三書十八章三十二節）について語りました。そして「汝らたびたび集会をせよ」（同二十二節）といわれました。モルモンは集ったことを「たびたび集会を開いて祈りをし、また主の御言葉を聞いた」（ニーファイ第四書十二節）と言っています。モロナイはこのことに関する記録を次のように記しています。

教会の会員たちは断食と祈りをし、また身も霊も救われることについて互いに語るためにたびたび集った。また主イエスを記念してパンと葡萄液をいただくためにただたび集った」（モロナイ書六章五・六節）

このいにしえの教義形式は現在に教訓を持っています。創世からそうであったように現在の神権時代においても主は選ばれた人に自から訪れて御自分の口から、また天使により福音を明らかにしました。予言者たちは啓示された福音の真実性を証し、多くの人は聖霊の力によって福音を理解し受け入れました。そして両親には子供たちを教えるようにと宣べられました。主は昔の形式と同じように、今日も、教会に神権と補助組織をもって親たちの教育を助けています。

主は一八三一年の早期から聖餐式を始められていいました。「汝なおさら充分に世の汚れに染らざるよう、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし」（教義と聖約五十九章九節）

私たちは神権定員会の組織や機能を他の補助組織、扶助協会、日曜学校、初等協会、系図、ＭＩＡ、教会の学校、神殿計画、ファイヤーサイドや他の教えや、トレーニング等と同じようにその起源をたどって行くことが出来ますが今はその話をする時と場所ではありませんが教会の導きのもとに得られる充分な知識と方法とを啓示の根本的なものと絶えない主の霊感により教会の会員一人一人にイエス・キリストの福音を教える手助をするといえば充分です。

現在、教会の指導者は教会の教義と活動をお互いに調整するよう努めています。そして、不必要に重複したりまた、手ぬかりのないようにして統一された力を入れ、教会の全ての子供、青年や成人は聖霊の影響を受け教会の組織にあってあるいは家庭にあって、イエス・キリストの福音を教わるようにしています。

この相互調整プログラムは神権者と扶助協会の姉妹たちの果す役割は大きなものがあります。私たちは目的を果すためには、両親、神権者、神権定員会、補助組織、学校やその他の組織の指導者たちが義務を悟り、また各自が任命された務めを勤勉に勤める必要があります（教義と聖約七章九九節参照）これらすべての組織は教会の相互関係調整プログラムの代表者でありみんなが家庭を中心にした神権教育プログラムを見守るのです。啓示に調和して、教会の相互関係調整プログラムの根本的な第一の目的は神権と家庭をあるべき所に置くことであります。この目的のために多くの努力が払われてきました。神権のおもな責任の部分はホームティチングを通して果されます。毎週行なわれるホームイブニング（家庭の夕べ）で福音を教える場としての家庭に重きを置くことが強張されています。

主の教える形式によれば、補助組織を通して求められるもののうち扶助協会の

しめる位置はきわめて高いものです。もちろんあなたは扶助協会は予言者ジョセフ・スミスにより組織された唯一の補助組織であることを知っておいでのことでしょう。また扶助協会のおもな働きを知っておいでしょうがそれを例挙しましょう。

また扶助協会は教会のすべての婦人に任責し、また祝福をもたらすということも知っておいでのことでしょう。そこでこの目的を果すにあたり、二つの分野に於いてある進歩をしなければなりません。その一つは、新らしい会員を扶助協会の会員に誘い、他の一つは扶助協会の出席を増すことです。

扶助協会とホームテーチングは協力してこれらのことをなすことが出来ます。そして扶助協会の側としてなすべきことが沢山あります。あなたがたはそれぞれの集会や活動を興味があって意義深いものにしようと努力し、一度出席した人はまた出席したくなり、そしていつも出席するようにと努力していることを私は知っています。

扶助協会の訪問教師は申し上げるまでもなく、訪問する人に出席するよう励ますのです。そして会員は全部自分の個人的な友人にも手を差しのべて出席するようにできます。

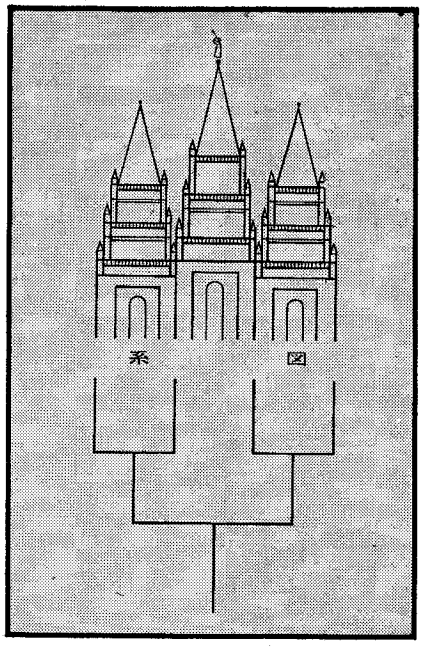
教会の登録は正式には神権者が神から与えられたつとめであり主は教会の組織の時にあたりそのように意図されました。

主が予言者ジョセフ・スミスに教会回復の時を教えた同じ啓示の中でメルケデゼク神権の召しは他の責任者にともない「教会を守護し」（教義と聖約二十章四二節）であります。そしてまた祭司の義務は……また各会員の家庭を訪れ、彼らが声を挙げてもひそかにても祈をなし、またすべての家庭の務めにいそしむように勧め」（教義と聖約二十章四六～七節）「教師の義務は常に教会員を守護し彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。また教会員のしばしば集会することをはかり、またすべての会員にその義務をつくすようになさしむ。」（教義と聖約二十章五三・五五節）であります。このようなことは、教会員を聖餐式や神権会または神殿に行くことやその他の神権の働きや補助組織に行くようにするのと同じように扶助協会も含み婦人たちが扶助協会に行くように努める責任があります。

神権ホームティーチングは教義と聖約第二十章に挙げてある神権者の義務を果すにあたって、その一部分としての教会の正式なプログラムです。ホームテーチングは教会のある特定な機能、家庭で福音を教えるとか、宣教師活動とか、系図や教会の福祉やまたは補助組織に限定されたものではありません。むしろその義務は、これらのプログラムや活動を支持し励まし、動機を与え、そして教会員に霊的な導きを与え、扶助協会を含めたこれら全ての福音の教えやトレーニングを役に立たせて自分の生活をより完成することです。もしあなたがた姉妹たちがこの概念をつかみ、心に留めて置くならば、あなたたちの御主人が努めをはたすにあたって、大きな奉仕をなし遂げることが出来るのです。ホームティーチングとしての務めをなすことはメルケゼデク神権や、アロン神権の祭司、および教師の職を受けることによって付随するのです。私はいかなる神権者といえども神権に付随し、全てのメルケゼデク神権者は自分の身に受ける誓詞と聖約を犯すことなく故意にホームテーチングを断ることがどうしてできるか解りません。ホームテーチングは神権者が奉仕により召しを遂行し偉大な約束にあづかることができるのです。「召を全力を尽して遂行する者たちは『みたま』により聖められてその肉体再新さる。……また教会にして王国の民となり神の選民となる。」（教義と聖約八十四章三十三、三十四節）

ホームテーチングは監督の管理の下に二人一組の神権者が各家庭に割当てられます。扶助協会の助けに関する限り全体の家庭内に関する深い知識・正式な神権の地位、励まし、チャレンジそして全ての見込みある人を登録するようにし更に全ての人が扶助協会に出席するようにつとめることです。このようなことは神権指導者は監督に適切なチャレンジと指示があった時に適切な動機づけをすることが出来ます。

（山田五郎訳）



第二回ハワイ神殿訪問者のために

一九六七年、牧羊者を迎えるこの新な年に主の宮を訪ねられる兄弟姉妹のみなさまに心からおめでとうと申上げます。

一九六七年の新春を迎え、いよいよ第二回ハワイ神殿訪問の期日も目前に迫って参りました。訪問予定の兄弟姉妹の皆さんは高鳴る胸をおさえつつ着々と準備されておられると思いますが、出発が六月に予定されておりますので系図及び家族の記録(日英各二通)は**一月中に**、遅くとも**二月中旬迄には本部宛到着**するように御送付下さるようお願い致します。系図協会でシートのプロセスに少くとも三ケ月を要しますので、系図協会の方からハワイ神殿の方へ送付する日数も入れますと三ケ月半、従って二月中にはどうしても系図協会に到着せねばならず従って伝道本部発送期限は**二月二十日頃**となります。

提出がそれ以後になりますと切角ハワイの神殿まで行っても御自分で自身の御先祖に代って儀式を受けれなくなりますから、みすみす素晴らしい機会を失ってしまうことになります。どうぞ一人もそのような人のないように期限前早目に提出して下さい。

次に今回訪問予定者は、できるだけ第一回訪問者の持っています資料(ファイル)を見せてもらって心身共に準備しておかれるようにおすすめ致します。尚日曜学校系図クラスのテキスト、シオン山の救手たち及び家族の昇栄をもよく読んでおかれれば更に効果的だと思います。

もう半年足らずですからアット言う間に過ぎて行きます。

身も心も頭もできるだけ準備して、千載一遇のチャンスに百パーセントの効果をあげ素晴らしい証を持って帰られるように心からお祈り致しております。

ハワイ神殿に就て

一、歴史的背景

ハワイに神殿を建てることは一八五〇年、ジョージ・Q・キャーン、ジョセフ・F・スミスその他多くの宣教師たちが福音を宣べ伝え始めてから、多くの忠実なポリネシヤ聖徒たちの夢でありました。

この土地の聖徒たちはジョージ・Q・キャノンの予言が実現する日即ち、この遠く離れた島に神殿が建てられる日を待ち望んでおりました。その成就は、一九一五年六月一日にジョセフ・F・スミス大管長及び一部の人がハワイ諸島の北方の一つオアフ島のライエ地域を献納した時に、始められたのであります。

ハワイの神殿は一八六五年にフランシス・A・ハーモンド長老によって末日聖徒イエス・キリスト教会のために購入されたホノルルの北方約三十二哩の地点にある六千五百エーカーの〝ライエの耕地〟として知られている処にあります。そしてその時からその一部は甘庶畑として使用されまたハワイ諸島の聖徒たちの集合する場所でもありました。神殿の場所は、やや高台或は大平洋まで、見晴らしのきく処に在ります。

建物は永久的な鉄筋コンクリート建てであります。それはギリシヤの十字架の形に建てられたもので東西、百二十呎、南北七十八呎であります。建物の中央、神殿の本体(尖塔は無い)の高さは五十呎であり、実際の費用は二十五万六千弗であります。

樹木と灌木と草花がセメントの壁に配置され、三つの長方形のプール、テラスがゆるやかに太平洋の砂浜に向けて降下し一つの大きな円形プールが砂浜街道の真上にあって神殿は最高の美観を呈しております。

それはできる限り全諸島に住む内地人の労働と熟練によって建てられたものでありますが、教会自体がその出費を担当し、その多くが甘庶耕作から支払われたのであります。この神殿はヒーバー・J・グラント大管長によって一九一九年十一月二十七日木曜日、感謝祭の日に献堂されました。

二、献堂式の時のお話

(1) アーノルド・B・バンガーター

愛する兄弟姉妹の皆さん

本日私は皆さんの前に立って特に謙遜さを覚えます。けれども私はこの神殿の献堂式に参加できましたことを心から天父に感謝致します。私は今、先日読んだ私の祝福師の祝福の言葉を思出します。それは既に、ずっと以前に亡くなられた祝福師によって私に与えられたものでありますが彼の言葉はまだ生きております。そしてそれは私がまたわずか三才の時に私の頭上に宣言されたものであります。彼は言いました。

〝あなたは成長した時召されて家を離れ海の島々に伝道するでしょう。そこであなたは多くのニーファイの民の子孫を見るでしょう。そしてそこにいる間に、主の名に建てられる神殿を見るでしょう〟

私は主が私に垂れ給うた祝福に感謝します。私は特にへりくだって常に兄弟姉妹の皆さんが私に頼まれることを何でもしてあげたいと願っております。私は主が私たちを祝福し私たちにその聖いみたまを注ぐようそして私たち一人一人が、平安を得、その祝福にあずかれるようにお祈りします。何となれば私は私たちが偉大な指導者たちに祝福され、もしも私たちが私たちの天父に信頼するならば、私たちは素晴らしい業を完成し、主は私たちを助けて下さるであろうことを知っておりますから。

私たちは教会内に多くの祝福師を持っております。私たちはこの土地にも一人を持っております。私は喜びを以て申上げます。

〝私は彼らが私たちの上に宣言する言葉は、主のみたまに感じて語られたものであることを知っております。そしてもしも私たちが神の戒めを守るならそして天父の前に私たち自身を潔く保つならばその言葉は実現し私たちは豊かな祝福を受けるでありましょう。私はもうこれ以上何も言うことはありません。神よ私たちを祝福し給わんことを、そして私たちが常に主のみたまによって導かれますようにイエス・キリストの御名によってお祈り致します。アーメン〟

(2) サムエル・E・ウーレイ

〝私は今兄弟たち姉妹たちにこう話したのであります。（ウーレイ兄弟は聖徒たちにハワイ語で語り終えた）このライエの地は昔、避難民の市街でありましたが、今や誠に霊的にも肉体的にも避難する市街となったのであります。

ウイリヤム・W・クラフは示現で、ヤング大管長がこの地に立って「この地に私たちは私たちの神に神殿を建てるであろう」と彼に告げているのを見たのであります。後にジョージ・Q・キャノン副管長が福音が回復されて五十年後に、この地を訪ねられた時、彼は私たちに、ライエでもまたホノルルでも、私たちは間もなく生ける者の救いに必要な儀式を執行する家を持つでしょう〟と告げました。

このようにして大平洋の海の真中の島に建てられた主の家は、やがて大平洋の西岸に在る海の島、にも私たちの信仰によって建てられるのではないでしょうか、ジョセフ・フィールディング・スミス長老は日本に多くのイスラエル人がおるから宣教師を派遣するのであると申されました。私たちは忠実に私たちの先祖を探求して、一日も早く主の宮をこの地にも迎えようではありませんか。

伝道部系図アドバイザー

渡部正雄

北海道地方部

今年は羊年です。昨今の北海道はジンギスカンの子孫がやたらに多く、羊といえばあの鍋を思い出す御仁も多いようです。しかし、羊のイメージは、やはりキリストのイメージと密接な関連をもっているのであり、そういう意味で、われわれモルモンにとっては、今年こそ福音伝道の期待に胸をはずませる年なのです。

二年がかりの地方部センター建築の槌音もようやく鎮まって、主の宮居の完成とともにダッシュする一九六七年であるからこそ、北海道地方部にとっては意義深いとも言えましょう。この二年間、チエデスター監督夫妻、ラーセン監督夫妻、建築宣教師のみなさま、支部長会の方々、そして長老定員会、アロン神権会さらにまた扶助協会の姉妹の皆様、各支部の兄弟姉妹のみなさまに心より感謝の気持を述べさせていただきます。私どもは、この偉大な主からの恵みの建物を大いに活用することこそ、主の御旨であろうと信じています。

そこで、北海道地方部では一九六七年度目標として次のことがらを決めました。

一、支部組織、地方部組織の充実
二、アロン神権組織の充実強化
三、伝道の個人的実践
四、ホームティーチングの学習と実践
五、補助組織の内容の充実
六、指導精神の高揚
七、各会員の福音研究の徹底化
八、音楽プログラムの組織育成

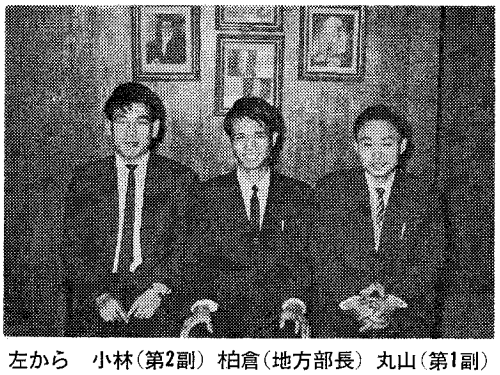
以上です。要するに私どもがモルモンとして自らの成長変革を図るとともに、北海道の多くの人々に福音を述べ伝えるための指針を明らかにし、神様の王国建設を積極的に押し進めて行く目標であると言えます。

私どもは、ひとりひとりの信仰と祈りによりこれらの目標が達成されるよう希望するものであります。一九六七年が〝迷える羊〟（ストレイ・シープ）にならないためにも。（北海道地方部長会）

前列右から藤田（第二副）柳沢（地方部長）潟沼（第一副）

東中央地方部

大切な責任を与えられていま心から謙遜にかつ喜んで務めをなせるようにいつも祈っています。前々任の今井兄弟、前任の田中兄弟はすばらしいまた私の尊敬する指導者でありましたから、その後を務めるのは本当にはずかしいのですが、勇気を持って前進したいと思っています。現在私に出来ることは伝道部長会を心から支持して従うことであります。今年はホームティーチングプログラムが始まるわけですから、十一月末から段階を追って勉強会を開く計画をたてました。一人一人がこのプログラムのホームティチャーとなって活躍する日もすぐ近くに来ています。力を合せてこのプログラムを成功させたいと思います。また先に始まった長老のパートタイム宣教師活動も今井地方部伝道部長のもとで一段とはげしく活動が行なわれることと思います。さいわい二人のすばらしい副地方部長にめぐまれましたから、心から感謝の気持で一ぱいです。力を合せてさらに信仰強く主の業をなすために諸問題を解決していきたいと思います。未経験の私ですが精力と体力と思いをつくして頑張りたいと思います。私はジョセフ・スミスが神の教会を回復した真の予言者であることを証します。また現在の予言者デビッド・O・マッケイが神からの啓示を受けていることも証します。身をすてて奉仕することはいかに我々を幸福にし進歩させるものであるかを心から証したいと思います。（東中央地方部長　柏倉仁）



左から　小林（第2副）柏倉（地方部長）丸山（第1副）

西中央地方部

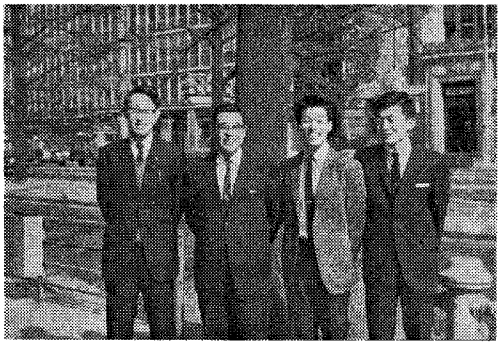
新年あけましておめでとうございます。昨年は当地方部で初めて阿倍野支部がみなさまのご協力をいただいてめでたく献堂式を行いました。また九州には新しく長崎、熊本、北九州の三支部が開設されるはこびとなり、ますます神様の王国が拡がりつつあります。

今年は岡町支部の建築がはじまろうとしており、また新しくホームティーチン

グのプログラムが始まろうとしております。西中央地方部長会としては、すべての教会活動を伝道本部の指示通り忠実に行ないますので、各支部の役員教師も地方部の指示に従ってすべてのプログラムを進行させるようにしてください。そうすることによって教会全体が一つの心となってなお一層王国が強大なものになると信じております。

今年は一段と飛躍をしなければならない年です。みなさま一人一人が今年一年間よきモルモンとして生活の中心に福音を取入れ、本当のよろこびにみちた生活を送ってください。

みなさまの幸福のために地方部長会一同よき僕としてお手伝いしたいと心から念願しております。



左から二人目　鈴木地方部長

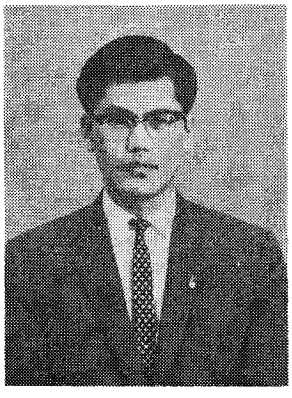
年頭にあたりみなさまの上に神様の福音が豊かにあるように心からお祈りしております。（地方部長会）

沖縄地方部

全国の兄弟、姉妹の皆さん、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

一九六六年度は沖縄地方部にとって実にみのり多い年であったかの様に思われてなりません。その一つに私たちが長い間待ちわびていた那覇支部の教会堂が無事十二使徒評議員のゴールドン・B・ヒンクレー長老の手により献堂されました。その日には沖縄の会員をはじめ多数のアメリカ軍人会員の出席のもとにいとも厳かな中に献堂式が執り行われました。特にヒンクレー長老は「人間の自由を擁護するためにアメリカより派遣された軍人たちが真に安らぎを得る場所となるように、また何千何万という人々がイエスはキリストであると証をもつ機会に与るように」と数々の祝福の言葉を残されました。私たちはかって多くの貴い命がこの地のために捧げられたことを思うときにまた本当の自由のために多くの血潮が流されたことを考えるときに一日も早くより多くの人々に回復されたこの福音を述べ伝え、救いに与らせねばと思うのであります。沖縄は昔から「守礼の邦」と言われております。然しそれは私たちが礼拝堂で神の御前に頭をたれているような精神でもって互に生活するときにのみ「真の平和」「真の守礼の邦」が実現するのではないでしょうか。私たちはこの様に神の王国建設のためには、まず良き指導者のもとに良き組織の確立をなし普天間支部をはじめ次々と新しい教会堂を建築し献堂出来るようにと念じております。幸いにしてこの度伝道宣教師の大任を無事果して帰還されれ屋富祖昭兄弟を地方部長会に迎えることにより、今や沖縄地方部は飛躍の勢いであります。新年度の伝道部の目標を推進し、数多くの成功をおさめることが出来るよう、またステーキ部組織を目指して全会員が一丸となって邁進しなければと意を新にしているものであります。

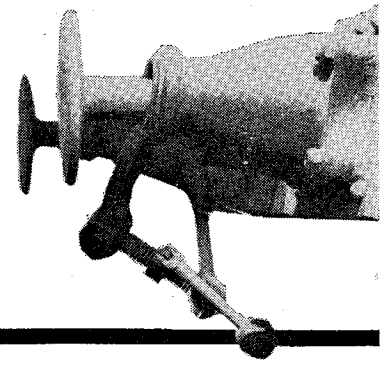
（沖縄地方部長　長嶺顕正）



長嶺地方部長

地方部紹介

アロン神権者用テキスト



わたしたちの生きた福音

ウエンデル・オー・リッチ著

管理監督会との特別な話合いによってこのテキストは、一九六六年度、アロン神権祭司のクラスの教科課程に指定されました。

パールへ

愛する妻、献身的な同伴者そして友人あなたにとってイエス・キリストの福音は、常に生きた実際的なものであります。

序文

イエス・キリストの福音を受入れ、これに信仰を持っているすべての人は、自分自身を大きくし、自己の問題を解決しその努力する目的と意義を見出し、その仕事に幸福を感じ、その生涯を重要な、興味あるものとなす力を把握しております。福音を知ることは受入れる始まりであり、それが真実であると信ずることは本質的であります。けれどもそれが如何なる人の生涯にとっても効果あるものとなるためには、福音が彼の生活の内に在り、彼の存在の一部となっていなければなりません。それが単に美しい概念たることにとどまらず、彼自身のものとなったとき、彼の思想を色づけ、彼の行動を導き、彼の理想と目的を霊感し、そこで始めて天上に於ける神性な会議に於て、そのために計画された高い目的が成就されることになるのであります。

一八六〇年に、ジョン・テーラーは次のように言いました。

「福音は或生きた、内在している永えの原則である」（ジョン・テーラー説教集七・三六二）

彼のこの声明は本書の題となりました。これに呼応するものはジェームス・イー・タルメージの定義〝信仰には必ず行動に表わさずにはおかぬ確信というような意味が含まれている〟のであります。（信仰箇条の研究一三〇頁）

それでは、イエス・キリストの福音に持つ信仰、それがわたしたち自身の一部となるように推進される〝生きた、内在している永えの原則〟に持つ信念または確信となるのであります。それが私たちの自由意志の行使によって、生きたものとなり、マッケイ大管長の言葉にあるように〝人の進歩の推進力〟となるのであります。

わたしたちは如何に福音を単に、貴重な所有物と見なしてきたことでしょうか？ わたしたちはそれをクラスで教えあるいは説教として説明し、その力と美しさを指摘し、それを定義して、対立するものから区別し、それを世界の民に説きます。わたしたちは、最大なる教師、最も効果的な説教、最も真実な証、最も強く福音を守るものは、日常のわたしたちの生活にそれを実践することにあることを自覚すべきであります。

〝生きた内在るる永えの原則〟としてのイエス・キリストの福音は個人的なものであります。それをほんとに知るには経験せねばなりません。それはわたしたち一人一人にとって個人的な幸福と達成への開かれた門であります。けれどもわたしたちは、その門を通って歩いて行かねばなりません。それは永遠の成長と進歩への階段でありますが、わたしたちはそれを登って行かねばなりません。それは、すべての人を神の息子または娘として人格完成するように招待しております

が各人は若しその人格を完成しようとするなら、その力を尽し、信仰を発揮し、問題に堪え、勝利を克ちとらねばなりません。福音のすべての原則、すべての律法、誠命、教えまたは教訓、は人々をより向上させ、大きく広くし、より幸福により効果的な人間としようとしております。〝わたしたちの生きた福音〟として充分に自覚して始めて福音は動力としての原則となることを示めそうとするのがこの書の目的であります。

第一章　私たちの生きた福音

福音は神と共に存在してきた、生きた内在する永えの原則であり、ときの続く限り如何なるところに伸びまた現われようとも常に存在し続けるでありましょう。

ジョン・テーラー
ジョン・テーラー・説教集　七・三六二

わたしたちの生存の目的は幸福であります。もしわたしたちがそれを追い求めるならば、その道は道徳、正直、忠実、神聖、そしてすべての神の誠命を守ることであります。けれども先ずわたしたちは、すべての誠命を知ることなくして守ることはできません。そしてまたわたしたちは、すでに受けたものを守ることなくしてすべてをまたは今知っている以上を知ることを期待できないのでありまず。

ジョセフ・スミス　二代目
教会歴史　五・一三四―一三五

「生存の目的と計画」

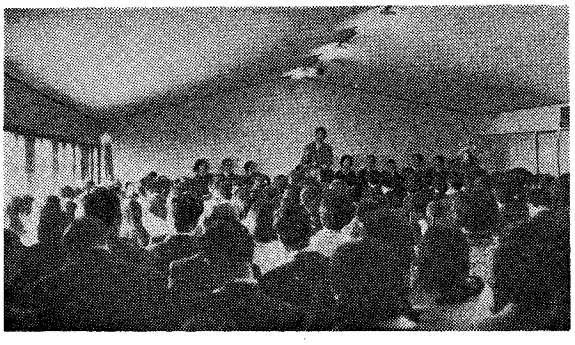
〝生命はこの世の原料であります。そして自然界と人間性を支配している永遠に変らない律法は神の賜であります。あとはわたしたちが学んで、私たち自身のために、幸福をも含めて、かせがねばならないだけであります。〟

アレキサンダー・メーガンはこのように言いました。

すべての人はその生涯に於て幸福になるべきであります。神の永遠の意図と目的は、人の喜びと幸福にあります。わたしたちはイエス・キリストの福音を学ぶにあたって、このことを知るべきであります。わたしたちが幸福を見出すことは神性な父のみこころであります。そしてこれが人生の目的なのであります。けれども幸福は、たとえ無限の愛と思いやりのある神でも、人がそれを自ら働くことなくして、人に与えることはできないものなのであります。予言者ジョセフ・スミスは父リーハイがその子ヤコブに教えたことを今日のわたしたちの時代に繰返して〝人類が現世に在るのは幸福を得んためである〟と宣言しました。モルモン経は荒野を旅している試練のときに生れたヤコブの話を告げております。成長するにおよんで彼及び彼の兄弟たちは、神の人間に対する計画のある根本的な真理を教えられたのでありました。彼の父リーハイは、〝すべてのことはすべてのことを知っておられるお方の知恵によってなされているのである〟と説明しました。彼はそこでヤコブ及びその兄弟たちに永遠の福音の偉大な眼識を与えたのであります。彼は彼らに教えました。〝アダムが堕落したのは人類を生ずるためであり、人類が現世に在るのは幸福を得んためである。〟（ニーファイ第二書　二・二五）

すべての真実は正しい人は幸福が人生の生活で織り編まれる完成品であることを知っております。この真理の中に正義のすべての権威があります。すべての神の息子、娘たちは神は彼らが望み且つ受けることのできるすべてのものを与えるであろうという、神の栄光の根本的な教訓を学ぶべきであります。

〝神は常にあなたが学べるだけ教えられることを覚えなさい。若しあなたがあなたの無知を悲しんでも、失望するにおよびません。もっと知識を得られるようにすれば、それはあなたに与えられるでしょう。あなたが神を完全に知ることを阻んでいるものは、神が与えようとしないのではなく、あなたの不完全さによるのであります。よりよく、より潔く成長しなさい。そうすれば神の知恵は代価または報賞としてではなくその受入れ能力に応じて自然と入ってくるでありましょう。ここに古い教材があります。何人でも、みこころを行う者はその教義を知るであろう。またここに古いキリストの約束があります。見よ。わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にするであろう。〟



北海道地方部大会

フイリップ・プルークス

〝ウイリング〟（心から進んでする）と〝エイブル〟（能力ある）の二つの言葉は神の救いの計画の金言であります。限りあるこの生涯は永遠の父がその子供たちの成長と教育のために設けた神性な学校の教室であります。選択の自由と経験から学ぶ能力はその教室で教えられる根本的なレッスンであります。ウイリングとエイブルは知恵と英知に言われると同様に行動と責任にも、あてはまります。わたしたちは皆、わたしたち自身の幸福と達成のために完全な責任を持っております。この責任と平行して行動が必要になるのです。イエス・キリストの福音に関して静止または休止しているものは何もないのであります。あなたはそれを検査してみれば、それが完全に、いつも、行動の計画であることを発見するでありましょう。またよい生涯は安易なものであるべきでもありません。幸福と達成は、ほとんどの場合い、働らきと苦しい闘いが理知的な目的と霊的な勇気と結合して、もたらされるものであります。一九四三年、アルパート・イー・ボウエン長老は、ラジオで次のように強調しました。

〝霊的な理解と力と識別と自制は無料で得られるものではありません。それは克ちとらねばならないものであります。肉体的な限界を越えて見透すイエス御自身でさえ、自らを捧げ、霊的な最高を極めた偉大なその伝道に入るに先だって四十日間、荒野で闘い、御父の慰めと支持を強く呼び求めたのでありました。けれどもその試しに打克った日から彼の生涯はその教えた道徳の積極的な実行でありました。

宗教によって企てられた人生の計画には、心配、悲しみ、苦しみ、非難または欠乏から解放される約束はありません。すべてこれらを通しても、高い目的への忠節を守って、敗北し落謄してはならないのであまります。人はこの物質界に住んでいる間に、経験と熟達と浄化と霊的成長を以って、この世に於ても、来世に於ても更に偉大なるものに彼自身を合せて行くのであります。（アルバート・イー・ボウエン）

アレキサンダー・メーガンはその優秀な著書〝幸福な生涯〟の中で幸福は真実な永続する価値と調和した生活をすることによってのみ見出されると主張しております。彼は幸福は宇宙の霊的律法の内に獲得された自覚の内に見出されるとのエマーソンの声明に賛成して言っております。

〝幸福は、よい生涯のために、大切なことに向って充分に努力することであります。若しもよく考えられた価値、こわれない標準、充内な目的がなかったら人生はみじめな目標を失った暗闇となってしまうのであります。不幸は間違った活動（必ずしも悪ではない）及び不充分な相互関係からもたらされるのであります。言いかえれば不幸は内部の不調和からもたらされ、それはその人格の一部の破たんとなるのであります。（アレキサンダー・メーガン　幸福な生涯　六―七頁）

もう一度予言者、ジョセフ・スミスの声明を見てみましょう。

〝わたしたちの生存の目的は幸福であります。若しもわたしたちがそれを追い求めるならば、その道は道徳、正直、忠実神聖、そしてすべての神の誡命を守ることであります。けれども先ずわたしたちは、すべての誡命を知ることなくして守ることはできません。そしてまたわたしたちは、すでに受けたものを守ることなくしてすべてをまたは今知っている以上を知ることを期待できないのであります。〟

「幸福と達成の条件」

メーガン博士は同様に次のように指摘しております。〝わたしたちは皆、幸福になれるように生まれております。けれども幸福は可能性であって、経験として保証されるものではありません。幸福は歓喜や悦惚のように勝利の翼に乗って来るものではありません。それは歩行者のように静かに来るものです。それは成長の結果であります〟ここに幸福の根本条件が述べられてあります。すなわち成長と行動から、くみとらなければならないものだからであります。それは真に価値ある生活からもたらされるものであります。それは神性な永遠な真理に由来する価値ある生き方をするときに始めて現れて来るものであります。

わたしたちがよくその約束されてする祝福の条件を見のがす、簡単な文に引用

された多くの福音の真理があります。これらの声明をその必要な条件と共に見てみましょう。

〝われらは、キリストの贖罪により、すべての人類は、福音のおきてと儀式とを守ることによりて救われ得ると信ず〟信仰箇条第三条。

〝イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた「もしわたしたちの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子なのである。

また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。〟（ヨハネによる福音書八・三一―三二）

〝神の栄光は英知なり。すなわち光明と真理なり。

光明と真理はかの悪魔を棄つ〟

（教義と聖約　九三・三六―三七）

〝すべてわれによりて祝福を受けんと願う者は、その祝福を与うるために定められたる律法と条件を創世の前より定められたるままに守らざるべからず。

この新しく且つ永遠の誓約に就いてはこはわが最高完全なる光栄のために定められたるものにして、わが最高完全の光栄を受くる者はこの律法を守らざるべからず。またこれを守るものとす。しからずば、その者の行き止りなるべし。主なる神言う。〟（教義と聖約三二・五―六）

〝見よ、わが家は秩序の家にして混乱の家にあらずと主なる神言う。

主また言う。わが名によりてなされざる捧物をわれいかで受くべきか

または、わが命ぜざりしものを汝らの手より受け入るることをせんや。

主は言う。正にわれとわが父が創世の前より汝らに定めたる律法によらずして汝らに命ずることを為さんや。〟（教義と聖約一三二・八―一一）

これらの完全な引用は、イエス・キリストの福音は永遠の律法の特別な要求と結び付いて人類に与えられていることを示しております。

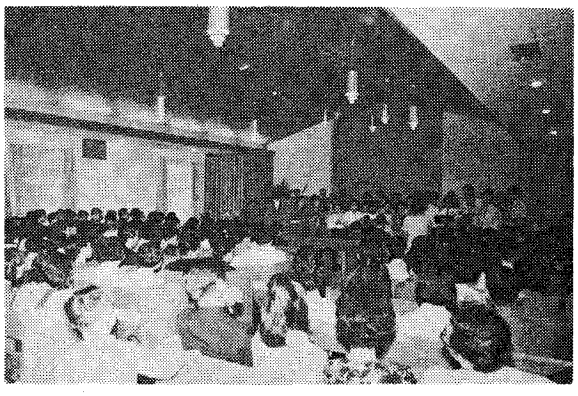
わたしたちはしばしば、自身の欲するままに律法を解釈し説明しようとします。或場合にわたしたちは他の宗派の人たちの生活を見てこの神性な律法を人間が変えたことに気付き、それを指摘します。けれどもわたしたちは、皆自分が、よく福音を自分自身の必要と好みにあうように歪め変えていることに気がつかないでいるのです。

ボイド・ケー・パーカー長老は、ブリガム・ヤング大学の学生たちへのお話の中で、この点を、はっきりと指摘しております。彼はたずねております。

〝あなたによる福音はどのようなものですか？　それを聖文の内にわたしたちに示された福音と比べたらどうなるでしょうか？　それは完全な福音でしょうか？　それとも、あなたはある本質的なものを取除いてしまっておられるでしょうか？　あなたによる福音の計画は、あなたの救いに効果的なものとして満足されますか？

わたしはデビド・オー・マッケイ大管長による福音がどのようなものであるかを知っております。何となればわたしは彼の説教を聞き、読み、彼の心を感じたからであります。わたしはまたジョセフ・フィールデクング・スミスによるまた他の兄弟たちによる福音がどのようなものであるかを知っております。何となればわたしは彼らがそれを声明したのを聞いたからであります。わたしはブリガム・ヤングの福音が本質的にどのようなものであるか知っております。何となれば私は彼に就て多く読んだからであります。そしてわたしはそれらが完全で、啓示された言葉に調節されたものであることを発見しました。けれども最も大きな発見であり、わたしを謙遜にし助けた一つの経験はある日、わたしの福音はどうであるかと考えて見たことです。わたしはあるものを省いていたことを発見しました。わたしは勝手に取捨選択していたことに於て罪を犯していました。わたしは自分にとって最も必要でありながら好きでなかったものを削っていたのでした。わたしは自分自身に、〝あなたによる福音はどうですか？〟とたずねて見るまではこれを発見することができなかったのであります。わたしは皆さんも同様にされるように提案します。（ボイド・ケー・パーカー　ブリガム・ヤング大学　一九六二年三月二十一日）

福音は人の道であります。それは任意の道ではなく特定の生きて行く道であります。その原則は、誰でもそれを受入れ愛する者によって創造的に用いられるも



西中央地方部大会

のであります。けれどもこれらの原則は個人の意のままに変えられるものでもなく、まして個人的な欲望及び快楽に合せてつくろわれるものではありません。イエスは言いました。

〝そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。〟（マタイによる福音書二四・一四）

この声明を引用してヒュー・ビー・ブラウン副管長は次のように宣言しております。

〝この御国の福音〟彼が〝この福音〟と言ってただ〝福音〟または〝ある福音〟と言わなかったことは大切であります。使徒パウロはいつもはっきりと熱烈に言いました。

〝しかし、たとえわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろわるべきである。（ガラテヤ人への手紙一・八）

わたしたちはへりくだって、けれども恐れることなく、回復されたイエス・キリストの福音は、神に霊感された生きる道であり、救いの計画であると申します。それはイエスが語った王国の福音であります。それはときの絶頂の時代の模形と同様に永遠不変の完全な福音であり、救いを得させる神の力であり、ヨハネによれば、この末日にあらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために天使がたずさえてきた永遠の福音であります。（ヒュー・ビー・ブラウン　一九五八年四月大会）

ハロド・ビー・リー長老も同様に福音の計画を定義することの必要を感じ、主の言葉を参照しております。

〝命にいたる門は狭く、その道は細い。そしてそれを見いだす者が少ない。〟（マタイによる福音書七・一四）

同様にシロアムの池で盲人を癒した後で教えられました。

〝羊の囲いにはいるのに、門からでなくほかの所からのりこえて来る者は、盗人であり、強盗である〟（ヨハネによる福音書一〇・一）

リー兄弟は言いました。

それでは福音とは何でしょうか？　しばしばわたしは兄弟たちがわたしたちが望まないような言い方を口にされるのを耳にします。すなわち福音は生きる道であると、それは一つの生きる道（A way of life）ではなく永遠の生命への道であり救いの科学であります。〟（ハロド・ビー・リー　一九五九年四月大会）

これに関して聖文そのものの声明は、はっきりしております。イエスは言われました。

〝わたしは道であり、真理であり命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。〟（ヨハネによる福音書一四・六）

パウロは救主の使命に就て言いました。

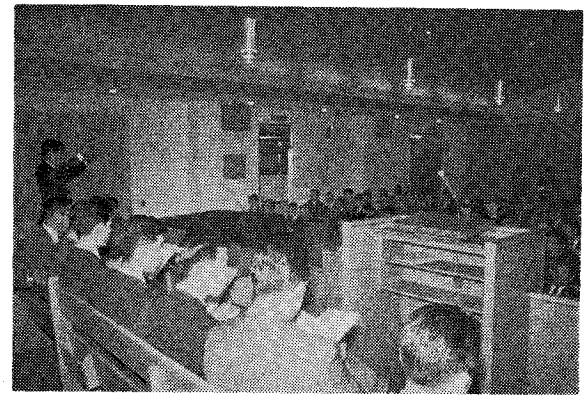
〝この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである〟（使徒行伝四・一二）

〝なぜなら、すでにすえられている土台以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである。〟（コリント人への手紙三・一一）

教会の指導者及び聖文の教えは、はっきりと（the way of life）この生きる道であると説いております。

「永遠の福音」

福音は生活の科学であり芸術であります。それは生活の科学と呼ぶことができます。何となれば科学は知る状態または行為に関することであるからであります。そして知識と知恵の重要さは福音の土台だからであります。福音の教えは永遠の宇宙の神の属性として受け継がれる真理と関係に基ずいております。福音は神の一人子、神聖な教師を通じて潔められた真理であります。



イエス・キリストの福音はまた生活の芸術でもあります。芸術は知識の創造的また実際的利用の熟練さに適用されます。実際にはその最も本質的なものは創造的なものであります。芸術家及び職人の両者から美と実用がもたらされます。天然資源と蓄積された知識、実体と理論は、うまく結合して、人生のよいものをつくりだすのであります。人がそのまわりにある天然資源からつくりだせるものに限りはありません。

自分自身をクリスチャンと呼んでいる。イエスに従う人たちは創造的で豊かな生活のため、その資源を積極的に利用する芸術家や職人と同様でなければなりません。

知識と熟練は如何に創造的知識と、熟練であっても、それは単に目的及び計画の道具に過ぎません。このことは神性な御父の計画でありその生きて行く道である福音に就ても同様に真実であります。それは幸福と達成と自己完成、言いかえれば神の息子、娘たちである人類に豊かな生涯をもたらすように計画されたものであります。福音に在って人生は脈打ち目的があり有意義なものとなるのであります。団体的、社会的、及び物質的それぞれの価値は極めて大切なものであります。けれどもすべての価値は霊的なものに導かれ、霊的なものの内に、その目的と意義を有しているのであります。

生活の科学は普通的な真理と相互関係に基かねばなりません。これはイエス・キリストの福音に対する、わたしたちの信念に全く一致するものであります。わたしたちは福音は、その根源をわたしたちの父なる神の神性な知識と知恵に有していることを固く信ずるものであります。〝福音に含まれる原則は、単に第一原則だけでなく、すべての今迄に現われたまた将来現れるであろう原則を含み、その性質に於て自主永続するものであります。それらは永遠の昔から存在し永遠に存続するものであります。何となればそれらは絶体的本質的なものであり、つくられない真理で、始めなく終りなく、昨日も今日も永遠に変ることがないからであります。

その編集の時と場所と方法に就て、若しそのようなことが起ったものと想像するなら、それが独立した法として存在するための立法手続き、整備、及び編制は神の意中にあり人間とこの世との救いと昇栄に適用されるもので人間のたずねられる領分外であります。（オルソン・エフ・ホイットニー）

福音の教えは終ることのない力を託しています。それらは生きた原則、永遠の愛の父の無限の知恵に表わされるのであります。人は神の僕以上のものであり更に友人以上のもので実に神の子供であります。人は僕であり友人であるに相違ありませんが神に親に持つ息子、娘たちとして祝福と責任を相続しているのであります。若し正しく受けるなら御父の持てるすべては彼らに託されるのであります。

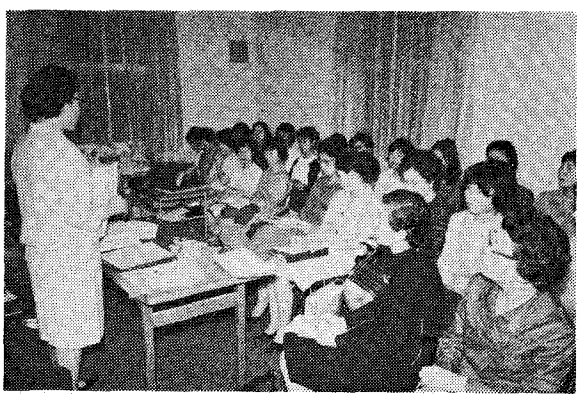
〝聖文の目的はわたしたちの父なる神と私たちとの関係、御子救主との関係また永遠の計画と私たち一人一人の目的と、生命との関係を設定しようとするものであります。

これらの計画と目的は何でしょうか？愛の父はその子供たちのためにどうされようとしているのですか？　どこの父親でも子供たちのために何を望むでしょうか？　平和と健康と幸福、勉学と進歩と発見、永遠の生命そして愛する者たちとの永遠の交りであります。天上に於てもこれ以下であり得ましょうか？〝自分のかたちに人を創造された〟（創世記一・二七）御父はこの愛する者たちにそれ以下のことを計画し、目的とされるでしょうか？　神は御自分の業と栄光を〝人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり〟（モーセの著一・三九）と宣言しました。これが終局的な目的であり神が与えたところの福音のすべての目的であります。

これは人の生涯を永久に意義あるものとします。これは暗中模索している者を励まし信仰を与えるところの確証であります。これはわたしたちが世の中を生きて行くときのすべての苦しみ、すべての努力を価値あるものとし、この生涯は学ぶための生涯であることを学び、御父は私たちを試す期間としてこの世のに送り道を失うためではなく、私たちの中にある光で自らを導き、もし導かれれば自由と信仰とそして誠命と呼んでいる簡単な規則を守って達し得る最高の能力に達するのであります。（リチャード・エル・エヴアンズ）

一九五九年十月大会

人生の意義と目的は、その性質に於て永遠不変の律法及び原則に基いていることを自覚することは大切であります。そのような根底なくして永遠の進歩の計画はあり得ません。聖文はイエス・キリストの福音を軽卒に〝永遠の福音と参照しているのではありません。それらは、その律法と教訓の永遠性を、はっきりと宣



西中央地方部大会扶助協会

言しているのであります。

〝福音は神から発している原則でありますから、その創造主と同様に〝昨日も今日も永遠に同じ〟永遠不変のものであります。神は明けの星が〝相共に喜び歌う前に、あるいは人類の救いのためにこの世界が存在する前に、それを定めたのであります。このことは神の心の内に在りそれが展開されるときに人を潔め、高め救う、永遠不変の、それることのない計画として現れ、その目的は、その現れの程度に応じたある不変の救いの方法によって達成されるのであります。

福音はある生きた内在している永遠の原則であります。言うなれば新約聖書に書かれてあるものは国の地図のようなものであります。けれども福音そのものは国であります。アメリカ合衆国の地図を持っている人がアメリカ合衆国を所有していると思ったら馬鹿げております。このように人は新約聖書及び旧約聖書を持つことはできますがそれで福音を持ったと主張できません。

けれども福音は新旧両聖書に含まれていると言われるかも知れませんがそうではありません。モルモン経にもまたわたしたちが受けている啓示にも含まれておりません。それらは単なる記録であり、歴史、誡命などであります。福音は生きた内在している永遠不変の原則で神と共に実在し、時の続く限り、それが何処に展開され、現れようとも常に存在するのであります。〝（ジョン・テーラー説教集）

これはイエス・キリストの福音であります。それは〝生きた内在している永遠不変の原則であります。ジョセフ・エフ・スミス大管長が説明しているように、〝……福音は単なるよいおとずれ以上のものであります。何となればそれは永遠の真理のすべての原則を含んでいるからであります。この宇宙の何処にもイエス・キリストの福音に含まれていないような根本原則または真理はありません〟

その諸原則は宇宙の本質に相続されております。それが積極的な成長と達成を目指す行為の計画に律法化されるときに永遠の進歩の神性な計画となります。限りあるこの世に住む息子、娘たちに対する神性な愛の父の目的は、この永遠の律法の模範の内に含まれ計画されます。そこで福音の諸原則は永遠の真理に形成されるのであります。ただ人がそれらを自分自身の目的に歪めると、そのりんかくを自身の貪欲さ、わがままさの内に、漣然としてしまうので、それらは心の中にもうろうとなり、ある場合には失われ、忘れられてしまうのであります。

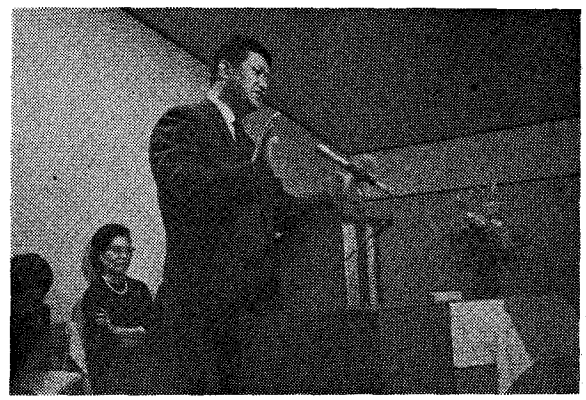
真理だけが、永遠の真理のみが事実と相互関係を率直に、はっきりと声明しているのです。それ自身は善でも悪でもありません。その用い方によって善くも悪くもなるのです。知識は力だとよく言われますが、けれどもその知識が建設的に使われた時にのみ正しい力となることができるのであります。福音は積極的な行為の計画であります。神は人間の福祉と進歩のために根本的な永遠の真理と宇宙の律法から福音を形成したのであります。これが福音はこの生きる道（the way of life）であって一つの生きる道（a way of life）ではないわけであります。それは相続された律法、永遠の原則を、生きて動く現実生活にもたらしたものであります。それを通じて人々は、神の息子、娘として完き姿に成長することができるのであります。

〝神の子の福音に結びついている原則で永遠性を持たないものはなく永続しないものはありません。そしてわたしたちは神と聖い天使と多くの人々の前で罰の苦しみを受けることなくして正しい原則をふみにじることはできないのであります。福音の原則は永遠であります。それらは世の創られる前から或永遠の律法に従って、全能者により構成されその根源があるのです。ですから福音は永遠の福音と呼ばれるのです。（ジョン・テーラー説教集）

「生きた福音は生活するための福音である」

地球はいかに偉大で素晴らしくても創造の目的ではありません。主は自ら〝……わが栄光は人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり〟（モーセの著一・三九）と云っておられます。そして人は神性な賜の自由意志を行使するときに、義務が伴うこと即ちこの神性な目的を達成するに当って創造者を助ける責任のあることを感ずべきであります。

人生の真の目的は単に生存するだけでなく快楽でも名誉でも富でもありませ



北海道地方部大会

ん。人生の真の目的は神の霊感の導きの下に各人の努力によって人間性を完成するにあります。

真の人生はわたしたちの内にある最上のものに応ずることであります。ただ食欲、快楽、誇り、富をつくることに生きて、善意、親切、清潔、愛、詩、音楽、星、神そして永遠の希望に生きない者は真に生きる喜びを知らない者であります。（デビド・オー・マッケイ大管長　一九六三年十月大会）

イエス・キリストの福音は単に所有すべきものでしょうか。それとも生活すべきものでしょうか？　これはあなたは福音を信じますかそれとも、福音に信仰を持っていますかとたずねることになります。信仰は信行でありますから福音に信仰を持った者は福音を実践しなければなりません。福音を持つだけで用いないことは信念を表現するだけで信仰の積極的な原則ではありません。

あまりにもしばしば福音は単に宝物として取扱われ個人的な生きる道と見なされませんでした。それを論じまたは教える人はあまりにも非個人的な方法で提供しました。彼ら教える人は講義で画廊の絵画を見せたり、蒐集した中から傑作品を陳列したりするようあります。その美しさは討論され、その機構は解剖され、その真理は擁護され、それを所有しましたが観賞のみで実生活には入りませんでした。福音とその真理を信じ受入れ所有することすべては必要であります。が、それだけでは不充分です。福音は単に信じまたは受入れまたは所有するだけのために与えられたものではなく、実践するために与えられたものであります。

ベンジャミン王はニーファイの民に最後の大いなる教訓を与えた時に彼らの信念を生きた力ある信仰にしなさいと訴えました。王は若しお前たちが神の善意を知り信仰を持ち続けるならば、この信念を生きたものとすると言いました。

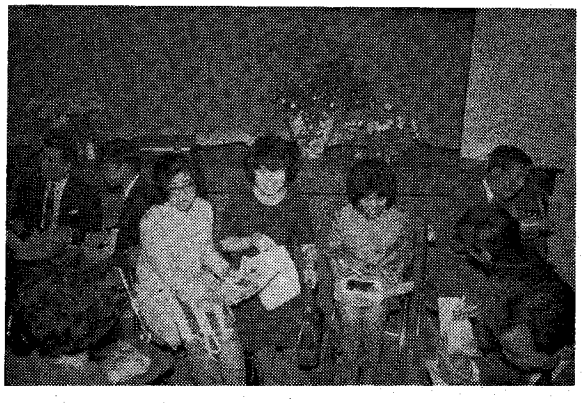
〝神を信ぜよ。神がましますことと、神が天地の間の万物を造りたもうたことと、天でも地でも全知全能であることを信ぜよ。また人間は主の悟りたもうことを、ことごとくは悟れないことを信ぜよ。

重ねて言う。お前たちはその罪を悔い改めその罪を捨てて神の前にへりくだらなくてはならないことを信じ、神がお前べちを赦したもうように真必から祈れ。もしもこれらをみな信ずるならば謹んで実行せよ。〟（モーサヤ書四・九―一〇）

〝もしもこれらをみな信ずるならば謹んで実行せよ〟これこそ世紀を通じて予言者や指導者たちの主要な勧告であります。彼らが言い、今日わたしたちが理解せねばならないことは、福音はわたしたちの生活に個人的な意味を持たねばならないということであります。人は福音のすべての事実を知ってしかもその事実に反した生活をすることができるのです。

生徒は〝正直は最上の政策である〟と学んでからも試験でカンニングをするかも知れないのです。〝知る〟ことは必ずしもなすことを必要としません。知識が生ける人に結びついた時、静止している信念が動的な信仰となった時知識は行動となって現れ、福音は実生活の中におりこまれるのであります。〝苦闘することは自分自身のものでなければなりません。誰も他人のために行為を学んでやることはできません。人は知恵または学問または人格の美しさを賜物または相続として獲得することはできません。或人の父親または遠い先祖が或一つのまたはそれ以上の分野に於て、非常な努力を以て傑出した業績をおさめたかも知れません。けれどもその人はどの先祖またはすべての先祖たちの業績にも預ることはできないのであります。ここでまたはどこに於ても、人は自身の努力によって自分自身を完成せねばならないのであります。そして自分自身の働らきによってもたらした業績以上に上ることはできないのであります。ここに霊感された子供が秀でた父と同様に傑出できる唯一の道があります。それは父が彼自身を高めたと同様の行程を以て、障害を克服し、落胆せずに徳操を培い、たゆまず目標に向って進み、自ら自己完成することであります。その他に道はないのであります。

同様の律法が宗教的または霊的生活をも支配しておるのであります。わたしたちは自ら苦労して働らかずして美しいまたは完全な生涯を打建て或は組立てれると保証されないのであります。そしてすべての宗教の目標は生涯の完成であります。完成へ導く処の実行を通じてのみそれは達成されるのであります。（アルバ



ート・イー・ボーウェン　一九四八年四月大会）

福音が実践するためにつくられたものであるなら、各人は自分自身で実践し生活することによって、それを見また感じなければなりません。事実と情報だけでは不充分であります。それらが効果的なものとなるには若いアルマが発見したように先ずそれらが個人的な意義を持ち、その人の達成に導く洞察力に発展せねばなりません。

〝……人はみな神によりて生れ、その墜落したる肉欲の有様より義しき有様に移り、神に贖われて神の息子または神の娘とならざるべからず。

かくて人は新なる者となる。しからざれば決して神の王国に住むことを得ず〟（モーサヤ書二七・二五―二七）

学問、成長、進歩、達成、及び救いでさえも学ぶ人の内に何か生じた時にのみまた事実、知識及び情報が個人的に意義ある力となって人に入ってきた時にのみ、もたらされるものであります。そこで〝生きた福音〟は内に燃えるような個人的な経験、生命の機能、永続する永遠の価値の達成へと挑むのであります。

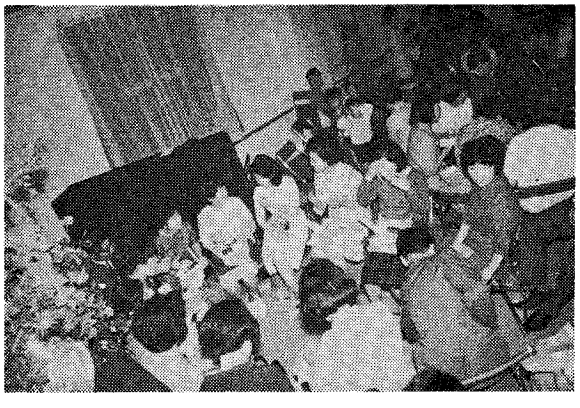
知覚は個人的また私的なものであります。福音は各個人の生活の中に探究された時に個人的な意義を持つのであります。そしてそれが隣人との交際、意志の疏通に生きた要素となった時に極めて重要なものとなるのであります。

〝学ぶことは個人的な意味の探究または発見である〟と言われてきました。若しこれが真理であるとするならイエス・キリストの福音を学ぶことはその福音の中の個人的な意義の探究及び発見に相違ありません。

イエス・キリストの福音を〝生きた福音としてはっきり理解し、その変貌させる力が、いかに人々の生命に作用しているかを見るためには、わたしたちは美しい概念から動力的な生きた現実的なものに変えている要素に注目せねばなりません。それは行動の要素であります。福音の原則は永遠なものであります。福音の計画は神の恵みによって御子イエス・キリストを通じて惜しみなく人に与えられた賜であります。けれども福音の光の内での人の完全な救いはその人自身の積極的な行いを必要とするのであります。各人が福音の光の内で自分の救いのために働らかなければならないのであります。キリストの言葉に、

〝わたしにむかって「主よ、主よ」と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけがはいるのである。〟（マタイによる福音書七・二一）

わたしたちはしばしば知識がわたしたちの探求や努力の究極の目的であるかのようにふるまい、知らされたらそれで充分であるように行動します。わたしたちは見て来ましたように知識だけでは力ではないのであります。知識が行動化されて力となるのであります。イエス・キリストの使命は人に福音を教えるのでなくて、福音を実践するように教えることであります。神の王国は福音を知っている人から構成されているのではなく福音を知り福音を実践する人から成っているのであります。



信仰は福音の第一原則として与えられました。けれども信仰は静止の原則ではありません。静止の状態は信念であります。けれども信仰自体は活動的なものであります。それは人を行動させる力を持っております。今日の文学上、最も意義深い信仰の定義は、ジェームス・イー・タルメージ博士によって、なされたものであります。彼は次のように説明しております。〝信仰は必ず働きを表わさずにおかぬような信頼と確信である〟（信仰箇条の研究一三〇頁）福音のすべての大きな目標は人々の生活の内に置いて行動され達成されるのであります。これは働らき、努め、犠牲することを意味します。行動はイエスによって説明されたように知識の証明になります。〝神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものかわかるであろう。〟（ヨハネによる福音書七・一七）

福音の計画の内に於ける行為と成長が極めて大切なので、またその特権と祝福は常に働らいて得なければならないものなので、それは〝完成の永遠の行程〟とも言われます。

ここにすべての人は各々そのなした行いに従って報われるという神性な代償の律法があります。〝自分で播いた種は自

分で刈り取るのです。人生の悲劇は、非常に多くの者がキリストの教えを信ずると公言しながら実践することを怠ることであります。しかも福音の何れを見てもはっきりと実行することの必要をうながしていることが感じられるのであります。イエスのどんな教えでも目を向ける時に、それらが実行の原則として述べられてあることに気がつくでしょう。〝もし、だれかが、あなたをしいて一マイル行かせようとするなら、その人と共に二マイル行きなさい。〟（マタイによる福音書五・四一）

〝だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり予言者である〟（マタイによる福音書七・一二）

〝「隣り人を愛し、敵を憎め」と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。〟（マタイによる福音書五・四三―四四）

〝求めよ、そうすれば、与えられるであろう。探せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすればあけてもらえるであろう。

すべて求める者は得、探す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。〟（マタイによる福音書七・七―八）

聖文と今日の指導者たちの教訓には、この動力的な含みが充たされております。デビド・オー・マッケイ大管長は、信ずるところを行うことは、キリストに従うと公言する、すべての者にとって必須であると宣言しました。〝わたしたちが今日必要としているところのものは、実用的な福音であります。敵をも注目させ、尊敬させるところの尊い行為を以て説かれた福音であります。キリストの生涯は真の人間の生涯であります。キリストの福音はそれに到達する道を示しております。教会はそれを進歩させるのに理想的な手段であります。けれども真に道徳的な人格は、ただその人格ばかりでなく幸福と永遠の生命をもたらす道徳を各人の日常生活で実行することによってのみ達成されるのであります。（デドド・オー・マッケイ　一九六〇年九月インストラクター）

何年か前にヒーバー・ジェー・グラント大管長も同じように証言しました。

〝わたしたちはわたしたちのなした善い行だけの祝福を神から与えられることに早く気がつく程、わたしたちのためになるのであります。神の御業の神性に対する、どれ程の知識、霊感、証もわたしたちがその知識を実際に日常生活に実施しなかったら、わたしたちのためにならないのであります。いかなる人でもその人及び友人に役に立つのは彼の持っている知識の量ではなくて、その知識の実用であります。（ヒーバー・ジェー・グラント　インプルーヴメント・エーラ一九四二年三月）

行為、成長、達成　これらはイエス・キリストの福音を〝生きた福音〟とする諸原則であります。イエスの働らきと使命は人々に単なる教えを与えようとしただけではありません。〝わたしがきたのは羊に命を得させ、豊かに得させるためである〟（ヨハネによる福音書一〇・一〇）

第二章　責任ある自由意志――人の権威

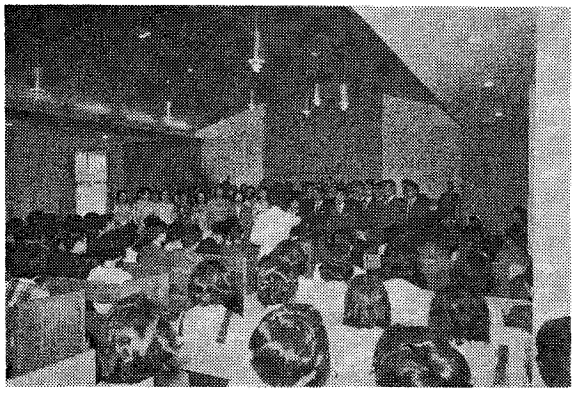
〝あらゆる真理は、神の置きたまいし範囲に於て独立し、独りにて働くなり。すべての英智もまた然り。然らざれば、存在なるものは無し。

見よ、ここに人の自由意志あり。しかして、ここに人の罪を受くる所以あり。何となれば太初より在りしところのものは人々に明白なり。然るに、人々はその光明を受け入れざればなり。〟（教義と聖約九三・三〇―三一）

〝見よ、われ汝らにすべてのことを悉く命ずるは至当ならず。そはすべてのこと己むを得ざればなさざる者は怠惰なり、賢き僕にあらざればなり。これを以て彼は良き報いを受くることなし。

われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くのことをその自由意志によりてなし、多くの正しきことをなし遂げよ。

そは人自らの中に自由の意志ありて己れのことを自らなす者なればなり。〟（教義と聖約五八・二六―二八）



第二章　責任ある自由意志——人の権威

生命に次いで人が神から受けた最大の賜は生活を治める権利であります。選択の自由は、この地上に於けるいかなる所有物よりも貴重なものであります。それは人の霊の持つ特性であります。それはすべて通常の状態にある人に与えられた神性な賜であります。貧しく生れようと或は生れながらに遺産に縛られようとも各人にとって最も尊い賜は、人が生れながらにして奪はれることのない賜自由意志であります。

自由意志は人を進歩させる推進力であります。人が神のようになることが神の目的であります。人をしてそれを達成させるためには、創造者にとって先ず人を自由にすることが必要であったのでありました。（デビド・オー・マッケイ大管長　一九五〇年四月大会）

「自由意志は永遠で欠くことのできないもの」

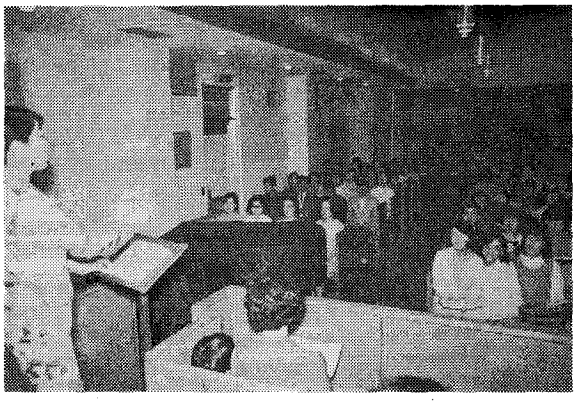
福音の含んでいる諸原則は福音それ自身と同様に永遠であります。自由意志は福音の機構に根本的に必要なものであります。これなくしては〝存在なるものは無い〟と主は宣言しております。（教義と聖約九三・三〇—三一）それは人を進歩させる推進力であります。自由意志なくしては私たちの個人的な存在の意味はあり得ません。そこには成長も進歩も、達成も、なくなるでしょう。それはイエス・キリストの福音の土台であります。

〝意志の自由と、それに伴う責任はイエスの教えの根本的なものであります。彼の伝道期間中を通じて、彼は個人の価値を強調し、神の御業と栄光を現代の啓示に表明されているように〝人に不死不滅と永遠の生命をもたらすなり〟と証言されました。自由意志の神性な賜を通じてのみ、そのような進歩は可能なのであります。（デビド・オー・マッケイ大管長　一九五〇年四月大会）

選択の自由なくして人間は機械的な存在であり生けるロボットに過ぎないのです。自由意志なくしては人は善を求めようと選ぶことができないので人を、よい方へ気を向ける目的がなくなります。人はその罪をとがめられることもできずまた当然悔改めるように言われることも出来ません。何となれば自分で道を変えることもまた、よい道に向うこともできないからであります。選択の権利なくしては人はつくられたままで、意志もなく、何をなそうと責任をとれないのであります。このことは人に罪も義もないことを意味します。何となれば自分自身の生活を変え、導き、命ずる力を欠いていたからであります。自由意志なくしては、人のための神の目的は達成されず、無に帰するでありましょう。選択の力と機会の必要なことは、リーハイによって息子ヤコブに説明されました。

〝それは、すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬからである。荒野に於て初めて生れた私の子よ、もしも物事にその反対のものがないならば、正義も不正も聖潔も憐むべき様も善も悪も生ずることができぬ。それであるからすべての物事はみな合して一つとならなければならない。ゆえに仮に万物がことごとく一体となるならば、それは生死なく滅不滅なく幸不幸なく知覚の有無もないままで一切の差別を失ってあたかも死のような有様で存続しなければならない。

こう言うわけで、万物は無用に造られたと言わなければならないし、またそれゆえに創造の結果は目的のないものであったであろう。従って、これは神の知恵とその永遠の目的とまた神の能力と慈悲と正義とを亡ぼしてしまうと言わなければならない。〟（ニーファイ第二書二・一一—一二）



選択と、どちらか選択されるという両者があることは成長と進歩の神の計画に絶体的に必要なものであり、神によってイエス・キリストの福音の中に設けられたのであります。

〝さて息子らよ、私はこれらのことをお前たちの利益と学問とになるように話す。それは現に一人の神がましまして、天も地もすべてのものを造り、天地の中の万物を作用するものと作用せられるものとに造りたもうたからである。

そして、神がわれわれの最初の両親と野の獣と空の鳥、つまりあらゆる造られるものをことごとく造りたもうてから、人間の行末にかかわる永遠のみこころを成就したもうためには、物事に必ずその

反対がなくてはならなかった。すなわち禁断の実に対しては生命の木があってこれは甘くかれは苦かった。

それであるから、主なる神は随意に行う自由を人間に許したもうた。しかし人間はもしもあれに誘われこれに誕われなければ、随意に選び行うことはできないのである。〝（ニーファイ第二書二・一四―一六）

アダムの堕落と人類がこの現実の世界へ来たこととはそれぞれ神の御計画の一部であります。人間は善悪の相違を学ぶべくこの世に来て、その知識を通じて正義を選ぶに必要な霊的成熟を得るのであります。福音の律法は永遠の原則に基ずいていますから正しい選択は永遠の価値をもたらすからであります。個人としてわたしたちは皆、誠命によるだけでなくどちらかを選んで自分の生涯のものとせねばならないので、これらの原則に調和するように学ばなければならないのであります。このことをリーハイが彼の子供たちに指摘したことは、神性な計画に従ってなされたことでした。

〝しかしながらごらん、万物は万物を知る者の全智に由って成った。

アダムが堕落したのは人類を生ずるためであり、人類が現世に在るのは幸福を得んためである。

そして時が満ちると、人間の始祖の堕落の結果から人間を贖うためにメシヤが来りたもう。人間たちはその始祖の堕落の結果から贖われるから、すでに永久に自由となって善悪を弁え、ただ大いなる終りの日に、神の下したもうた命令に従って律法が定める罰を受けるほかには何事も自分の心のままに行いほかから強いられることはない。〝（ニーファイ第二書二・二四―二六）

デビド・オー・マッケイ大管長は自由意志は人の霊の持つ特性であり〝正常の状態にあるすべての人への神性な賜である〟と宣言しました。この自由意志の最も重要なこととは聖文のどこにでも見られます。これは聖文が前世のできごと、ほんの少しではあるが、就てわたしたちに与えた中心課題であります。それは神性な父によるわたしたちの自主権の擁護を感動的な表現を以て堂々と告げております。それが神聖な記録にのせられてあるそのままを読んで見ましょう。

〝さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英知たちを見せたまいたりき。しかして、これらすべてのものの中には、高貴にして偉大なるもの多くありたり。

神これらの霊を善しと見たまい、これらの霊の中に立ちて言いたまえり、これらの者をわが統治となさん。神、霊なりしこれらの者の中に立ちて、これを善しと見たまいたればなり。しかして、神われに言いたまいけるは、アブラハムよ、汝はこれらの者の一人なり。汝は生れざる前に選ばれたり、と。

これらの者の中に、神のごとき者一人立ちて共に在りし者たちに言いけるは、われら降り行かん。かしこに空間あればなり。しかしてこれらの材料をとりて、これらの者の住まうべき地を造らん。

しかして、これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らがなすや否やを見ん。

しかして、最初の位を保つ者は更に附け加えられ、最初の位を保たざる者は、最初の位を保つ者と同じ王国にて栄を得ることなからん。しかして、第二の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭に附け加えられん。

主宣いけるは、われ誰を遣わさんか。一人、「人の子」のごとくに答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ、と。別の一人答えて言いけるはわれここに在り、われを遣わしたまえ。主宣いけるは、われ先の者を遣わさん。

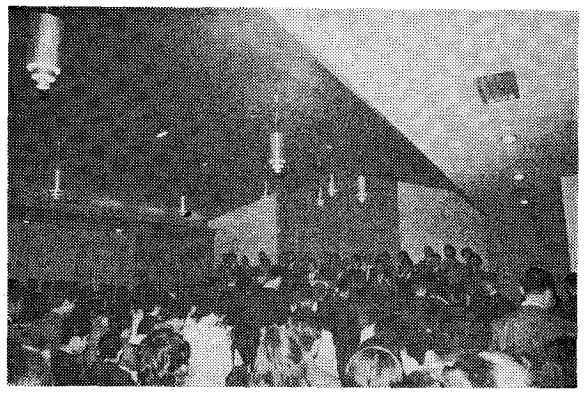
しかして、第二の者怒りて、その第一の位を保たず。しかしてその日多くの者たち彼の後に従えり。〝（アブラハムの書三・二二―二八）

〝さて矢では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、竜と戦ったのである。竜もその使たちも応戦したが

勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。

この巨大な竜、すなわち悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。〝（ヨハネの黙示録一二・七―九）

〝われ主なる神、モーセに語りて言いけるは、汝がわが生みたる独子の名により て退けと命じたるかのサタンは大初より在りし其者なり。彼わが前に来りて言い



西中央地方部大会

けるは、見たまえ、われこの所に在り。われを遣わしたまえ。われ汝の子と成らん。われことごとく人類を贖いて一人だに失うことなからしめん。われ正にかくのごとくすべし。これを以てわれに汝の誉を与えよと。

されど見よ、わが愛しむ子、大初より選びたる者なるわが愛子、われに言いけるは、父よ、御旨の成らんことを、栄光とこしえに父にあれ、と。

これを以てそのサタンわれに叛きて、われ主なる神のすでに人に与えたる人の自由意志を滅ぼさんとし、しかもまたわが持てる権能を自らに与うべきことを求めたるにより、われわが生みたる独子の権能によりて彼を投げ落さしめたり。

しかして彼はサタンと成れり、実にあらゆる偽りの父なる悪魔となりて人を欺きだまし、以てわが声に聴き従わぬすべての者を欲するままに虜となすなり。〃

（モーセの著四・一―四）

〃黎明の子、明けの明星よ、
あなたは天から落ちてしまった。
もろもろの国を倒した者よ、
あなたは切られて地に倒れてしまった
あなたはさきに心のうちに言った、
「わたしは天にのぼり、
わたしの王座を高く神の星の上におき、
北の果なる集会の山に座し、
雲のいただきにのぼり、
いと高き者のようになろう。」

イザヤ書一四・一二―一四

〃……悪魔は、われに叛きて曰く「われに汝の光栄を与えよ。その光栄はわが能力なり」と。かく言いて、また彼は天群の三分の一をその自由意志によりてわれに叛き去なしめたり。

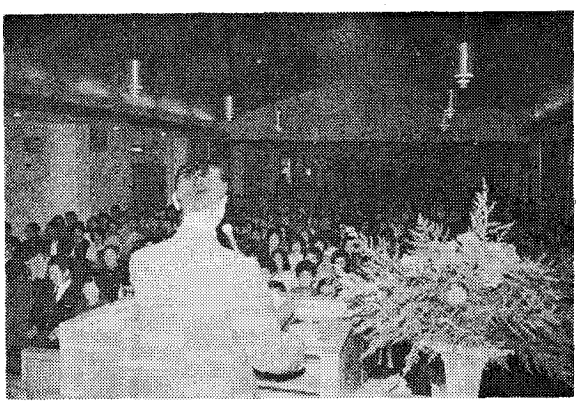
しかしてこれらのものは、皆投げ落されて悪魔とその使たちとなれり。〃（教義と聖約二九・三六―三七）

〃われらまたこのことを見てこれが証をなす。すなわち、神の御前に於て権威ありし神の一天使、御父に愛せられてその懐に在りし、神の生み給える独子に叛きて、神と御子の前より突き落され、天の衆群彼のために泣き悲しみたれば「滅亡」と呼ばる。彼はすなわちルシフェルなり。暁の子なりき。

われら、彼の堕つるを見たり。おお彼は堕ちたり。おお暁の子といえども堕ちたり。〃（教義と聖約七六・二五―二七）

この前世と天上に於ける大会議を一見すれば、神の力と人の自由意志という二つの犯すべからざる価値が立っております。究極的に分析すると人の自由意志を守っているものは神の力であります。七十人会最高評議員会のビー・エイチ・ロバーツ会長は、人の自由意志は現世に始まったものでないことを指摘しております。その意義と効果は、人間によって失われまたは歪められるか或は、より大きな力によって、犯され或はまた制限され得るのであります。けれども人が自分自身のために、自由意志を行使するように、人の自由意志を守ることが神の目的であります。

〃天上の会議に於けるキリストとルシフェルの論争は、人の自由意志即ち自由に選び行動することの重要性を強調しております。世の救主としてキリストが選ばれたことが、英知の自由意志または道徳的自由と関係し、その時につくられたと見なされることはできないのであります。それはいかなる新しい創造をも含むものではなく既に実在せるものの維持であります。誠に英知の道徳的自由は永遠に実在するものなのであります。自由は英知の属性であり、それが取り去られることはない生存のすべての喜び光栄、権威を奪い取らずしてるのです。人の自由は、その主体である英知の自由を意味します。人が通過させられるすべての位に於ける自由、神が人をして行動させるように置くすべての世界に於て、自由の特質は人を離れません。神に従うか逆らうか、喜びかまたは悲しみか、どちらの状態に入るも人の自由であります。（ブリ



ガム・エイチ・ロバーツ）

福音の教義の中で自由意志の重要性に就ていかなる教会の会員の心の内にも疑問があるべきではありません。これなくしては悔改めの原則、善悪の概念、救い及び進歩の計画すら無意味になってしまいます。自由意志は根本的に必要なものでなくして、いかなる英知もその定められた神の息子、及び娘としての目的に致ることはできません。信仰箇条の中で、ジェームス・イー・タルメージは、福音の機構の中で自由意志の占める本質的な重要性を指摘しております。

〃人間はこの世で自分の選ぶままに善か

悪かを選び取り、また主の誡命に従うか従わぬかを選び取る自由を、父なる神が人間に授けたもうた譲り渡すことのできない権利の中に受け嗣いでいると言うことは、聖典の中できっぱりと示されている教義として当教会が教えるところである。

この権利は神自身が最も警戒厳重に護りたもうている。というのはすべて神が人間を取扱いたもう時に、神は親としての勧めと指図とを越えて強制的に或いは無理に強いることなく、人間に自由に選び自由に行動するように許しておきたもうからである。まことに、神は誡命を与え法度を立てたもうて、これに従う者には祝福を与えこれに違反する者には罰を与えると約束したもうたが、人間はこれらを選ぶ自由を束縛されてはいない。この点に関し、人間はただ罪のきづなに縛られて意志の力と身も霊もの力を失っているだけであって、そのほかは天の使と自由なところは異らない。〟（ジェームス・イー・タルメージ　信仰箇条の研究六七頁）

神が人間の自ら自由に選ぶ権利を神聖に守っておられるという確信は明白に美しく、よく知られた詩に表明されております。

いかなる人生を選ぼうとも
いかなる人になろうとも
すべての人は自由であることを知りなさい
神は天より人を強制し給わず
この永遠の真理は与えられました。
神は人を召し〝すすめ、大しくさんびするでしょう。
そして知恵と愛と光を以て祝福するでしょう。
はかり知れない好意と思いやりの内にけれども決して人を強制しません。
（ウィリヤム・シー・グレッグ）

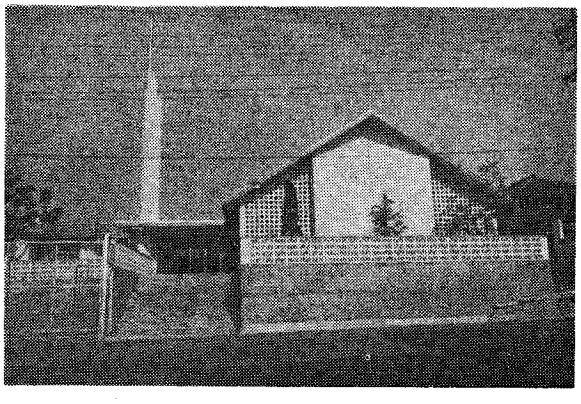
「自由意志は自由の中へ」

自由意志と自由の用語は時としてあいまいに、同じことを意味するかのように混同して使用されております。この二つは密切に関係しておりますが、なおその意味は異っております。自由意志は、わたしたちが個々人として、わたしたち自身のために選ぶ、ほんとうの機会と能力を持っていることを表示しております。わたしたちは二つまたはそれ以上の内で何れかを決められるのです。けれども自由と言えばわたしたちの選びに従って行動する能力と機会であります。自由に二つの種類、即ち〝から〟の自由と〝へ〟の自由とあります。誰でも勝手に不正に課せられている、例えば欠乏、抑圧、怒怖その他から自由になろうとしております。けれどもたとえわたしたちがこれらから解放されても或はそれに直面していても、最も大きな自由は、〝へ〟の自由であります。このようなわけで、わたしたちは、自由意志とは、可能などちらかを選ぶ権利、能力、機会であるということができます。

例えばあなたは、ピアノを奏くことを選んだとします。けれども若しもあなたがピアノを奏いたことがなかったとするなら、いかに音楽が好きでも、ピアノの奏き方を知りません。そして今あなたが奏くことを選んでもその選択を行動に移す知識と技術に欠けているので効果的な選択とはならないのであります。

けれどもなあたはピアィを奏くことを、習おうかどうしようかという効果的な選択をすることができます。若しあなたが習わない方を選ぶならそれで終って、それ以上何をなす必要もないのです。ほとんどの否定的な選択がこの通りであります。けれども若しもあなたが習うことを選ぶなら即ち積極的な選択をするなら、あなたは必要な訓練と準備を受けねばなりません。あなたは音楽の知識を得、何時間も実習し、その技術をおぼえ楽譜を読めるようにならねばなりません。そしてあなたはいつか新しい自由を得るでありましょう。そこであなたはピアノを奏こうか、奏くまいかどちらでも行動に移せます。あなたの音楽の習得は、以前にあなたが持っていなかったところの自由をあなたに与えるでありましょう。

自由意志は或意味で道路の分岐点に来たようなものであります。若しもどちらの道も閉められているか或は一方だけが開かれている場合に、道の選択はありません。効果ある選択は、二つのまたそれ以上の行動できる道がある時にのみもたらされるのであります。門は開かれているといっても選択それ自身がわたしたち



阿倍野支部

を選んだ道へ伴うわけではありません。只行動だけがそうするのであります。わたしたちは自分の選んだ道を、急流を渡り、丘をよじのぼる恐れを退けて進んで行かねばなりません。道は歩かねばならず、ピアノは奏かねばならず、人生は生活せねばなりません。自由意志は行動する道を選ぶことであり自由は行動そのものの遂行であります。

人の自由は行動できるよう常によく準備することによって成長するのです。先日わたしは、南カリフォルニヤの大学の校庭に立って、オリンピック出場のために訓練をしているアメリカ合衆国のオリンピックチームを見学しておりました。見事な力強い熟練さ、その素晴らしい練習ぶりを見ていた私は、それと同じようにできるようになりたいものだと強く感じました。世界最上の競技を競うことは、どんなにすばらしいことでしょうか！　でもわたしは自分にはそのような才能がないのだと自ら慰めました。

わたしは一人の監督に近ずいて「このような才能を持っているのは素晴らしいことですね」と話しかけました。彼は答えました。「お考え違いにならないで下さい。アメリカ中にはこれらの選手たちと同じ体格、いなそれ以上の若者が何千何万ております。この人たちが持っている他の人が持っていないところのものはなすべきことをなす意欲と決意であります。あなたは、二番になろうと三番になろうと或は十番になろうと、それを永久に続ける決意を持たねばなりません。これらの人々は勝利者として出発したのではありません。彼らは彼らの道を頂点迄苦働して闘いとったのであります。彼らは訓練し、練習し更に訓練し続けたのであります。誰も自分自身を一番に望める人はいません。それは勝ちとらねばならないのです。ただ一度だけでなく、続けて勝ち取らねばならないのです。

これらの人たちは行動すべくを準備した人たちであります。彼らは望みを持っただけでなく、選択し、知識と熟練を得たのであります。それに加えて彼らは実行力というはかり知れない宝を得たのであります。その模範は、はっきりしております。ずっと以前に彼らは選択しました。それから無限の時間を費して一生懸命練習をしたのです。そしてだんだんと熟練して自分自身を世界最上の競争者に立向わせる迄に準備したのであります。彼らの達成は選択と、習得であります。それで彼らはオリンピックチームとなったわけであります。

宇宙で最高の価値あるものは人間の人格であります。福音は各個人の無限の能力を強調しております。神は人を制限しません。人が選択と行動によって自分自身を制限しているのであります。もう一度わたしたちは内にあるわたしたちの鍵をふりかえって見ましょう。〝神は人が求め受けられるすべてのものを与えるのであります〟

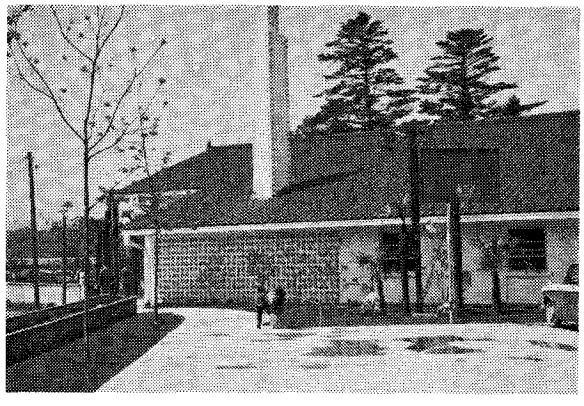
近代の聖典は成功のいろいろの段階に達成した者に永遠の報賞が待っていることを告げております。その可能性を達成できなかった人に就て聖文は告げております。

〝しかして、残れる者たちもまた生くべしといえども、彼らはまた再び自らの場所に帰り、その受くべかりしものを進んで受けざりしにより自ら進んで受くるところのものを受くべし〟（教義と聖約八八・三二）

教義と聖約七十六章はイエス・キリストの福音を人の生きる道として選び、その選択を行動に移した人々に就て告げております。若しも選択するだけでよいのであれば、この地上の、無数の人は日の栄で住まうことを喜んで選ぶでしょう。けれどもこれらの一部分の人しかこの王国に入るための行動を自ら準備しないのであります。それは丁度ある者が音楽家になろうと決心したけれどもならなかったのと同様であります。この点をはっきりして下さい。自由意志を行使する選択は福音の計画に於て各個人にとって本質的なものであります。けれども選択は達成への自由の入口、自覚への第一歩に過ぎません。選択は計画であり、わたしたち各人の人生の青写真であります。只実行を通してのみ選択そのものが生きるのであります。

この地上にくることは天国に入り天父と御子の御前に永久に栄えて行くべき人生の目的へ向って永遠に進歩するため天上の会議で始められた計画の大切な一部であります。

来世への必要なすべての準備は、今わたしたちの生きるこの世でなさねばならないのです。そこには適用されねばならない或条件があります。原則が受入れら



群馬支部

れ、儀式が受けられ、誡命が守られ、律法が従われ犠牲がなされ、奉仕がなされ家族関係が形成され、わたしたちは神の口から出るすべての言葉に生きなければならないのです。わたしたちは、わたしたちの主なる神を全心をもって愛し、隣人をわたしたち自身のように愛さなければならないのです。（ジョージ・エフ・リチャーズ　一九四七年十月大会）

このようにイエス・キリストの福音を選んで、わたしたちはこの選択を行動を通して、わたしたちの生活に実際に効果的なものとするのであります。それはリー長老が言ったように、生きかたではなく実際に決った生きる道であります。

〝されば、われら重ねて証をなす。すなわちわれら眼にて見、耳にて聞きしゆえなり。しかして、これはすなわち正しき者の復活によりて出でくる者たちに関するキリストの福音の証なり。

これらの者は、キリストの証を受け入れ、その御名を信じ、その葬られたまいしように従い御名によりて水中に沈められてバプテスマを受けし人々なり。こは主の与えたまいし誡命によるものにしてすなわち、かく誡命を守ることによりあらゆる彼らの罪を洗い潔め、聖霊を授くる権能を結び固められ按手聖任せられたる者の按手によりて聖霊を受けんためなり。

しかして、これらの者は信仰によりて打ち勝ち、御父が正しく且つ真実なる者に皆注ぎたもう約束の聖き「みたま」によりて結び固められる。〟（教義と聖約七六・五〇―五三）

この啓示が語っている人たちは選択の岐路からその決心を達成へと運んで行ったのであります。そしてこの選択は積極的な正しいものでありまた福音を形成している永遠の原則に適うものは、正しい報いを受けるのであります。これらの人は神が与えようとするものを進んで受けようとし、また受ける能力のあるものたちであります。彼らは聖文が語っているところの〝なす〟また〝なる〟自由を持っている者たちであります。

〝御父はこれらの者の手にすべてのものを与えたまい。

また、彼らは御父の無上完全と御父の栄光とを受けたる祭司にしてまた王たるなり。

このゆえに、すべてものは皆彼らのものなり。生けるも知ねるも、現在のものも、はた未来のものも皆然り。すべては彼らのものにして、彼らはキリストのもの、キリストはまた神のものなり。

このゆえに彼らはすべてのものに打ち勝たん。〟（教義と聖約七六・五五―六〇）

責任ある自由意志が真理と勉学と結合して創造的なものとなります。〝このゆえに彼らはすべてのものに打ち勝たん〟は漠然とした約束ではありません。それは福音の目標〝進歩の計画〟の個人的な達成を通じての真実の自覚であります。

「心の自由」

心の自由なくしては真の意志の自由はありません。丁度教会が〝神の栄光は英知なり。すなわち、光明と真理なり〟（教義と聖約九三・三六）と教えているように、それはまた人の権威は彼の自由意志を理知的に創造的に用いることにあるということを教えております。心の自由は根本的なものであります。人は正しい選択をもって成長します。〝自由意志は人を進歩させる推進力であります〟進歩は経験と勉学からもたらされるもので学ぶことは意義を探究することであります。各人が理知的な目的のある生活にその意義を発見するのであります。

心の自由と目的のある積極的な生活との関係に就ての一つの偉大な表現が国民教育協会の教育政策委員会によって〝アメリカ教育の主要目的〟と名づけられた本の中に与えられました。この声明は個人の自由の要求に就て論じております。

〝自由が個人を高めるものでこれによって社会の価値が判断されるのであります。それは広範なものであります。

自由に必要な条件はこの自由を擁護する社会機関と、自由を成立させている個人的な委託を含みます。この何れもが自由社会を構成する個人個人の上に在るのであります。これは心の自由であります。

心の自由は各人が自分自身のために発展させねばならない条件であります。この意味に於て誰も自由に生れた者はありません。自由社会はすべての人が心の自由を達成するような機会を持ち奨励されるような環境をつくり出す義務があります。この目的が達成されるにはその要求が明記されねばなりません〟（アメリカ教育の主要目的　一九六一年　三頁　国民教育協会、教育政策委員会）

各人が自由意志を持った存在であることを自覚して自分自身の心の自由を達成することに主要な役割を果すべきであります。この自由を達成する条件は次に与えられております。

自由になるために、人は自分の選択と行動を自分自身の達成した理解と評価に基かせることができなければなりません。人は提案を受入れるところの基礎が真実なものであるべきことを自覚せねばなりません。人生に対する価値観その根拠、その成果を理解せねばなりません。また他の人は異なった価値観を持っているいとを認めねばなりません。人は自分を見出しその前にある諸問題を解決するような状態を分析できなければなりません。人は生涯のできごと、及びそれに作用し、形成しているところの時間と力を知覚し理解せねばなりません。人は時間と環境が実際に人の選択を制限していることを認めねばなりません。自由人は要するに自分自身と環境及びその相互関係を合理的に把握できる人であります。

心の自由を伸ばす機会は各個人個々のために備えられてありますが、そのような自由の実際の達成は、各人によってのみ人の内に達成されるのであります。これは人が自分自身の価値をつくり出していることを意味してはおりません。むしろ価値と関係を見出して、それらを自分自身の生涯のために創造的に目的あるように用いることを学ぶのであります。

〝人は考え選ぶ自由を持っております。そしてその自由はその個人の内、及び周りの両方の状態に根ざしたものでなければなりません。社会の二重の役割は、必要な環境を保証し、必要な個人的な力を伸ばすことであります。個人的な力は思索と自覚及び審美的感覚と道徳的責任と啓発された心の容量から湧き出てくるものであります。〟(同上四頁)

価値の知的な理解に就てこの重要な報告は更に理知的な思索と行動を結合させております。

〝自分自身の価値を理解し、評価している人は最もよく、その上に行動しているようです。自分の価値が自分にとって貴重なものであることを学ぶと同時に、客観的によく他人の価値をも認めます。この認識を以って価値の重要性と責任感を深めます。

自分自身を理解しようと、つとめる人は、他人が自分と多くの共通点を持っていることを理解するでしょう。人間の内に存在する可能性に就ての理解は、すべての人に対する尊敬の念を強めます。そして他人とのつながりを認め、責任ある行動の必要を知覚するのであります。

このように理性の力が、人間の精神のすべての資質の中心なのであります。この力が慈悲と道徳的責任感の内に成長し、全体的な個性に貢献するのであります。人間の精神に対する理性の力は車輪に対するこしきのようなものであります。

この力は完全な価値ある人生に必要欠くべからざるものであります。如何なる理由があるにせよこの力を自己の内によく成長させていない者は現代社会に於て、だんだんと不利になって行くのであります。最低限の社会標準に留るかも知れませんが、どうしても充分な権威を持つことはできません。ただ各人が自分の可能性を自覚できる範囲まで、特に考える能力を成長させることが、自由と共に歩む彼の権威を完全に達成させるのであります。(同上七―八頁)

福音を教えるときに、自由に考えることがその霊的な力を強めるのであります。英知に結びつけて言われる真理の光が、永遠の価値を、賢明に意義あるように実生活に適用するようにしむけるのであります。ネルス・エル・ネルソンが、これをモルモン教の科学的見解で次のように述べております。

〝モルモン教の理想に一致するような教育はただ人を実行するように訓練することであります。何をするかとたずねられるなら、その答えは、なさねばならないことをなすことであります。ですから真の教育は、人をして社会に於て、それぞれその分担を遂行するように訓練することであります。知識は英知の半分に過ぎません。知識にとどまっているのは間違った教育であります。けれども自覚された真理は人の性格の中で強力なものとなります。それが人の心のうちに入り、直ちに生活に反応して行けば、もはやそれは人の内にあるものでなく、人それ自身となってその人の心の形態様相を変え、知識は力となり、性格あるいは知恵となりまたジョセフ・スミスが用いた言葉、英知となるのであります。このような過程だけが真の教育を表わしております。

(ネルス・エル・ネルソン　モルモン教の科学的見解)

「責任のある自由意志

ヒーレル・シルヴァは曾て宣言しました。〝わたしたちは完全な責任と矛盾しない完全な自由を信じます〟これは末日聖徒によく知られたことです。何となれば責任ある自由意志はモルモン経に再三でてくる最も大きな主題であります。

〝それであるから、あなたたちは喜び勇め。そして、あなたたちは自分の思う通りに行う自由があるから、限りない死の道を選ぶかまたは永遠の生命の道を選ぶかは、各自の自由であることをおぼえておけ。(ニーファイ第二書一〇・二三)

〝それであるから記憶せよ、私の兄弟たちよ。およそ亡びる者は自分から亡び悪を行う者は自分で悪を行う。なぜならば神はあなたたちに知識を与えて自由な者になしたもうから、あなたたちは自由であって、思うままを行うことを許されているからである。

また神は善悪をわきまえる知恵と、生命か死かを選ぶ権利とをあなたたちに与えたもうているから、善いことをして善い報いを受けるのも、また悪いことをして悪い報いを受けるのも共にあなたたちの自由であることをよくよく記憶せよ〟(ヒラマン書一四・三〇―三一)

〝「されば汝ら主の道を備えよ。万の民がその行いの善し悪しに応じて報いを受くべき時節はすでに近し。行いの義しき者はイエス・キリストの権能と譴う力によりて身も霊も救わるるを得、行いの悪しき者は、悪魔の力と束縛とに負け身も霊も永遠に神の前より断ち切らるる罰を受く」と、アルマ書九・二八

一九五〇年の大会のお話でマッケイ大管長は、わたしたちは自由意志と常に伴う責任に就て覚えねばならないと強調しました。彼が指適した、この二つは常に相互依存の関係にあるのです。人が若しある行動を自由に選択したのでなかったらその行動に就て責任をとることは正当ではありません。マッケイ大管長は「このように人の責任は自由意志に伴って作

用するものである」と申しております。

自由意志の行使に伴う責任は大小すべての人に及ぶものであります。この世の導きのみたまによる予任でさえも、自由意志の責任ある適用の下にあったのであります。

〝人間の意志は空気のように自由ですから、すべての成り行きが神によって決められていると考えることは間違っております。あなたは、わたしたちが予任を信じるかとおたずねになるかも知れません。わたしたちは世の誰よりも、それを強く信じております。わたしたちはイエスが世の墓がおかれる前に予任され、その使命は永遠に世の救主として任命されていたことを信じます。けれどもイエスはこの世においでになったときは、御父に従うか否か自由に選ぶことができたのです。若しも彼が御父に従うことを拒んだら滅亡の子になっていたでしょう。わたしたちもまた永遠の生命の原則を選ぶか拒むか自由なのです。神は多くの到来することを告げまたは予任のできましたし、これからも続けてするでしょう。けれども神が民の上にあるいは個人に大きな祝福を告げるときにはある条件の上に定めるのです。ニネベは四十日間の内に滅されると告げられました。けれどもこの宣言はニネベの住民の悔改めの上に留っていたのであります。

神は治め、すべての神の子たちを神御自身と同様に自由に善または悪を選べれるようにつくられました。そこでわたしたちは、自分の働らきによって裁かれるのであります。（ブリガム・ヤング）

ウオルター・イー・ムエルダーはその著書〝責任ある社会の基〟の中で〝神に対し責任をとることは人を権威あるものとする。自由と正義が終局の問題である〟と述べ更に次のように言っております。

〝責任をとるためには人は目標、価値、標準、事実、人々及び必要を自覚していなければなりません。責任をとるためには人はこれらの目標、必要、標準、事実及び人々の相互関係を理解し、その結果可能な決定を持たねばなりません。責任をとるために、人は自由でしかも進んでしばしばぶつかる複雑な関係にある困難な選択に立ち向わなければなりません。またその結果及び犠牲を受入れる用意もせねばなりません。自覚及び理解は、想像及び心の力を必要とし選択と犠牲は意志の力を必要とします。すべてが一つになって道徳的成熟を要求しております。これらが自由をつくり、責任をとる人をつくるのです。（ウオルター・イー・ムエルダー　責任ある社会の基）

選択の自由は選択がもたらした結果に対する責任より以上のものを含んでおります。それは、よい選択をなす責任をも含んでおります。

〝だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛しあるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。〟（マタイ伝六・二四）

考えのないあわてた選択は殆んど長続きする価値ある結果をもたらしません。それぞれの決心はその必要度と重要性に従って、注意深い評価と吟味が必要であります。選択をおくらも引き延ばすことは悪く、ある場合に不適当な選択と同様に破壊的なものになります。人生は動いており、わたしたちの機会は、わたしたちと共に永久に留っておるものではありません。わたしたちは勇気と信仰を以って行動せねばなりません。そしてあわてて選びめくらめっぽうな責任をとるような決心をすることなく、正しいときに正しい場所で迅速な効果的な決心をなすべきであります。

〝きょう選びなさい〟という言葉はシケムに於てヨシュアがイスラエル人に投げかけた、挑戦の言葉でありました。これは人生に於て繰返される挑戦であります。選択は価値ある如何なる人生に於ても不断に必要とされるものであります。ヨシユアはイスラエルの車勢の前に如何に神が彼らを導き祝福したかを数えあげましたが各人が自分自身のために決心せねばならなかったので挑戦の言葉を投げかけたのでありました。

〝それゆえ、いま、あなたがたは主を恐れ、まことと、まごころと、真実とをもって、主に仕え、あなたがたの先祖が、川の向こう、およびエジプトで仕えた他の神々を除き去って主に仕えなさい。

〝もしあなたがたが主に仕えることを、こころよしとしないのならば、あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々でも、または、いまあなたがたの住む地のアモリびとの神々でも、あなたがたの仕える者を、きょう選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。〟（ヨシュア記二四・一四―一五）

決心は終りでなく始まりであります。その一つ一つが行動に、らつされねばなりません。そしてそこから新しい生活が始められ、将来の幸福と進歩へ導くことが開始されねばなりません。つまらない決心がなされ、あるいはその決心が悪く不適当かまたは誤って考えられたものであったらただ、不義と不幸と失敗とに導くばかりであります。選ぶ権利である、人の自由意志は選ぶ権利、他のすべての力と同様に、よくも悪くも使われます。けれどもすべての人の力の内で、選択の権利が最も大切であります。何となればその決心は人生の将来のすべてを決定するからであります。ポール・ウーッドリングは、この点に就て教育の主な目的を定義して次のように述べております。

〝教育の目的に就ての声明は簡単な次の一文に綴られ、それ以上述べる必要もなく、また短かくすることもありません。

自由人の社会に於ける教育の正しい目的は各人に賢明な決心をさせるように準備することで、その他のすべてのことはこれに貢献しているに過ぎません。（ポール・ウーッドリング）

賢明な決心は人生は何であるかまたその目的は何であるかに就て、明確な価値ある概念を持っているかどうかにかかっております。人生の経験を通して得た知識によって私たちは社会の力を理解し、それが私たちの生活をつくって行きます。人生を価値ある活動に導き刺激する目標を以て選択しなさい。わたしたちは知識が必要でありますが知識だけでは不充分で、その知識を実用化するために必要な、知恵、及び洞察力を得なければなりません。これらは皆福音で定義している英知、〝真理の光〟の一部を意味しているのであります。真理は賢明な効果的な選択に必要欠くべからざるもので、真理、すべての真理は福音に含まれております。オルソン・エフ・ホイットニーは福音に就て述べております。

〝それは既に知られたると知られざるとにかかわらずすべての真理を含んでおります。それは過去及び未来両方のすべての英知が合体しております。ある時期にあるいは永遠に如何なる正義の原則もまた真理も直接または間接に福音に含まれずして発見されたことはありません。それは、この世の救いの道であり。来世の昇栄の手段であります。（オルソン・エフ・ホイットニー）

人の自由意志は人がこの地上で自分自身を証明し成長、達成するための基礎でありますからイエス・キリストの福音は前世に於てこれを守ったのであります。同じ理由で福音は、現世の人の生涯を教え導こうとしているのであります。人が自由であるためには真理が必要であります。イエスは次のように言って、これら二つを彼の教えの中に結合しました。

〝……もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。〟（ヨハネ伝八・三一―三二）

理解されて、よい目的に用いられた真理は賢明な決心の基礎となります。けれども実際の選択は個人の権利として留り、選択の権利を受入れることによって、わたしたちは自ら責任を負うものとなり、わたしたち自身の選択と決心に対し責任をとらなければなりません。

〝人間は自ら善悪を選ぶ自由意志が与えられているから自分の行為に全責任を負わねばならない。善い行いの究極の結果は幸福であり、悪の結果は悲惨である。これらは破ることのできない律法によってあらゆる人間生活に伴うものである。この世には神が預め定めたもうた審判の計画があって、この計画に従って人間は一人のこらず自分のした行為について申し開きをするために呼び集められ、単に行為のみでなく自分の口から出た言葉に対して、また心の中で考えたことに対してすら責任を問われるのである。〟（ジェームス・イー・タルメージ　信仰箇条の研究　七一頁）

ニーファイは責任は、イエス・キリストの福音の中の自由意志に欠くことのできない部分であると教えました。彼は救い主の贖いの働らきは各人がその自由意志を責任を以っ実施したときに与えられるものであることを見ました。

〝そしてときが満ちると、人間の始祖の堕落の結果から人間を救うためにメシヤが来りたもう。人間たちはその始祖の堕落の結果から救われるから、すでに永久に自由となって善悪を弁え、ただ大いなる終りの日に、神の下したもうた命令に従って律法が定める罰を受けるほかには何事も自分の心のままに行いほかから強いられることはない。

それであるから、人はみな現世に於て自由であり、およそ人間のためになるものは何でも与えられる。そして万人のなしたもうメシヤの大いなる賢い仲裁によって自由と永遠の生命とを選ぶか、または悪魔は万人が自分のようにみじめになることを求めているから、その束縛と死とを選ぶか、それは全く人間の自由である。〟（ニーファイ第二書二・二六―二七）

パウロはこの原則を初期のキリスト教徒たちに次のように要約して告げました。

〝まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを刈り取ることになる。

すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。〟（ガラテヤ人への手紙六・七―八）

ある青年が曾って、この自由の概念に反対して言いました。〝主が戒を与え、それを守れば報い守らなければ罰するということにどうして選択の自由があるだろうか？〟

この青年がたずねているのは、自由ではなくわがままであります。彼は自分の選択に責任を負わず自分の好きなことをしたかったのであります。そのような考えは現実の人生に対する自由の関係を少しも理解していないのであります。神はわたしたちができることを、ただ制限するために律法や戒を与えるのではありません。神は曾て言われました。

〝われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くのことをその自由意志によりてなし多くの正しきことをなし遂げよ。

そは人自らの中に自由の意志ありて己れのことを自らなす者なればなり。従っ

て人善をなさば決してその報いを失わざらん〟（教義と聖約五八・二七―二八）

選択する力と自由は人の内にあります。けれどもその選択の結果も、はっきりしておりそれは永遠の律法の命ずるところに従うのであります。神のその子供たちに対する戒は、子供たちを宇宙の律法に調和させるにあります。この方法によってのみ子供たちは幸福と達成を見出すことができるのであります。人が律法に従うと、従順の報いがもたらされるのであります。不従順の罰は、永遠の原則に調和せず、律法を犯した結果もたらされるものであります。ただその関係を変える悔改めだけが、その結果を和らげ恵みと赦しの扉を開けるのであります。何となれば悔改めを通じて人はもう一度律法に調和させるからであります。

情け深い愛の御父なる神は無限の知恵と知識から語り、わたしたちに、その善悪の行動の結果を警告しているのであります。神はわたしたちが報いを刈り入れ人生のおとし穴をさけるように教え導き戒めておるのであります。けれどもなお選択は、わたしたち自身のものであり、同ように責任もわたしたちのものなのであります。ウィツッオ長老が説明している通りであります。

偉大な無数の力がわたしたちの身辺に横たわっております。人の能力は知識の成長するにつれて全く理解できないまでに達します。その力の相互作用に調和することが人に要求されるすべてのことであります。若しもその力が充分に理解されていなかったらそれを探求して、それらが自分に害するものでなくためになるように努めることであります。自然を楽しむことは、わたしたちの特権であり、また義務であります。如何なる生命も自然の環境に調和することなくして善びを見出すことはできません。（ジョン・エイ・ウィッオ）

子供が熱いストーブに近ずいたとき、お母さんは「ストーブにさわってはいけません。やけどしますから」と注意します。お母さんは、熱い金にふれたら痛くて泣くようになるからと子供に説明します。若しも子供がこれに従わなかったら子供をやけどさせるのはお母さんではなく、ストーブの熱であり、それをお母さんは知恵を以って注意したのです。この同じストーブが適切に用いられるときは実に有用なものとなるのです。けれども不適切に利用されるときにそれは苦痛と悲しみをもたらす危険なものとなるのであります。

子供はストーブにさわることもさわらないこともできます。苦しもさろうとするならお母さんの見ていないときにするかも知れません。子供が善か悪かどちらを選ぼうと子供は行動の結果から苦しみまたは利益を受けるでありましょう。ストーブにさわってはいけないという母親の戒は子供の自由を制限するものではありません。母親は自分の知識と経験に基いて、子供が自分自身の行為の結果から不幸になるのを救おうとしたのであります。

けれどもこの同じ子供が冷い冬の暴風から入って来て、暖いストーブを楽しく見て近より気持よく暖まりますが、やけどなどしないように賢明に一定の距離に留ります。

このことは神の誡命に於ても同様に真実であります。ジョン・テーラー大管長が言っているように〝福音の原則は永遠で、この世が存在する前からある一定の永遠の律法に基いて、永遠に全能者と共に形成され始められたのであります。（ジョン・テーラー説教集）

神が〝あなたは盗んではならない〟と言ったとき、人が適当に所有することを制限したのではありません。むしろ正当な所有物を確保するようにとのことであります。語源によれば Righteousmss（義）とは right-wiseness（正しい賢明さ）であります。あるいはまたものごとを正しい方法で行うことであります。神は律法を通じて神性な目的を達成しますが人もそうでなければなりません。

なされたすべての選択は責任を伴います。自由は人間の価値と権威の王国内の貨幣であって両面を持っております。一面には自由、人の権利と特権が刻まれてあります。他の面には責任があります。両面とも真正に深く刻み込まれてなければその貨幣は偽物であります。（ピー・イー・ケイ〝自由の反面〟）

善い選択は偶然な選択でも盲目的な選択でもありません。それは理知的で責任ある選択であります。わたしたちが日常生活で、これを際限なく用いるときに、決してその重要性を見失うべきではありません。マッケイ大管長は次のように言ってその価値を強調しております。

〝生命について人が神から受けた最大の賜は、生活を治める権利であります。貧しく生れようと、あるいは、生れながらに遺産に縛られようとも、各人にとって最も尊い賜は、人が生まれながらに相続して奪はれることのない賜、自由意志であります。〟

メルケゼデク神権者用テキスト

メルケゼテク神権テキストが新年度に間に合いませんので、この分で一月二月のレッスンをして下さい。

第一部

神権はあなたに神の協力者であることを授ける。

第一課　能力と愛の神

「レッスンの目標」

㈠神の御性質と属性の良き理解、㈡神聖な神権の所有者として、より効果的に職責を果す決意を促進することを習得する。

「序論」

あなたは自分にとり全く新しかった分野をのり越えて長い旅をしたと思われる。あなたはその旅が道中危険で点綴されていたこと、すなわち、挑戦、予知することのできない苦労、険悪な成り行き、落胆、成功、あらゆる種類のいくたの反対者やそして数えきることのできない冒険などであったことを知っている。

また、妻や子供たちを安全に自分の目標に引きつけながら、家庭を見守る責任を持っておられたと思う。道を知り給う唯一の御方の知識と能力に近ずきになると仮定して何をなさりたいと思われますか。

あなたはこのような旅にいるのです。それらは偉大な冒険です。あなたは自分の家族の責任を持ちます。あなたと妻や子供たちを自分の望まれる目標に向わすべく、知識と能力の唯一の源へと近ずくことをせねばならない。神は道を知っておられる御方です。

「レッスンの展開」

神はどのような御方

アダムの時代より、神は人類に御自身を定期的に現わされ、人の形をしており神みずからの御性質と属性を所有していることを明らかに示されました。神の人に対する優越性は、人が完全に神を理解する可能性を現在さえぎられている。しかしながら、神は人間が所有している性質や属性を人の形をしたお方として持っておられることを、私たちに知らせて下っています。

ここでクラスの教師が黒板に二つの見出しを書くようにして下さい。

○神の御性質

○各性質が示す声明または事件

ここで、クラスのメンバーは神の御性質を思い出すように、また、各人に示されたところを言うようにする。教師は黒板の二つの欄に答えを書きます。

神の予言者を通して御示しになった、神の性格と属性のいくつかを考えてみましょう。

神会の三人の御方

ジエームス・イ・タルマッヂは神会の理解のこのはっきりした声明を与えてくださった。ジェームス・イ・タルマッチ著「信仰箇条の研究」四八ページ・一九「宇宙の大管長会を構成する三人の御方はこれまでにそれぞれ人間に現われたもうた。すなわち、㈠永遠の父なる神、㈡その御子イエス・キリスト、㈢聖霊であって、これら三方が個々別々御方であり、全く別の体を各自有する御方であることは、神が人間に現われたもうたことに就いて承認された記録によって証明されている。すなわち、救い主がバプテスマを受けたもう際に、ヨハネは聖霊のしるしを認めた。また、ヨハネは自分の前に立ちたもう肉体に宿りたまえるキリストを見、キリストに聖式を執り行なった。その上ヨハネは父なる神の御声を聞いたのである。すなわち、神会の三方はその場においでになって、各自別の方法で現われたもうた。そして各々は他と全然別箇でありたもうた。後に救い主はその弟子たちに「慰め主」、すなわち聖霊が父なる神から遣わされる約束したもうたが、ここに於いて神会の三方が区別して明らかにされている。ステパノは、かれが殉教するとき天の示現を見る能力を授けられ、神の右手に立ちたもうイエスを見た。ジョセフ・スミスは熱心に主に

祈り求めている間に、太陽の光に勝る輝きの中に立ちたもう御父と御子とを見た。そして、その中の御一人が他の御一人に就いて「これはわが愛しむ子なり。彼に聞け」と仰せになった。

神は全能であられる

タルマッヂ長老は、さらに神の偉大な力について書いている。ジェームス・イタルマッヂ著「信仰箇条の研究」五二ページ・二十四

「如何に遠くとも天地万物のどの部分にも神の御手のとどかぬ所はない。「みたま」の媒ちによって、神会は如何なるときでもあらゆるものと直接に交通したもう。……神会に属する御方の感覚は無限である。またその心は無限の包容力がある。また自からをある場所から他の場所へ移す能力は無限である。今われわれが、神が体を有ちたもうことを承認するならば、神の物質性を認めざるを得ない。実際に、「物質的でない存在者」という無意味な言葉で神の状態を示そうとしている者があるが、こういう「物質的でない存在者」は存在するはずがない。

神は慈悲深い御方であられる

モーセはあるところで『主は彼（モーセ）の前を過ぎて宣べられた。『主、主あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まことの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪とがと、罪をゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさず……』」（出エジプト記三十四章六～七）といっている。心打つネヘミヤ書にはイスラエルの強情さを取分け記録の中に語っている。「……しかし、あなたは罪をゆるす神、恵めあり、あわれみあり、怒ることおそくいつくしみ豊かにましまして、彼らを捨られませんでした。……それにもかかわらず彼らは不従順で、あなたたちにそむき、あなたの律法を後に投げ捨て、彼らを戒めて、あなたに立ち返らせようとした預言者たちを殺し、大いに汚しことを行ないました。それでもあなたは年久しく彼らを忍び、あなたの預言者たちにより、あなたのみたまをもって彼らを戒められましたが、彼らは耳を傾けなかったので、彼らを国々の手に渡されました」（ネヘミヤ書九章十七、二十六、三十節）

偉大なニーファイ人の予言者であったベンジャミン王は、彼がくわしくお話ししたとき、神の御性質と属性を感じていた。「神の恵みと、ほかに比べるものもない神の権能と、智恵と、忍耐と、人につくしたもう辛抱強さとを知り……」（モーサヤ書四章六節）

この能力はあなたに何を意味するか

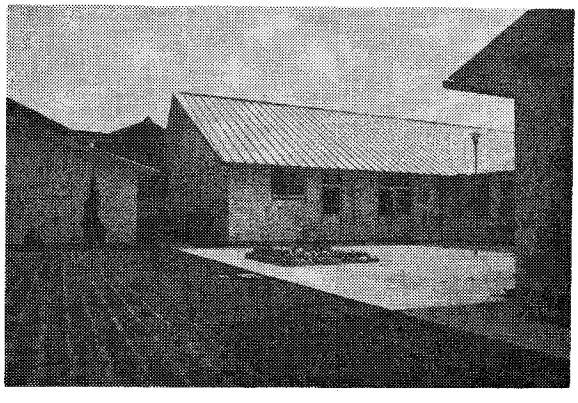
クラス内のメンバーは、彼らが神の神権を下記のように行使するときに、神の偉大な能力の智識が彼らを如何に強めることができるか説明したいであろう。

一、病いを癒やす儀式を執行するとき
二、神権の責務を履行する前に祈りに主の御名を呼ぶとき
三、家族の祈りを通して主の恵みが家族の上にあるよう願うとき

神は深遠な愛を持っておられる

神の御性質の他の現われは神の愛であります。ヨハネ第一の手紙の中で、ヨハネは神を真の愛の典型として語っています。彼はいっている「愛さない者は、神を知らない。神は愛である。神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたくしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたくしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。わたくしたちが神を愛したのではなく、神がわたくしたちを愛して下さって、わたくしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。愛する者たちよ。神がこのようにわたくしたちを愛して下さったのだから、わたくしたちも互に愛し合うべきである」と。

御父の愛、その御子の愛と二方の喜びそして人の愛と喜びに関して、すばらしい章の中で、主は主の古代パレスチナの使徒たちに述べられました。すなわち、「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。もし、わたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちによるのである。それはわたしが父のいましめを守ったので、その愛のうちによるのと同じである。わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るためまた、あなたがたの喜びが満ちあふれる



群馬支部

ためである。わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」。（ヨハネ伝十五章九～十三節）

これらいくつかの代表的な聖句の節の中で、主は御父と御子の御性質に関して多くのことがらを私たちに示しております。主は御自身が全能であること、すなわち、全権力があり、すべてのことを知っており、辛抱強く、慈悲深く、おこりおそく、愛の神であることを述べておられる。それから尚、神の子供たちをただ愛して、彼らがするあやまちを認めるだけではなく、主は子供たちに対して忍耐をしておられる。神は正義と慈悲両方御方であります。

もし人が悔い改めないで、贖いの力を通しての神のあわれみを受け入れないとすれば、聖典に神の怒と称される、義の要求に甘んじなければならない。（教義と聖約一九章十六節～一九節）

あらゆる時代を通じて神の愛は「……ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らをいくたび集めようとしたことであろう。それだのに、おまえたちは応じようりしなかった」（マタイ伝二十三章三十七節）と主がいわれたイエスの言葉の中に象像されているように明らかにされている。カルバリの丘で主は無比の重い世の罪を背負われ、人類と天父への愛とのため十字架上の死をこうむられたのであった。神は私たちのためにできるすべてのことをなさって下さり、続けてそれをして下さいます。

クラスの全員は神の模範よりいかにより良く愛することを学ぶことができるかを話し合う。

一、私たちの妻
二、私たちの子供たち
三、隣人
四、罪をおかした人
五、私たちの敵

神は私たちが神格を得るように望んでおられる

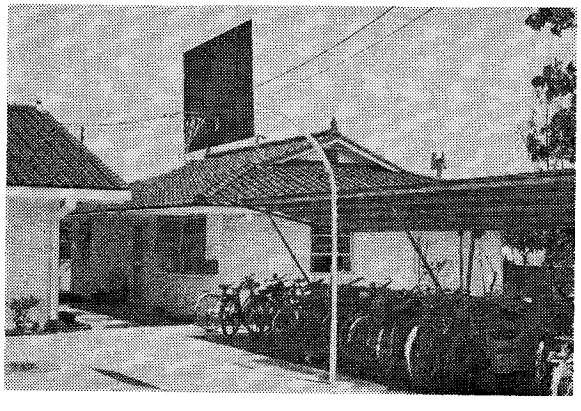
神はわたくしたちの御父さまであられる故に一つの計画、それは私たちが神さまのようになれる助けを計画なさり、提供して下さいました。神はこれわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなりと示されました。（モーセの書一章三十九節）

人間のための一般的な目標と目的に加え、主は子等が経験できうる他の明白な目標を御示しになられた。いくつかの明白なものは、すなわち、人に命を得させ豊かに得させるためであり（ヨハネ伝十章十節）、完全な者となるため（マタイ伝五章四十八節）、平安を得るため（十六章二十三節・ピリピ書四章七節）、幸福を得んためであり（第二・ニーファイ・第二書二章二十六節）、そして諸天使諸神の前を通り過ぎ神々となることなどであります。（教義と聖約百三十二章二十節）

根本的に、主は私たちが神さまのようになられることと神の栄光を分ち与えるように望んでおられます。主は「わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである」といわれました。

神は私たちが目標を達成する方法をお与えになられた

主はただ目標を私たちに教えられたばかりではなく、その目標が私たちに自覚できるような方法を備えられました。その目標は、単に抽像的な理想ではありません。それは、主を謙遜にうけ入れて、主の高邁な御教えに感謝の気持で従うすべての神の子供たちの手の届くところに在る現実に実在するものであります。人が約束された高いこの上もなく貴い特権の一つは、彼は神を知ることができるということです。主は申されました、「わたしは父にお願いしょう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。わたしのいましめを心にいだいてこそこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛するものは、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し



群馬支部

その人にわたし自身をあらわすであろう。……イエスは彼に答えて言われた『もし、だれでもわたしを愛するならばわたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一諸に住むであろう』と。（ヨハネ伝十四章十六・十七・二十一・二十三節）

主はこの世に主の福音を回復なさるため、神権を回復なさりました。あなたには神権が授けられており、御自分の特別な召しと任命を果すための特別な権利、特権、能力等が与えられている。神権は神の祝福が私たちの生活の中―あなたの生活の中に現われるであろうところの最も重要なものでありましょう。

神権保持者は婦人が神権の祝福の分け前に預るということを常に心にとめねばならない。ジョン・A・ウィッオ著「神権と教会政治」より八三ページ

ジョン・A・ウィッオーは、「神権は教会のすべての会員の益のためであります。男性は神権より流れいずるところの祝福、神権の所有に伴う祝福を受けることに女性以上の主張ができるわけではありません。

「結論」

一、クラスメンバーの各人は、神が私たち自身の内に伸ばすように命ぜられた神の性格および積極的な属性で特に自分自身に伸ばすことができると思われるものを挙げてごらんなさい。例えば、私は自分の生活の中でいかにしたらもっと慈悲深く、もっと愛することができるか。私は自分のビジネスの関係でもっと正直にできるか。他の人を助けるはずである私のより寛大さをいかに与えることができるか。自分は実真に他の人々を常に助けようと注意しているか。私の子供たちを私は正しく扱っているか。

二、来る週のあいだクラスのメンバーは神権の誓詞と誓約について読むことが望ましい。（教義と聖約八四章三十三～四十四節）

第二課

我々の神権の譲り

「レッスンのフォーロアップ」

クラスのメンバーは教義と聖約八四章三十三節～四十四節に含まれている、神権の誓詞と誓約を彼らが読んで得た意味深長な考えのいくつかを述べるよう指名される。（討論は五分以上をこえない）

「レッスンの目標」

今日神権保持者は特別な鍵と召しを供った神権の保持者として歴史上に占めるその重要性を理解しなければなりません。

「序論」

神権とは何か？　説教集第一巻二二四ページ「地上でもまたは天上でもそれは神の王国の祭事を管理し、統制すべく、神より認められたる唯一つの権能でありそれは唯一の正統な能力であり、神の法則と統治形態であります」。

それは人がこの地上に於て人類家族の救いのため、天父と御子と聖霊との名によって行動でき、合法的に行動できるように神が人に委任したところの神が持っていると同等の神の力であります。それは死んだ過去の時代からとりまたは倍りたものではなく、私たちの住む今日この時代に、直接全能の神の面前から仕える天使、上からの霊のお方によって支えられた権能であります。

「レッスンの展開」

日々の生活苦と、明らかにこの生涯に固有の煩事に煩わされて、人は或場合に容易に永遠な事柄に関するその人の焦点を失ってしまい、また、遠い将来への一連の眺望を失い、現在の事柄にのみ、とらわれがちになります。これは神権とその或局面に就ても言われることであります。人は少くとも一時的に、神権が如何に永続し作用する偉大な力であるかを忘れて、限定された範囲の或詳細または問題にとらわれがちになります。

もし人がこの世の惰眠からさめ、福音と不滅の力を伴う神権の偉大さは何物にも比較できないという認識に目覚ることができたなら、彼はそれに感謝せざるを得なくなり福音と、創造者、神に自分自身をより完全に調和させることに躍動するでありましょう。

福音は永遠である

福音は永遠であり、また、永遠より永遠であります。限られた時間、すなわち

伝道部長夫妻とハンクス長老夫妻

私たちが住むこの世は孤立した存在ではなく、完全に永遠の一部であるという事実の視界を見失うべきではない。福音は過去と同様未来を取りまくすべてのものを理解させます。私たちはある偉大な驚歎すべきことの一部であります。

この世は神の御能力により、神の霊の子供たちのために組織されました、創造のときから、アダムは聖なる神権の能力と権能をもっておられた。

アダムは最初に神権を受ける

予言者ジョセフ・スミスは「ジョセフ・スミスの教え」ジョセフ・フィルデング・スミスの集録一五七ページ「神権は最初にアダムに与えられ、彼は大管長を構成し、その福音の神権の時代から時代への鍵を持っていた。創世記一章の二十六節、二十七節、二十八節の中にあるように、創造に於いて、すなわち、この世が形造られる以前に、アダムは神権を得ていた。アダムにすべての生物をおさめる統治権が与えられた。彼は聖句に語られている、天使長ミカエルであります。次にガブリエルであるノア、すなわち彼は神権に於いてアダムの次に立ちます。ノアはこの職に神より召され、今日の全人類の父であり、彼には統治権が与えられている。これらの人たちは最初に地上で、また天上にて、鍵を持っておられた」と語られた。

あらゆる福音の神権の時代を通じ、神はその神性な作用に預り享有する機会を人々に与えられました。主は特別な鍵と聖なる神権の召により祝福されるべき多くの人々を起用しました。

鍵を持った他の人々

アダム、またはミカエルは代々神権の鍵を持っていました。ノア、またはガブリエルも神権の鍵を持っていました。主はエライジャへ「全地が咀いをもて撃たれざさんがため、先祖の心に子を思わせ子らの心に先祖を思わしむる力の鍵を託せる」（教義と聖約二十七章九節）

ペテロ、ヤコブ、ヨハネに、主は彼らがこの世に生きているその時代に伝道する鍵を託された。（教義と聖約二十七章十二節、ヨハネ伝十五章十六節を参照せよ）ペテロ、ヤコブ、ヨハネは「時満たる福音の神権の時代」私たちの福音の神権の時代の鍵をもっています。（教義と聖約二十七章十三節と百二十八章二十節を参照せよ）

ペテロ、ヤコブ、ヨハネについて、主はまた「すなわちわが王国の鍵と、終りの世に於ける、および天と地の両方にあるすべてのものを寄せ集むべき「時満ちたる」時代に於ける福音の神権の時代とを託したる……」と言われた。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーはこれらを持っていたが、しかし、彼らは王国の鍵と時権の時代とを教義と聖約百二十八章二十節の中に示されているようにペテロ、ヤコブ、ヨハネより受けました。これらの人々に加えて、特別な召しを持っていた幾人かの他の人々は特別な鍵を持っていました。勿論、アブラハム、イサク、ヤコブのエホバとのすばらしき彼らの聖約は適切な例であります。たぶん聖約の最も明らかな声明はアブラハムの書の中に記録されたものでありましょう。

「わが名はエホバなり。われは始めより終りを知る。これを以て、わが手汝を覆わん。われ汝を大いなる国民となし、汝を限りなく恵み、汝の名をすべての国民の中に大いならしめ、汝は汝の末の子孫にとり祝福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行かん。

われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに教えられ、立ち上りて汝をその父として祝福すればなり。われは汝を祝福する者を祝し、汝を咀う者を咀わん。

また汝（すなわち汝の権神）により、汝のすえ（すなわち汝の権神）による、そはこの権能は汝によりて継続し、また汝のすえ（すなわち文字通りのすえ、汝の体より出でたるすえ）によって、世界の眷族ことごとく祝福を得ん、すなわち福音の祝福にして救いの祝福、すなわち永遠の生命の祝福を得んと言う約束を汝に与うればなり」。

創造より、過去の福音の神権時代を通じて、私たち自身の時代まで、主は聖なる権神の鍵を準備なさり保護なさいました、それによって、神の子供たちが聖なる神権にまつわる権利、特権、祝福をよ

ろこぶことができるためであります。同様に、特別な召しと聖約を通じ、例えばアブラハム、イサク、ヤコブにしたように続けて神の霊の子供たちを導き祝福するため準備なさいました。これらの鍵、聖約、能力と祝福を通じまたその理由で福音は私たちに対し有用となりました。

クラスのための活動

（ここで教師は、アダム・ノア、エライジヤ、アブラハム、ヤコブ、バプテスマのヨハネ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの名前を黒板に書き、今日私たちの神権の譲りに与えた各人の役割についてクラスのメンバーにたずねる。）

私たちはアダムが持っていたと同様の神権を持っている

アダム、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、エライジヤ、ヨセフ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、モロナイや他の人々は神の聖なる神権を持っていて、神聖な影響を与える力の中にあずかる機会が全て与えられていました。今日神権を持つすべての男子は、もし彼が自分自身をこの感化力に調和させるならば、同様の機会をもつのであります。神権の中の一つの職を持っておられる各男子は御霊を大事にし、得ようとしなければならないし、自分自身の好機を無論、無益なことと考え、無関心になるようなことは決してないように努力しなければならない。

わが物の具をことごとく身に用うべし

ジョセフ・スミスへのすばらしい啓示の中で、主は、異った福音の神権の時代に於いて、神権の鍵をもっていた人々についてくわしく語っておられる。主はすばらしい戒めをお与えになられた。地上に於いて、正しく任命された、ある人のみが神権の鍵を持っているとしても、主の戒めの敷衍によるとすべての人に聖なる神権の一つの職を持つ崇高な特権が与えられております。

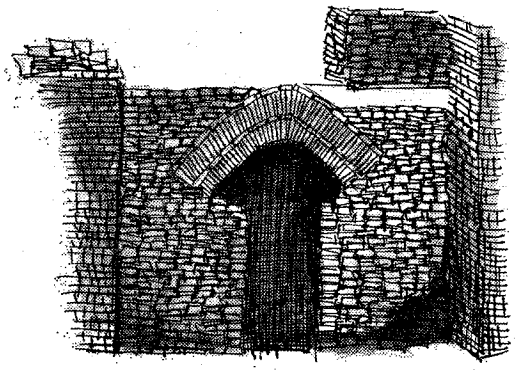
主は「この故に、汝の心をはり上げて喜べ。汝の腰を引きからげ、わが物の具をことごとく身に用うべし、汝悪しき日に遭いて立ちむかい、すべてのこと成就し立ち得んためなり。されば腰に真理の帯をしめ、胸に正義の胸当をつけ、われわれが天使を遣わして汝に託せる平和の福音もて足ごしらえをなして立ち、左手に悪しき者の火矢をことごとく消すべき信仰の楯を執り、頭に救いの兜を被り、右手にわが汝に注ぐ「みたま」の剣を執り、口に啓示の言葉を保ち、およそわれに願うすべてのものにつきては賜うところに甘んじ、わが来るまで忠信なれ。さらば汝は引き上げられて、わが在るところにも汝もまた在らん。アーメン」（教義と聖約二十七章十五節～十八節）と言われた。

ある者が神権のどの鍵でももつことはできませんが、しかし、彼または彼女は主があらゆる福音の神権の時代を通じてこれら神権の鍵を保存して、私たちの時代にこの神権とその鍵を回復されなかったら、彼または彼女が現在分ち持っている権利、特権及び祝福などが分ち与えられなかったかもしれないこの事実にこころから感謝の念をもつべきであります。

（私たちは教会の妻や子供たちが神権の祝福にあずかることを絶えず心に留めなければならない）。

進み行け、退くな

予言者ジョセフ・スミスは問うておられる。「兄弟よ、われらまことに偉なる大義に向って進まざらんや。進み行きて退くことなかれ。奮い起てよ、兄弟たち進みて勝利に至れ。汝ら喜べ大いに喜べよ。世の人、歌声を張り裂けしめよ。死者よ、王インマニュエルに永遠讃美の歌を語り出だせ。インマニュエルこそ創世の前より、われらをして死者をその因屋より贖うを得しむることを定めたまえり。そは囚人は釈さるべければなり。山々は喜びの声を挙げよ。汝ら谷よ、皆声高く叫べ。すべて諸々の海と乾ける地とは、汝らの永遠なる玉のなしたもう驚嘆すべき御業を語れ。河よ、小川よ、谷の流よ、歓びの声を挙げて流れ下れ。森よ、野の樹よ、みな主を讃えよ。堅き厳よ、喜びに泣け。日よ月よ、暁の星よ、共に唱え。神の子らよみな喜びの声を挙げて叫べ。永遠の創造物よ。御名をとこしえに宣べよ。われまた汝らに告ぐ、われら天より聞く声は如何ばかり栄あるや。その声はわれらの耳



に、栄と救と誉と不死不滅と永遠の生命と。また王国と公団と権能とを告ぐるなり。見よ、主の大いなる日は近づけり。主の乗りたもう日に当り得るは誰ぞ。……」（教義と聖約百二十八章二十二節～二十四節）

「結論」

グループ及び定員会の各会員は彼の生活の中で彼が神権をより充分に使用できる方法を彼自身しらべてみて、具体的にかかけてみると良いでしょう。例えば、たぶん彼は祝福師の祝福を受けていないかもしれない。彼は神殿に行き、神権の完全な祝福を受けるように彼自身準備していないかもしれない。彼はまた日々の決断を下すときに、彼がうけることのできる導きを求めそして得るようにしていないかもしれない。

第三課

イエスが教えられた時の神権

「レッスンのフォーロアップ」

クラスの会員たちに彼らの個人の生活の中に神権をより充分に活用できるところの具体的な方法について話すように頼みなさい。（討論は五分以上をこえないこと。

「序論」

このレッスンを始めるに当り、クラスの教師は黒板に次にかかげる名前を書き上げ、クラスのメンバーにそれぞれキリストが来られる以前と彼の伝道中の働きに対する彼らの理解を述べていただくようたのみなさい。

アロン神権
レビ神権
メルケセデク神権
大祭司

（討論は五分をすぎないこと）

さて、クラスにレッスンの討論を進めさせつつ、如何に質問に答えるか注意して見て行きましょう。

「レッスンの目標」

イエスの時代の神権の深い理解を得る

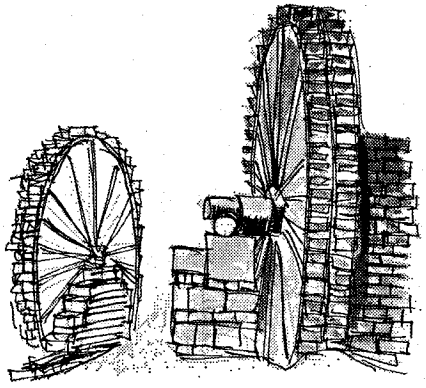
「レッスンの展開」

主はイスラエルより大神権を取り上げる。

アダムの時代からモーセの働かれた時代を通じ、メルケセデク神権を把っている方々の連綿とした系図があった。（教義と聖約八十四章六～十六節）モーセの福音の神権時代に「主はまたアロンとその子孫の末に至るまで一つの神権を確認したまい、この神もまた、神の最も聖き神権に等しきかの神権と共に連綿として代々いつまでも在るものなり」といわれた。（教義と聖約八十四章十八節）

モーセがイスラエルの子供たちに神権か彼らにとり必要であるということを知るようにまたそれにより彼らが聖められ主の御顔を拝することができるように卒直にしかも熱心に教えられたと、主は私たちの時代にお示しになられました。

「されどその民その心を頑固にしたれば、神の御前に出るに堪えざりき。故に主の憤り彼らに向って燃えたれば、主は怒りたまい、彼ら荒野に在る間主の休息に入るべからずと誓いたまえり。この休息とは、すなわち主の無上完全なる栄光なり。この故に、主はモーセを彼らの中より取り去りたまいまたかの聖なる神権も同じくなり去りたまえり。されど小神権は続きたり。而して、この神権は大使の人を助くる鍵と備えの福音の鍵とを保つ。またこの福音は悔改めとバプテスマ、罪の赦し、肉体に関わる誡命の律法の福音にして、主は怒りの中にアロンの一家と共にイスラエルの子らの中にこれをヨハネに至るまで続かせたまえり。……」（教義と聖約八十四章二十四節～二十七節）



啓示の言うように、主は彼らの中よりモーセと聖なる神権を取り去った、その意味は主がモーセと聖なる神権を取りさられた後に、だんだん神権がこの世より取りさられたということです。モーゼが去ったとき、イスラエルの中にはまだ大神権保持者がおりました。しかし、モーゼは鍵を持ち去ったので、鍵なしに唯れもが他の人にメルケゼデクの職に按手聖仕するための神限を授けることができず、それ故、この神権はまもなく人々の間よりたえることとなったのであります。

予言者ジョセフ・スミスは、メルケゼデク神権がモーゼと共に取り去られたかと問われたときに彼は「すべての神権は

メルケゼデクであるが、しかしそれには違った神より割当られたる部分と階級とがある。モーゼが神とともに顔と顔と合せ語ることのできたあの部分は取りさられた。しかし、天使らの導きと恵みの部分はとどまった。すべての予言者らはメルケゼデク神権を持っていたし、神御自身が彼らを按手聖任した」。ジョセフ・フィルダイング・スミス著「予言者ジョセフ・スミスの教え」一八〇～一八一ページ。これにより、アロン神権はその中に包含され。大神権の体系の一部であることを私たちは理解するのであります。

これをもって私たちがしるに、アダムよりモーゼの福音の神権の時代までの人々の間に連綿と続いていたメルケゼデク神権（またはその大神権の部分）はイスラエル人のかたくなさの理由で、モーゼと共にイスラエルより取り去られてしまった。それから後、イザヤ、エレミヤ、エライジヤ、メルケゼデク神権を授けられている予言者たちがつぎつぎと起ったが、全般的にイスラエル人からメルケゼデク神権がなくなり、アロン神権の管理下になった。それは、のこった神権の部分はアロン神権であります。アロンには小神権の鍵が与えられておりましたし、彼の子供たちは導きと恵みをほどこす祭司の職に召されておりました。モーゼを立ち去らせ、大神権をイスラエルの間より取り去るのを予期して、主はアロンと彼の息子たちが祭司として主にあって導きと恵みをほどこすべく、主はイスラエルの各支族の長子らを、彼らの神権の責務から解任しレビの支族の男性たちを以って、これに換えられた。そんなわけでメルケゼデク神権の鍵を保持していたモーゼ、アロン神権の鍵を保持していたアロン、そして彼と共に祭司であったアロンの息子たち、そして小神権の祭司たであったレビ人により新しい組織が構成されていたのであります。

アロンとレビ神権

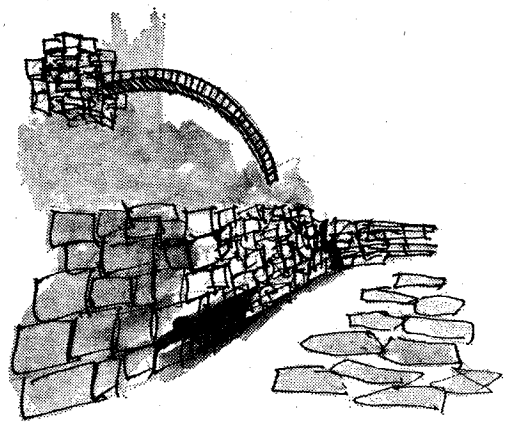
ジョセフ・フィルデング・スミス会長はアロン神権とレビ神権の召しについて語ってる。「アロン神権とレビに分れているが、しかし、それは一つの神権であります。これはただ単に神権の中のある職務を命名していることにすぎない。アロン神権を管理したアロンの息子らは、アロン神権を保持しているといわれていた。アロンの息子たちでないレビの息子らはレビ人としていわれていた。レビ人はアロン神権はもっておりましたが、アロンの息子らより下にまたは小さな資格でつかえた」。ブリウース・R・マッカンキー著「救いの教義」第三巻八六ページ

古代イスラエルでは礼拝の本源の場所は会見の幕屋でありました。なぜならばイスラエル人は多くの年月を旅するよう要求され、幕屋は持ち運びのできる建物としてデザインされた。レビ人のはこりした召しは幕屋の責任をもつことと運び方でありました。レビの責任はアロンの息子たち、または管理祭司である者より俗的なものであった。後にははっきりと聖所と祭壇、すなわち聖きところの務めをする責任をもった。（民数記十八章一節～六節）

アロンが小神権を管理している間は彼はメルケセデク神権の鍵をもっていたモーゼの指揮のもとに役目を果していた。しかしながら、エリアザル、アロンの長男は小神権の鍵をうけ、モーゼがイスラエルより取り去られてからは、エリアザルがイスラエル人への神の代弁者となった。

アロンの祭司たちとレビ人たちはそれぞれの召しに重大な争いなしに、ソロモンの死まで仕えました。しかし、イスラエルが北の王国（またはイスラエル）と南の王国（またはユダ）とに分かれ、ヤラベアム王により偶像崇拝的な礼拝を設置し、「レビの息子たちでない、一般の低い人々を祭司」とすることにより危険な状態が起りました。（列王記上十二章三十一節を参照せよ）

権能ある認められたる祭司たちは北の王国ではもはや働くことが許されず、彼らはユダの王国へ帰らねばならなくなり、その彼らの退出と共に「イスラエルの王国に於ける小神権の歴史は終ったのである。我々が知る限り、決して再びイスラエル王国に神権はなかった。ただしレビの支族は十支族の間でグループとしてアロン神権の働きをした。リー・A・パルマー著「世紀を通してのアロン神権」百六ページ



神権はユダ王国にのこる

そのうちに十支族はとらわれの身となってつれ去られ、ついに失なわれた。しかし、神権はユダの王国に有救的にのこった。いかに多くの苦難があっても、神の正統の後継者があった。

リー・A・パルマーは「アロン神権の中の大祭司の職がエリアザルの家より、イタマエルの家のエリにわたされたときを除いては、最後には、ザドクを通じてエリアザルの家に帰った。それは高い職の正統な後継者はアロンから紀元前百七五年のオナニアス三世の時代へと続いたことが現われている」と書いている。リー・A・パルマー著「世紀を通してのアロン神権」百五三ページ

バプテスマのヨハネと神権

オナニアス三世の後、続けて働く正統な祭司たちがあったが、大祭司の職は売り買いされ、別に言うとけがされた。

ヨハネの誕生は、きわ立って重要な事件であり、それは主の誕生と同様に、天使の訪問により告げられたのであります。ヨハネの父はザカリヤであり、アロン家の熱心な祭司たちの中の一人であって、エラビウス・ジョセフアス著「ユダヤ人の風習」九巻十章四節。祭壇で香をたくのをゆるされていたのは彼らだけであった。ヨハネの母はエリザベツであって、アロン家の娘の一人であった。（ルカ伝一章五節）

主は、私たちの時代に、ヨハネについて語っておられ、主はヨハネを「母の胎より聖霊に満たされる者なり」といわれた。

「ヨハネはいまだ幼かりしときバプテスマを受け、神の天使により生まれて八日目にしてこの神権に按手聖任せられて権能を受けたるは、ユダヤ人の王国をたおし、その民の目の前に主の道を直くしすべての能力を御手の中に持ちたもう主の来りたもうときのためにその民を預め備え置かんためなりき」。（教義と聖約八十四章二十七～二十八節）

ヨハネが誕生されたとき、メルケセデク神権の鍵はユダヤ人の間になかったことを思い出して見ることは意義深いことであります。

アロン神権の鍵をもっている祭司としてのヨハネの役割はその職にあった先祖たちとは異っておりました。約千五百年間、彼らは聖所の祭壇で燔祭と犠牲とをもって仕えていたのでありました。ヨハネは主の来ることを予告すると共に、すべての人々に悔い改めをさけび、福音の最初の儀式を受けさせ、ヨハネより偉大な御方、主からの聖霊の能力を受くべく準備さすことに主要な関心があったのであった。

主は山上の垂訓の中で主がおいでになったのは律法を成就するために来たのだと言われました。（マタイ伝五～六章を参照せよ）

弟子たちは神権を持った

主はときに山上で主の善訓をお与えになられた。使徒として弟子たちを按手聖任する幾月か以前に彼の弟子たちの幾人かは、祭司またはメルケセダク神権のある職に按手聖任されといた。それで弟子たちはバプテスマを施すことができるよう認められていた。

ルーベン・J、クラーク・Jr著「福音のわれわれの主」四三・五一ページ、同著者の「不死不滅と永遠の生命への道」三五八ページを見よ。

後に十二弟子たちは選ばれて、使徒に按手聖任された。カエザリアのピリポ（マケドニアの古き都）で十二人との集まりで主は天の王国の鍵が与えられるであろうと御約束なさった。一週間後、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが主とともに高き山に登られたとき、主は彼らの前で変貌され、モーゼとエライジヤ（新約聖書ではエリヤと記している）が彼らに現われた。そのとき、その場所で主、モーゼそしてエライジヤはペテロ、ヤコブ、ヨハネに神権の鍵を授けたのだと予言者ジョセフ・スミスは述べている。これらの鍵は後に全ての十二使徒に与えられた。それにより各使徒も地上で結び、天でつなぐ能力を持ったのである。（マタイ伝十八章十八節）（マタイ伝十六章十三～二十節、十七章一～十三節を参照せよ）

「ジョセフ・フィルディグ・スミス著「予言者ジョセフ・スミスの教え」百五八ページ

新約聖書には、教会の中には他の役員がいたという記録も含まれております。予言者、祝福師、七十人、長老、監督、祭司、教師、執事とよばれる人々です。ルーベン・J、クラーク・Jr著「不死

不滅と永遠の生命への道」三三〜四〇ページ及びリー・A・パルマー著「世紀を通してのアロン神権」二二七〜二三五ページ

小神権と大神権は共に奉仕する

主は古代の教会に於いて小神権のメルケゼデク神権への関係の一つの具体的な方法を述べてつぎのような近代の啓示の一節を私たちに与えられました。「もし汝らの中、誰にても「みたま」の力強き者あらば、弱きところの者を伴い、かくしてこれを至極おだやかに教え導きて以て彼もまた強くなろしむべし。

この故に、汝ら小神権に按手聖任せられたる者を伴い、汝らに先立ち行きて約束をなさしめ、その途の備えをなさしめ、而して汝ら充す能わざる約束を充たさしむ。

見よ、古えのわが使徒たちがわれに教会を樹てたる次第はかくのごとし」。（教義と聖約八四章百六章〜百八章）

あなたはいかにして小神権と共に奉仕することができるか

ここで、クラスのリーダーはクラスのメンバーにいかに彼らが次のような部門でアロン神権の会員たちと共に良く奉仕できるかたずねる。

それは……

○ホーム・ティーチング

○教会の福祉

○宣教師活動

○系図の探究

J・ルーベンクラーク・Jr・副管長は地上に於ける神の王国の神権政治の変遷を良く述べておられます。次のように書かれた。

「レビ神権は主のために道を備える目的の神権の中の使徒や、祝福師や七十人教会の管理役員と認証された神権の長老たち、地方の教会を管理する監督たち、神権を以て教える教師また執事に就ても何の預り知るところもないのであります。

これらの役員たちはレビの神権に付随していない、能力や権能を執行して、その働らきをなしたのであります。これらはメルケゼデク神権、キリスト、または教会の頭、パウロがヘブル書の中で述べている、「偉大なる大祭司、もろもろの天をとおって行かれた神の御子イエス」そして「わたくしたち信仰を告白する使徒であり、大祭司である御方」の下に働いたキリストの教会の役員たちであった。

これすべてキリスト教会の最高権能を明白にしている。主御自身も地上に居留してはいなかったので、メルケゼデクの秩序に従って使徒であり大祭司であった。これに反する言葉またはそれを変えたり、修正するどんな言葉も正典として認められている聖句の中にはない。キリストの教会はメルケゼデク神権の教会であって、メルケゼデクまたは大神権の附属として小またはレビ神権があった。しかし、モーセの律法の時代からはその神権の責務は変った。何故なれば、キリストの贖いはアロン神権の動物の犠牲やさげものを取り去ったからである」。

J・ルーベン・クラーク・Jr著「不滅と永遠の生命への道」四二〜四三ページ

「結論」

教義と聖約の八四章で主は他の事柄について教えられています。神権は人が聖められるのを助け、神の御顔を拝すること、主の休みに、または主の無上完全なる栄光に入ることを助けます。古代イスラエルの人々の態度のため、主はメルケゼデク神権を彼らより取りさられた。

あなたの定員会及びグループは他の神権保持者へ神権の能力と祝福を持ち来るためこれら次に上げる活動を考慮するよう望みます。

一、各家庭に割当られたホーム・ティーチャーを通じて、家庭内の神権者たちへの定期的な討論会を持つための計画。

二、軍隊や、大学や、または伝道で離れている方、別にいうと孤立している神権者たちに、定期的に手紙を書くプログラム。

三、ホームティーチングを通じ、定員会の不活撥会が神権会の討論会に出席するよう良き勇気づける計画。

第四課

神権回復さる

「レッスンのフォーロアップ」

左から　小松姉妹、ヒクレイ姉妹
ヒンクレイ長老、ハンクス長老、ハンクス姉妹

クラスの会員たちが他の人々、すなわち、家庭内の神権者、遠く離れている者不活撥会員たちへ神権のより多くの祝福をもたらすのにはどのような方法をとったら良いか報告するようたのまれる。

「レッスンの目標」

神権の回復の深い理解を得させ、この聖なる神権を敬うよう深大な決断を発達させること。

「序論」

あなたはかって、ある国のために働くように権能が与えられている大使や外交官の上にかかっている責任について考えてみたことがありますか。世界の大会社や工場のある一人の重役の権利、彼の上に義務としてかかっている責任について考慮してみたことがありますか。たぶんあなた自身、日々のあるいは週期的な決定を、自分自身が下さなければならない責務のある、威厳ある影響をおよぼす権利と責任が与えられている職業をもっておられることと思います。

ここに提案されている授与された権利や責任は多くのかかり合いを重大に言い表しているし意味しております。しかしながら、神の聖なる神権を所有する者の権利や責任を、どのように比較し関連づけられるであろうか。

（ここでクラスの教師は黒板に、バプテスマのヨハネ、モーゼ、エライヤス、エライジヤ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの名前を黒板に書くこと）

クラスの会員たちはこの福音の神権の時代の、これらの天からの使いたちの訪問が、どのようにクラスの会員たちの神権に影響を与えているかを発表するようにたのまれる。）

すべてのものの回復

古代にペテロは人が悔改めるよう叫けんだ、そして基督・イエスの再降臨に来るであろう爽決な時があるであると言った。ペテロはまた「神が世の始めより聖なる予言者たちの口を通して、昔から預言しておられた、万物更新の時」と語られた。（使徒行伝三章一九節～二十一節）

現在私達はペテロが言われた二つの原則のことについて考えている。㈠それは「万物更新の時」または「回復の時代」があること。㈡この回復の時代に、神は世の始めより聖なる預言者たちの口をとおして語られたすべてのものを回復するということである。

天父と御子ジョセフを訪問される

一八二〇年、永遠の父なる神と神の御子であり、人類の贖い主でおられるイエス・キリストは、ニューヨーク州・パルマイラの近くの森でジョセフ・スミスに現われた。御二方はジョセフに彼の近代の予言者としての召の基本的な御指導を与えられた。

一八二三年、九月から一八二九年まで定期的に、モロナイ復活された体をもっている方がジョセフ・スミスを訪問された。モロナイはモルモン経を彼に啓示し、なおかつジョセフの予言者としての召しを彼に準備させた。

モロナイはアメリカ大陸の古代の住民の記録保存者であり予言者であった。

バプテスマのヨハネであっても、天使の導きの下に荒野にて、神の御言葉を受けたように、ジョセフ・スミスも天からの教師たちにより、教えられたのであります。

バプテスマのヨハネ来る

基本的な準備の時期が完成された時、主は主の若い予言者が御名により権能をもって働くよう準備なされた。主はジョセフにアロン神権と共にバプテスマのヨハネを送られた。一八二九年五月十五日に、ヨハネが来た。バプテスマのヨハネは「自らはメルケゼデク神権の鍵を握るペテロ、ヤコブ及びヨハネの指示によって働く者であると」述べられた。（ジョセフ・スミスの著：一章七二節）ヨハネは彼の子をジョセフ・スミスと彼の友人であるオリバー・カウドリの頭の上においた。そしてヨハネは「汝ら、われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて、われ汝らにアロンの神権を授く。これは天使の導きと恵み、悔改めの福音、罪を赦すために水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権にして、まことにレビの子孫が主の御前に再び正しさに適いて捧物を捧ぐる時まで、この世より決して再び取り去らるることなし」。（ジョセフ・スミスの著二章六九節）

それゆえ、アロン神権の鍵を握り、キ

リストのために道を備えるため、神より特別に立てられたるヨハネがアロン神権を回復した。小神権の鍵は「天使の人を助くる鍵と備えの福音の鍵とを保つ。またこの福音は悔改めとバプテスマ、罪の赦し……」が含む。（教義と聖約八四章二十六～二十七節）

大神権回復さる

アロン神権が回復されて後、まもなくジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーはペテロ、ヤコブそしてヨハネよりメルケゼデク神権を受けた。後の啓示の中で、主はペテロ、ヤコブそしてヨハネに属したものを「……汝らに遣わして、汝らを聖職に按手任命し汝らの使徒たること、また汝らわが名の特別の証人たることを確認し、また汝らが導きと教えを施す働きと、わが彼らに啓示せるところと同じものとの鍵……すなわちわが王国の鍵と、終りの世に於ける、および天と地の両つにあるすべてのものを一つに寄せ集むべき「時満ちたる」時代に於ける福音の神権の時代とを託した……」といわれておられる。（教義と聖約二七章十二～一三節）

四つの偉大な示現

一八三六年四月三日、カートランド神殿の気城の後、ジョセフ・スミスとオリーバー・カウドリーに四つのすばらしい示現が与えられた。最初の示現で主が現われになり、神殿を主の宮居としてうけられた。

近代の聖曲は「この示現閉ぢらるるや、天再びわれらに開けてモーゼわれらの前に現われ、世界の四隅よりするイスラエル人の集合と十の支族を導き来ることの鍵をわれらに委せり。この後よりエライアス現われ、アブラハムの福音の神権の時代を委して言えるよう、われらとわれらの子孫によりてすべてのわれらの後の代の人々祝福を受くべし、と。この示現閉ぢらるるや、また別の雄大にして栄光ある示現突如開かれたり。すなわち死を味うことなく天に上げられし予言者エライジャわれらの前に立ちて曰く、

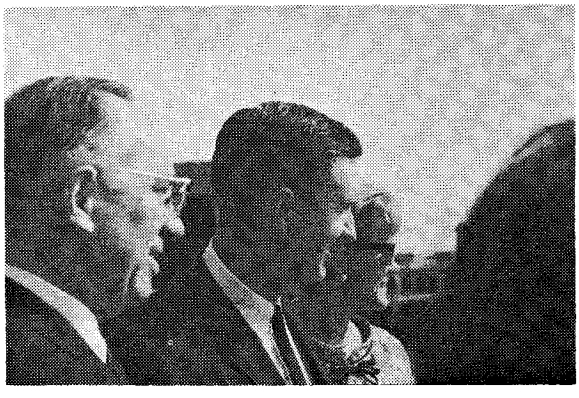
見よ、ここに於いて正にその時は全く至れるなり。そは嘗てマラキの口によりて言われしことにして、すなわち主の大いなるおそるべき日の来らん前に、彼（エライジャ）遣わさるべし。すなわちエライジャは来りて先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わせん。然らずば、全地は咀いをもて打たるべし、と言われしことを証する時なり。この故にこの末日の神権の時代の鍵を汝の手に委す。これによりて汝らは、主の大いなるおそるべき日の近づきて正に門口にあるを知るを得ん」と述べられている。（教義と聖約百十章十一～十六節）

エライジャの重要な使命

ジョセフ・フイルディング・スミス副管長（または十二使徒評議員会の会長）は私たちに「高き儀式、神の王国に本質的に昇栄する大いなる祝福、ならびにある場所を得ることのできる儀式は、鍵を握る者より儀式を行う権能を受けた者でない限り、唯れでも儀式を執行する権利をもたない。結び固める能力、すなわちもし彼らがその儀式を受けようとなさるならこの教会に於いてなされるすべての儀式、そしてより特別には主の神殿の中に於いて執行される儀式に認証の印がおされる、この結び固めの能力は、この世にエライジャが回復した。ブリウース・R・マッカンキー著「救いの教義」ジョセフ・フイルディング・スミスの書物より……三巻一二九ページ。

その上に「教会のある会員たちは、死者のためのバプテスマや死者のための救いの鍵はエライジャとともに来たのだと思い混乱している。エライジャの鍵はそれよりも偉大なものであります。それらは結び固めの鍵であり、そしてこれらの結び固めの鍵は、生者に適応するものであり、よろこんで悔改める死者をも包含するものである」。同書百三十章

カートランド神殿で鍵の授与後、十二使徒に関する啓示がジョセフ・スミスに与えられた。主は神権の能力を大管長会と十二使徒に、「時満ちたる」時代に於ける福音の神権の時代の最後の時のため」に与えられたのであった。主はまた彼らは「汝らの権能は、創世の始めより何れの世にても神の神権の時代を受けたるすべての者に関連するものにして、誠にわれ汝らに告ぐ、汝らの受けたる神権の時代の鍵は、汝らの先祖より伝わりしも



のにして、ひっきょう天より汝らに伝来せられしものなり」のような能力を握っていると述べられた。（教義と聖約百十二章三〇～三二節）

ジョセフ・スミスによって書かれた書簡の中で、彼は異った場所で彼を訪問した古い世界からの多くの人々の名を語っています。

「……天使長ミカエルの声、ガブリエルとラファエルの声およびミカエルすなわちアダムより現在に至るまでの天使らは、その神権の時代、その権能、その鍵、その誉、その威厳、その栄、その神権の権能を宣言し、規則に規則を加え、則に則を加え、ここにもすこしくかしこにも少しく教え、まさに来らんとすることをわれらに声明して慰みを与え希望を固くす」と。（教義と聖約百二八章二十一節、また、百三十二章四十五～四七節を見よ）

かようにして、前の福音の神権時代からの聖なる神権の鍵のすべては、この時代の初めすなわち、福音の最後の神権時代に、地上に回復されました。

十二使徒鍵を受ける

ジョセフ・スミスの絢教の前に、彼は彼がもっていたすべての鍵と権能を十二使徒評議員会の会員たちに授与した。

ジョセフ・フィルディング・スミス副管長は「その時以来、すべての十二使徒評議会会員はこれらの鍵と能力のすべてをも与えられている。しかし、これらの能力は、かれらの内の誰でも、教会の管理役員として召される、その時でなければ、執行することができない。それ故、十二使徒である大管長の按手任命に於いては、彼にはどんな附属的な神権をも与えない。ただ、彼がすでに受けてのを彼に確認するのであります。十二使徒たちは彼を大管長の職に任命するのであります。そうすることは彼らの権利であります」。同書百五五ページ

それ故、神権の鍵は福音の神権の時代から時代へと保持されていた。それは十二使徒評議会の各会員により保持されていますが、それを完全に行使し利用できる意味で、これら神権の鍵を把握している人は、この地上に於て一時にたった一人しかいないのであります。

神権の鍵は、その性質上会長会の権利と能力であり、ただ一人の人が他の全ての人々を管理することができる故に、どのような時であっても鍵のすべてを、行使し、利用する意味で只一人の人が把握できるのであります。（教義と聖約百三十二章七節）

神権の全きをもつために教会の大管長になる神権の鍵を握る必要はありません。

スミス副管長によると「もし我々が神の神権の全きを受けようと望むなら、主の宮居の完全なる儀式を受け、主の誡命を守らねばならない。……いかなる人といえども主の神殿の外では神権の宍きを受けることはできない。……忠実なすべての人は、神権の全きを得るべく、これらの儀式と祝福を受けるであろう。主は彼らを能力に於いて、勢力に於いてかつ支配に於いて同じくするといわれた」といっている。同書百三一～百三二ページ。

このように、あらゆる鍵と権能を伴った、メルケゼデク神権の回復に於いて、主は人がただ悔い改めてバプテスマを受けるということだけでなしに、彼らが主の神殿に行き、崇高な儀式と神権の全きを受け、それによりもし彼らは彼らが交した聖約に忠実であるならば、彼らがイエス・キリストと共なる世嗣となるよう準備して下さったるであります。「教会の文書の歴史」第Ⅴ巻四二四ページ

それ故、ペテロによって予言された、万物更新はわたくしたちが住んでいるこの時代に属しているのです。メルケゼデク神権をもっている各男性は驚くべき祝福、すばらしい潜在能力をもっているのです。正しさを通じて彼はイエス・キリストと共に共有の相続人となれるのであります。人間が求めることのできる何とすばらしい祝福であろうか。

「実習」

各クラスのメンバは自分がもっている聖なる神権を熟考しながら自分自身に次の質問をしてごらんなさい。

(一) 私は記念の書をもっているだろうか、そして、私の子供たちが彼の神権のために準備するよう、助けているだろうか。

(二) 私は系図の探究や神殿の仕事に於いて、私より前の担当者たちの代りに何か重要なことまたはためになることをし

ているだろうか。

(三) 私は活潑な神殿の推薦を受けていますか、またはそれを定期的に使用しているだろうか。

(四) 私が聖なる神権の理解を増し、神権を私の日常生活に欠くことのできないものとするために、私は何をしているであろうか。

第二部
あなたの神権は権能を表す

第五課
主は律法を通して統治なさる

「レッスンのフォーロ・アップ」

教師はクラスの二・三人の会員に、つぎに関することがらにつき何をしたか、簡単に説明させるようにする。

一、モーセが回復なさった権能に関係ある、あなたの権利を神権保持者として行使するため過し一週間、何かなされましたか。

二、エライジャが回復なさった権能に関係ある、あなたの権利を神権保持者として行使するため、過し一週間、何かなされましたか。(討論は五分以上を過さない)

「レッスンの目標」神権の権能のために必要になる深遠な洞察力を得ること。

「序論」

もしできれば、クラスの指導者は、人間の世界に於いて、法律がどのように治めているかについて、五分間話しをさせレッスンの討論を開始するように、一人の代理人を選ぶとよいでしょう。これらの思案は非常な助けとなります。

今唯れかがあなたの家に来たとしよう。あなたが扉を開けるやいなや、彼は中に入り、彼にとって興味あると思われるあらゆるものを、室から室へと調べ始めたとしよう。または、あるグループがあなたの家に来て、だまって入り、あなたの家の家具や、他の個人的な所有物を動かし始めたとしたら。または、見知らぬ人があなたの家に来て、あなたの妻子を彼と一緒につれて行くと請求したとすれば。ある人が自分自身を州より使わされた議員であると述べ、連邦議会に入ろうと試みたとしよう。

ころら及び数えることのできないたとえに次の一つの質問ができるでしょう。

「何の権利と権能によってしているのか」

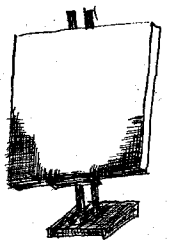
すべてのものには律法がある

市には法律がある。州や郡も法律がある。国々は法律がある。国際法もある。過去、幾世代を通じて、哲学者、科学者及び他の多くの人々が、自然界の中にある活気のある領分及びない領分両方の法則を発見し、形成しようとして探し求めた。それ故に、律法は私たちが宇宙を律法の集団と呼んでいる莫大な集合体に現われています。宇宙の法則に関して、主は予言者ジョセフ・スミスに次のようにお示しになられました。「およそ、すべての王国には皆一つの律法を与えらる。それ、王国は多し。そは、いかなる空間にも王国なきは無人また大なる王国も小なる王国も、その中に空間なき国はあらざるなり。而も、そのいかなる王国も一つの律法を与えらる。且つ、いかなる律法にもまた或る制規と条件あり……」。(教義と聖約八十八章三十六節～三十八節)

律法は、それであるから、普遍的だけなものではなく、律法の限界(限度)と状態があります。人間にとってはこれらの原則を、毎日毎日年から年へ、時代から時代へと、自分たちの社会や、物理的や、他の生活の次えの経験に於いて証明したり、神がことごとくの律法を取り消したり、神と人間との関係をごちゃごちゃに操作したりもできるということは理屈に合わないことであります。

地上に福音があった、世界の歴史の各時代に於いて、主が、に選ばれて、主の御名によって働くように認めた人がおりました。如何なる人といえども、そのように働くように委任され、認められない限り、民事上の問題について、他の人または多くの人々の代理として働くための正しい権利がない。

神御自身が御設定なされた律法に関して、神によって正式に委任され、認可されないときに、ある者が神の代りに語ったり働いたりできるといっているどんな人であっても、その道徳的価値にかかわりなく、ごく控え目に言っても、それは



同様に無礼なことであります。

十九世紀という長い期間、予言者の声は聞かれなかったのであった。既に世を去った予言者らの記された言葉が、その活気のいくらかをのこしたのである。この世に来るあらゆる人を照しているキリストの光は、主と主の正義を探し求める者に刺激を与えた。だが、神の生きた予言者がなく、それにともなう賜物や、能力がなかったのである。神さまにより認められたる声が人々の間になかった。福音の贖いの能力は教えられなかった。

一八二〇年、最初の示現で、天父と御子がジョセフ・スミスに現われたとき、主は明瞭に、しかも明確に、世の中に存在する宗教を否認した。

ジョセフは天父と御子により召された

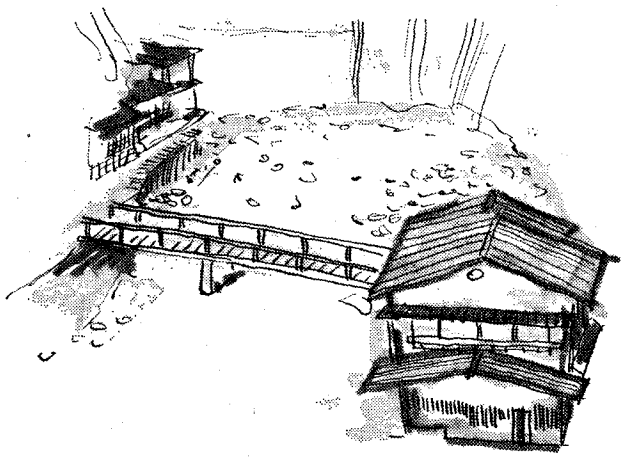
完き永遠の福音が神の器を通じて回復されるために、天父と御子はジョセフを訪れました。ジョセフは彼の後継者たちがついに理解するであろうことを良く知っていた。一九〇四年、ジョセフ・F・スミス大管長によって証明された。「私はキリストの教会ないしは、末日聖徒を導いてはいません。私はこれをはっきりと理解されるよう希望致します。だれであっても教会を導いてはおりません。ジョセフもそれをしなかったし、ブリガムも、またはジョンテーラーもしかり。ウイルフォード・ウッドラフでも、ロレンゾー・スノーまたはジョセフ・F・スミスもそうであるが、少なくとも彼らの全ては、末日聖徒イエス・キリスト教会を導いてはありません。また導きはしないでありましょう。彼らは自分たちが灯となし、達成するかに於いて神の御手の中の器であります。神は彼らを通じて御業をなされます。私たちは神さまが御自分の御仕事をなさるために選び、使用なさるただ器にすぎません。召されたる者の偉大なる召しの中で、弱き者の中にありて、彼らを強めるようにすることが、私たちにできる全てであります。しかし、神がこの御業を導いていることを御記憶しなさい。なんとなれば、この御業は主のものであり、人間の業でないからであります」。ジョセフ・F・スミス著「福音の教義」一三八～九ページ

アロンの場合のように、召されなければならない

これは神の御業であり、人間のではありませんので、神は御自身がお望みになる、器を選ばれます。パウロはこのことをはっきりと声明されました。「だれでもこの栄誉ある務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである」。（ヘブル人への手紙五章四節）

アロンは神の予言者を通じて啓示により召されました。主はモーセに「また、イエスラエルの人々のうちから、あなたの兄弟アロンとその子たち、すなわちアロンとアロンの子ナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルとをあなたのもとにこさせ、祭司としてわたしに仕えさせなさい」といわれました（出エジプト記二十八章一節）

最後の晩餐の夕べ主は御自分の使徒たちに注意なされた。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた（按手聖任した）。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり……」。（ヨハネによる福音書十五章十六節）



権能によるバプテスマ

一八三〇年、そのようになるよう導かれておりましたように、予言者は教会を組織なさった。再バプテスマなしに教会に入りたいと望まれた幾人かの方がありました。この事に関して、主は御自分が認めたもう権能に関する、簡単ではありますが非常に重要な啓示を与えられました。「見よ、われ今汝らに告ぐ。すべて旧き誓約は、このことに於いてわれこれを廃らしめたり。而してこのことは新しき且つ永遠の誓約にして、すなわち始めよりありしところのものなり。これを以って、たとえ人百度バプテスマを受くるといえども、それは効なきものなり。それは、汝らモーセの律法にてもまた汝らを死にたる業によりても、狭き門より入ること能わざればなり。われ、わがためにこの最後の誓約をここに立てさせ、またすなわち古えの時代に於けるごときこの教会を建てさする所以は、実に汝らの死にたる業あるがためなり。これを以って汝ら、わが命じたるごとくかの門より入れ。而して汝らの神を議せんとすること

なかれ。アーメン」。（教義と聖約二十二章）

主は、主がお示しになられた誓約は世の中にとっては新しいものであっても、実にそれは永遠の誓約であると、お示しになりました。

すべて前の誓約は過ぎ去りました。ある者が正当な権能なしに、幾百度バプテスマを受けようとも、それは死んだ業となってしまうのであります。もし、その仕事が正当であり、受け入れられるには神の権能は必要であります。

古代にパウロはエペソで、エペソの人々が前のバプテスマが正しいかどうかに関して質問があったときに、ある者たちにバプテスマを再び執行しました。（使徒行伝一九章一～七節）

その上に、ニーファイ人と現在の福音の神権時代の両方に主の教会の完全なる設置とともに罪のゆるしを得るために、先きに正統なる権能を持ってバプテスマを受けた全ての者は、キリストの教会に加入するためには再びバプテスマを受ける必要があるのであります。（ニーファイ第三書、十九章十一～十三節）末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史第一巻七六ページ。このような場合は権能が問題ではなかったのであります。その人は正当な権能を持った人からバプテスマを受けたのでありました。

しかし、彼らのバプテスマは罪のゆるしのためでありますが、キリストの教会に入るためのものではなかったのでした。なぜならば、当時キリストの教会は組織されていなかったからです。後に教会が組織されたとき、彼らは教会の会員となるように再びバプテスマを受けたのであった。教会では、事件が平常な課程であっても、またはありふれた課程であっても、再びバプテスマの特別な儀式はありません。

それゆえに、主は山上の垂訓やジョセフ・スミスへの啓示の中でむだに語ってはおりません。彼は人は「狭き門」より入らねばならないとおっしゃっています。「命にいたる門は狭く、その道は細い。そしてそれを見いだす者が少ない」（マタイによる福音書七章十三～十四節）

福音はすべての人のためのものである。主がメルケゼデク神権の指示の下にパレスタインに彼の教会を再建されたとき、彼は十二人にイスラエルの家の失われた羊のところに行き救いを宣べ伝えよと命ぜられました。（マタイ伝一〇・五―六）

復活後、モーセの律法が成就されてからは、もはや福音はイスラエル人に制限されなくなりました。ガリラヤの山上で復活した主は、彼の使徒たちに命じました。

〝それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し……〟（マタイ伝二八・一九）

昇天する直前に彼はこの命令を繰返して言いました。

〝……エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう〟（使徒行伝一・八）

同様に私たちのこの神権時代に主は熱烈な言葉を以って彼のメッセージは遠かく遠く、海の島々に住む者までおよぶと宣言しました。

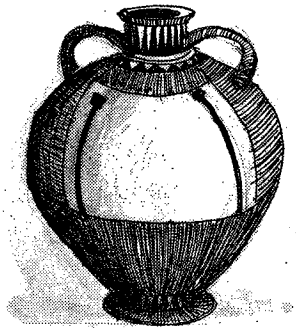
〝誠に主の声はすべての人々におよぶのなれば……〟（教義と聖約一・一―二全章参照）

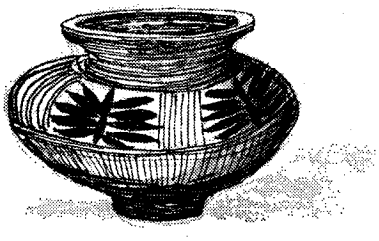
昇栄のためには神権が必要

人々が昇栄を得るためには単に福音を受けるだけでなく、メルケゼデク神権を単にメルケゼデク神権だけでなく最高完全の神権を受けなければなりません。それはただ主の神殿の内に於いてのみ、聖なるエンダウメントと神権の結び固めの儀式を通じてのみ得られるものであります。（教義と聖約一三一・一―四また教義と聖約一三二・五―八参照）

福音は永遠の律法であって、それを進んで受けようとする神の子らの祝福のために神が備え給うたものであります。そこでこのような秩序が定められたのです。すなわち単に予言者が存在することを意味するこの地上に於ける神権の鍵が必要であるばかりでなくそこには神の家族となろうと望む人たちが彼ら自身の個々の家族を永遠の族長制度の一部として保ち、主の啓示されたすべての聖約を受け、忠実であることが必要なのであります。

「実行」





クラスの会員たちは自分自身に次のような質問をしてごらんなさい。

あなたは家族たちに狭い細い道を愛しその道に留るように教えるのにどのようにしたらよいですか？ 家族の祈りを、もっと多く定期的に行えますか？ 家庭の夕を毎週行うことができますか？ 愛と理解を以って子供を懲らしめ注告しますか？ あなたの地方の教会の指導者及び教会幹部を支持することに於てあなたは正しい模範を示しておりますか？ あなたはその言葉、服装に於て、また動作全般に於て清潔ですか？

第六課

すべての人が管理人

「レッスン・ファローアップ」

一人か二人のクラス会員に、家族の祈りをするのは一日の内でいつが最もよいとわかったか、なぜその時間がよいのか述べるよう頼むとよい。

「レッスンの目標」

神権に於ける管理人としての地位を、はっきりと理解できるようにする。

「序論」

レッスンを紹介するに当って教師はクラス会員に彼らの職場に在って、また社会に於て、教会に於て、家庭に在って、彼らが管理人として奉仕したある方法に就いて述べるように頼むとよい。

「レッスンの展開」

地に満ちるものはあなたのものである
昔の詩人は歌いました
〝地とそれに満ちるもの、
世界と、そのなかに住む者とは主のものである〟詩篇二四・一

私たちのこの神権時代に主はある戒めに就て注告をお与えて後宣言されました
〝われ誡に汝らに告ぐ、汝らこれをなさば地に満つるすべてのものは汝らに与えらるべし。すなわち野の獣、空の鳥、木によずるもの、地上を歩くものは、汝らのものとなるべし。

然り、また汝らの食物、衣服、家屋、小屋、果樹園、野菜畑、葡萄園などいずれにしても、それらのために地より生ずる諸々の草と善きもの、

しかり、すべてこれら季節によりて地より生ずるものは、皆人のため人の用いんために造られ眼を楽しませ、またひとしく心を悦ばせんためなり。

しかり、これらは肉体を健にし、人に元気をつくるう、食物、衣服、味、香りのために造らる。

しかうして、すべてこれらのものを人に与えたるは神の悦びとするところにして、この目的のためにこれらは造られれば、人は適量にこれを用いて貪らずまたは無理に取りて用うべからず〟（教義と聖約五九・一六―二〇）

地球そのものが人間が住むところとして、神の霊の子たちが肉体をとり、豊かに祝福され、彼ら自身を証明して、更に進歩するため準備するところとして組織されました。（アブラハム書三・二二―二六）モルモン経の予言者たちは、この生涯を試練の状態と呼んでおります。

一人一人が管理人である

この地球が主のものであり、彼はそれを人が住み祝福されるために備え、この生涯は神の子供たちが進歩するための試練の状態である以上、人々はあらゆることに於て、神に責任を負うているのであります。すなわち各人が管理人であります。

ジョセフ・スミスを通じて福音が回復されたとき、早期のカートランド時代からノーヴーの時代を通じて主はその予言者に管理に就ての啓示を与えました。特にカートランド時代と呼ばれたときに全財産献納法と管理に関しての特別な教えと命令が啓示されました。（特に教義と聖約四十二章、五十一章、七十章、七十二章及び七十八章参照）そのとき、聖徒たちに与えられ要求された律法は彼らに共同体として知られている社会の運営を

可能にしました。この共同体が管理の律法に基く生活を助けるために用いられた形態でありました。共同体は現在私たちが直接関係しているものでありませんから悉しく知る必要もありませんが管理の一般的な原則または法則は私たちに結びついており、また広く全人類に関係しております。

多くの聖文の中で私たちは、すべての人はその行いによって裁かれると告げられております。（例えばマタイ伝一六・二七、黙示録二〇・一三 ニーファイ第一書一五・三三 教義と聖約一九・三）管理とは或意味で、すべての人に負わされた責任と考える方が、もっとよく定義

されるかも知れません。

不正な管理人（家令）のたとえ話をユダヤ人にした後、主は次のような宣言をされました。

〝小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。

だから、もしあなたがたが不正の富について忠実でなかったら、だれがその富を任せるだろうか？

またもし、ほかの人のものについて忠実でなかったら、だれがあなたがたのものを与えてくれようか？（ルカ伝一六・一〇―一二）

ここで教えている原則には次のようなものがあります。

㈠　人がもしも小さな管理に忠実になれなかったら大きな管理を任されることはないでしょう。

㈡　人がもし責任ある管理を果すことができず彼の世の品物を正しい目的に使うことができなかったら、永遠の価値を任されることはないでしょう。

㈢　人がもしも神に属している物ではあるけれど使うことを許されている物を忠実に世話できなかったら、彼自身の永遠の相続を与えられることはないでしょう。

管理と裁き

主は管理の律法に関する最後の裁きに就て最も印象的な声明をしました。彼は人の子が栄光の中に来るときに〝羊飼が羊とやぎとを分けるように〟人々をより分けるであろうと言いました。ここで彼が述べている分類の根拠は人が如何に他人に奉仕するために用いたかであります。他人に奉仕するために忠実に用いた者は言葉を行う者であり、忠実な管理人であり、永遠の生命を受ける羊であります。これに反して不忠実で利巳的で自分の持っている物に不注意無関心で、その能力に応じた奉仕をしないものは言葉を行う者でなく不忠実な管理人でやぎであります。彼らは〝永遠の刑罰を受ける〟のであります。（マタイ伝二五・三一―四六）

今日私たちの時代に主は同様の原則をはっきりと強く再確認しました。彼は言いました〝この故に、もし何人たりともわが造りし多くの物の中より取り、わが福音の律法に従いてこれを貧しき者乏しき者に自巳の取前をわかつことをせざるときは、悪人と共に地獄に落ちて苦悩を受け目を挙げて望み視ん〟（教義と聖約一〇四・一八）

貧者の世話をすることと奉仕することに就て、はっきりと教えられた主はそれに加えて、一般的な管理の一部をなす他の教えをも与えました。例えばイエスは言いました。

〝あなたがたが放縦や泥酔や世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないようによく注意していなさい。

その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから。〟（ルカ伝二一・三四―三五）

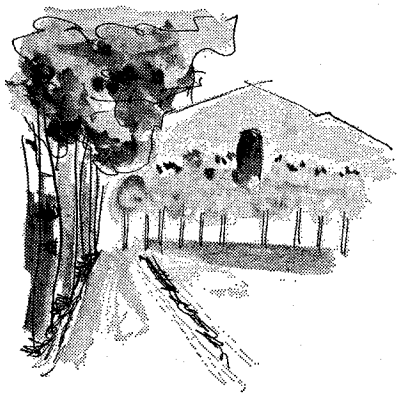
〝それはちょうど、族に立つ人が家を出るに当り、その僕たちに、それぞれ仕事を割り当てて責任をもたせ、門番には目をさましておれと、命じるようなものである。

だから目をさましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわとりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない〟（マルコ伝一三・三四―三六

源は私たちがひいた）

ポンドのたとえ話

管理の律法に就て主がなした最もわかりやすい声明は素晴らしい十ポンドのたとえ話であります。ここで彼は王位を受けて帰って来るために遠い所へ族立つ〝ある身分の高い人〟に就て語り、この人は出かける前に十人の僕たちを呼び各人に一ポンドづつ与えました。彼が王位を受けて帰って来たとき、僕たちを呼んで彼らがそのお金を如何に管理したかたずねました。一人の僕はそれを十ポンドに増し、十の町を支配する権威を与えられました。他の僕は彼の一ポンドを五ポンドに増し五つの町を支配する権威を与えられました。第三番目の人はその一ポンドをそのままにまって何もせずつまらない言いわけをしました。結局彼のポンドは取上げられて十ポンド持っている人に与えられました。ここに述べられた忠実であったまたはなかった三部類に加えて、このたとえ



話はこの身分の高い人を拒んだ本国の住民に就ても述べております。僕たちが計算報告した後これらの王を拒んだ人たちは殺されてしまいました。（ルカ伝一九・一一―二八）

この四分類は主が予言者ジョセフ・スミスに示現で示した三つの光栄の階級を提案しております。その管理に勇敢で忠実であった者は日の光栄の相続人となるでしょう。よかったけれども管理に勇敢で忠実であることに於て始めの者より劣る者は月の光栄の相続人となるでしょう。その管理に全々勇敢でなかった人はそれを失うでしょうが最後には星の光栄の相続人となるでしょう。その王を憎み彼に逆らった人々は滅亡の罰を受けるでしょう。（教義と聖約七十六章参照）

すべての人が管理権を持つ

如何なる人も自分が監督でなくまたステーキ部長でないから管理精神がないと思うことは正しくありません。主は言われました。

〝それは、をが生くる者のために造りて備えたるこの世の幸福を挙どる者として、すべての人をしてその責に任ぜしむるは主なるわれ必要とするところなればなり。〟（教義と聖約一〇四・一三）

〝更にイスラエルの長老たちの証を拒んだ者たちはちょうど私たちが長老としてまた人々の教師としての管理精神の責任を問われるように彼らの管理精神の責任を問われるのであります。マッユンキー・ブルース・R編　救いの教義　第三巻一一七頁。

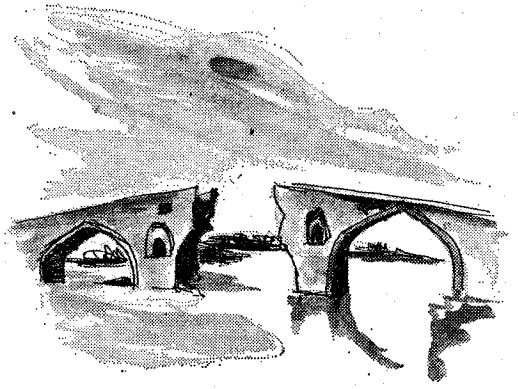
メルケゼデク神権を持つすべての人はその召しの如何にかかわらず或は教会内で特別な召しがなかったとしても彼の誓約に忠実であるべき責任を持っております。

ジョセフ・フィルデイング・スミス会長曾て言われました。〝使徒は彼の誓約及び教会の会員たることに真実であるべことに於て、長老或は七十人または神権を持つ如何なる人よりも大きな戒めの下にあるわけではありません。使徒は神権の中に、より大きな責任または召しを持っていることは事実でありますが、福音の原則及び戒めに真実であるべきことに於ては同等の責任を持っているのであります。これは苦し長老が主の宮で儀式を受けた場合に於て特にそうであります。〝この神権の誓約に違反する罰は、道にそれ義務を無視するかも知れない使徒にもたらされると同様に、聖任された長老の上に、確実にもたらされるのであります〟同上一一九―一二〇頁

管理精神の中のいろいろな要素

人が持っている管理精神の程度に関係するいろいろな要素があります。そのような要素とは時間、才能、手段及び機会であります。確かに人は各々祝福されたこの世の生涯の管理人であり、それらの年月を用いることに責任を負うのであります。同様に各人は彼の知的または個人的な技巧及び天賦の才能の管理人で、それを如何に用いたかに対し責任を負うのであります。私たちは既に主が私たち各人は、その大小如何にかかわらず持物及びこの世の富の管理人でそれを如何に保ったかに責任を負うということをはっきりさせた、たとえ話を討論して来ました。そして各人は疑いもなくそれが自然の需境、交友、教育、地位その他如何なる状態であっても彼がつくったその機会に対し責任を負うのであります。

メルケゼデク神権を受けているすべての人は、彼の行動する権威はその管理する責任の範囲内のものであることを自覚すべきであります。彼は彼自身の生活を検討して彼の管理精神の性質をはっきり決め、同様に彼の事務を処理して行くに改善できる特別な方法を決め、そうすることを強く決心すべきであります。彼はそれをなすに当って主のみたまの助けを求むべきであります。



忠実な管理人に喜びがもたらされる

私たちは常に次のような主の約束を意識しておるべきであります。

〝およそ何人にま、忠実にして正しく、且つ賢き管理人はその主の悦びに入りて永遠の生命をつぐべし。〟（教義と聖約五一・九）

〝されば、忠実にして賢き管理人は、すべてのものを受けつぐべし。〟（教義と聖約七八・二二）

〝主はあらゆる管理人の手より、今もとこしえにも、管理人の職に関する報告書を差出すことを求むるにより、汝らが監督を設けたるは、この点誠に賢きことなり。

今忠実にして賢き者はわが父の彼に備えたまえる住家をつぐ資格ありと認める。（教義と聖約七二・三―四　線は私たちがひいた）

「実行」

各クラス会員は次の諸点に自己評価して採点してごらんなさい。

	私は心を入れ変える必要がある	私はもっとよくできたのだが	私は私の遂行したことに満足した
私は私の収入及びその他の財政上の資産を如何に効果的に誉れあるように管理したでしょうか？			
私は教会で受けたすべての召しを私の能力の限りを尽して成就したでしょうか？			
私は福祉活動に活発に参加したでしょうか？			
私は私の隣人に奉仕する道を考えたでしょうか？			
私はほんとの私の家族に奉仕したでしょうか？			
私は私の定員会の会員に奉仕したでしょうか？			
私は真実なる汁分の一を払ったでしょうか？			
私は規則正しく真実なる断食献金をしたでしょうか？			
私は予算その他の献金を惜しみなくしたでしょうか？			

第七課

権威の経路

「レッスン・ファロアップ」

先週のレッスンの結論に当って提供したフォーム上の自己採点が助けとなったかどうかクラス会員にたずねなさい。（この討論は五分以内）

「レッスンの目標」

教会内の権威の経路をはっきりと理解できるようにする。

「序論」

討論を始めるに当って教師は、下記のような地位にあるクラス会員に彼らの地位の監督の経路を大管長会まで、遡るようにたずねてごらんなさい。

ホーム・ティーチャー
サンディ・スクール・ティチャー
系図作業員

「レッスンの展開」

教会は神権を通じてつくられる

神権のないところには真の教会はありません。けれども、神権と教会を仔細に検討するとき、これらは同一のものではなくお互の間に実際に大切な相違があります。

神権は教会の存在をもたらした力であり、また主の名により行動するすべての権威の根源であります。神権は一八二九年の五月十五日から一八三〇年の四月六日までのように教会がなくてもこの地上に実在しますが、教会は神権なくしてこの地上に実存することはできません。

神権の実体は神権の授けられたすべての時代のすべての男子を含みます。けれども教会は単にこれらの人ばかりでなく他の男たち及び女たち及び子供たちから成り立っております。

三番目に神権の実体はメルケゼデクとアロンの二つに区分され、それが各々の定員会、即ち、大祭司、七十人及び長老と祭司、教師、及び執事を伴っております。神権を受け特別な職に聖任された者だけが神権の実体の一部なのであります。これらの人々だけがその集会に参加することができるのであります。けれども教会のすべての会員は聖餐式に参加し適当な補助組織または諸組織の会員となり、その活動に充分に参加することができるのであります。

女性は神権の祝福を分ち合う

神権者は神権は教会のすべての会員のためのものであることを覚えておくべきであります。ブリガム・ヤング大管長は言いました。

「神権は全人類家族のために、ひとしく男、女及び子供たちの向上のために用いるべきであります。誠にキリストの真の教会には特権階級または性はありません。男は教会のすべての会員たちのためにその仕事をなしまたその力を致すべきであります。同様に女はその特別な賜を

以て種族のため、またその向上に努めるべきであります。ウェッオ・ジョン・A神権と教会統治九二―九三頁

教会内で権威の経路は即ち神権の権威であります。教会内で権威の構造と神権とはお互に結び合っております。

神権の権威の構造

神権の権威の構造は次の通りであります。

この地上に於ける先輩の使徒と彼の二人の相談役は大管長会を組織し、アロン及びメルケゼデク神権全体を管理します。

十二人の評議会は使徒に聖任された十二人の大祭司によって組織され直接大管長会の下にあって管理定員会を構成します。

特別な、けれども執行機関でない役員は大祝福師であります。

大管長会、十二使徒会及び大祝福師は予言者、聖見者及び啓示を受くる者として支持されます。

不定数の大祭司が十二使徒補助として按手任命されます。けれども彼らは使徒として聖任されることなくまた定員会をも構成しません。

七十人会最高評議員会は全七十人を管理した大管長会及び十二使徒会の指示の下に或行政的権威を執行する七人の七十人を以って構成されます。

これらの定員会及び役員は地方的な単位の上にでなくこの地上に於ける全神権者の上に管理するものでありますから教会幹部と指名されます。

教会幹部の中にもう一つのグループとして管理監督会が指名されます。この定員会は、監督に聖任された三人の大祭司から構成されその内の一人が管理監督として支持され他の者は彼の相談役となります。この定員会は、この地上に於けるすべてのアロン神権を管理します。

ステーキ部を管理する大祭司たち

ステーキ部に指定された、この地上に於ける地理的に限られた単位内に住むすべてのメルケゼデク及びアロン神権者は按手任命された（聖任ではない）三人の大祭司によって管理されます。一人が部長に他の者が副部長に按手任命されます。ステキ部長（副部長にはない）にもまたステーキ部の事務を指示するに必要な、すべての鍵が授けられております。この三人の大祭司はスキーキ部内のすべての神権を管理するのに加えて、ステーキ部内に住むすべての大祭司から構成される定員会を管理する特別の召しを持っております。

ステーキ部長会がその管理するステーキ部内のすべてのメルケゼデク及びアロン神権に関する彼らの義務を遂行するに当って之を援助するために高等評議員会と指名される、十二人の大祭司から成る定員会があります。十二使徒及び大管長会の許可によって高等評議員補助を置くことができます。

特別な、けれども執行機関でない役員は、ステーキ部祝福師であります。彼は祝福師の職に聖任され、彼の住んでいるステーキ部で働らくように按手任命されたのであります。或還境に於ては一つのステーキ部内に一人以上の祝福師が働らくことを許可されます。

一ステーキ部内の七十人定員会はそのステーキ部内のすべての七十人から成り彼らは七人によって管理されます。七十人の職を持つ者が七十人以上いるステーキ部に在っては、二つの定員会となります。ステーキ部内の一つまたはそれ以上のワード部に住む長老たちは定員会を組織し、その中の三人の会員によって管理されます。その数の保証する限りに於て定員会は幾つでも存在する筈です。

アロン神権を管理する大祭司たち

ワード部に指定された地理的一単位内に住むすべてのアロン神権者は三人の大祭司たちによって管理されます。その内の一人が或特定のワード部を管理するように監督に按手任命され、他の二人の大祭司は副監督に按手任命されます。監督（副監督にはない）にもまたワード部の事務を指示するに必要なすべての鍵が与えられまた祭司定員会の会長に按手任命されます。以制に監督に聖任されたことがない限り副監督を監督と呼ぶのは適当でありません。

祭司の定員会は四十八人の祭司から成り彼らが住んでいるワード部の監督によって管理されます。

教師の定員会は二十四人の教師から成り、その会員中の三人によって管理されます。

執事の定員会は十二人の執事によって構成され、その会員中の三人によって管理されます。（定員会の機能に就ての、より詳細な討論は、このテキストのレッスン四十三課から四十六課迄の間にあります。）

鍵は使徒たちに授けられた

予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリは神権の鍵を、この地上にこれらの鍵を回復する目的を表すために主から遣わされたいろいろの人物から受取りました。予言者はこのすべての鍵を十二使徒会の会員たちに与えました。そこで彼が死んでも神権の鍵は失われませんでした。

天の霊感の下は大管長会及び十二使徒会は必要に応じて他の教会幹部を召し聖任及び任命する権威を持っております。

同様に大管長会及び十二使徒会は、必要に応じてステーキ部長、ステーキ部祝福師及び監督を召します。彼らの指示の下に彼らかまたは他の教会幹部が必要に応じてこれらの役員を聖任及び任命します。

ステーキ部長会は、大管長会及び十二使徒会の指示及び管轄下に彼らの義務を執行します。

ステーキ部内に在って会長会が管理します

ステーキ部長会はそのステーキ部内の或長老が適任だと思われた時は、七十人に聖任されるように七十人最高評議員会に推薦します。同様にステーキ部長会は七十人最高評議員会に或兄弟たちをこの定員会の会長に任命するように推薦することができます。承認された兄弟たちは認められた教会幹部によって七十人または定員会会長に聖任されます。

ステーキ部長会は人にメルケゼデク神権を授け長老の職に聖任すること或はメルケゼデク神権を授け長老の職に聖任すること或はメルケゼデオ神権を持っている他の人にそうするように指示することを認められております。彼らは必要な時に長老を選んでその長老定員会を管理させ、会長として按手任命し、彼にこの職に属するすべての権威の鍵を与える責任と権威を持っております。定員会副会長たちもステーキ部長会によって按手任命されますが、彼らには鍵は与えられません。鍵は只会長だけに属します。

ステーキ部長会は、そのステーキ部内のメルケゼデク神権者及びアロン神権者すべてを管理します。彼らはメルケゼデク神権の役員として特にステーキ部内のメルケゼデク神権定員会の仕事を指示する責任を持っています。これに相応して監督はそれぞれのワード部のアロン神権を管理する者として特に彼らのワード部内のアロン神権定員会の仕事を指示する責任を持っています。

監督がメルケゼデク神権を受ける資格ある人を見出したら、そのような人にメルケゼデク神権を管理しているステーキ部長に推薦するのが彼の特権であります。ワード部内のアロン神権の長としての資格に於ては、監督は他人にメルケゼデク神権を授ける資格はありませんが、ステーキ部長会の指示の下に行動している大祭司として、彼はメルケゼデク神権を授け、そのような神権を受けることを認められた人を聖任することができるのであります。

監督はワード部内を治める

監督と彼を助ける副監督はアロン神権を受ける資格ある者に授ける権威を持ち、それらの人々を執事、教師または祭司の適当した職に聖任します。監督会はまた各執事及び教師の定員会に会長及び二人の副会長を備える権威と責任を持っています。監督はワード部内のアロン神権の鍵を持っていますので執事と教師の定員会の会長を按手任命して彼らにその義務と責任を遂行するに必要な鍵を授けるのは彼の務めであります。彼またはその副監督どちらでも、これらの定員会の副会長を按手任命することができます。

ワード部監督会は管理監督会の助言を受けるとはいうものの、彼らの義務の遂行に当っては特に彼らが属しているステーキ部長会の管轄下に入り指示を受けます。

簡単に言えばこれがこの地上に於ける神権の権威の経路であります。

教会内に於ける権威は神権であることを思い起す時、この地上に於ける教会内の権威の経路を見るのに、それはアロン神権及びメルケゼデク神権定員会に関する以上のものを含んでおります。

大管長会は教会及び神権を管理する

大管長会はアロン及びメルケゼデク両神権全体だけでなく全教会を管理します。

十二使徒評議員会、大祝福師、十二使徒補及び七十人最高評議員会は大管長会に指示された時にその機能を発揮します。このことは教会内の管理権能は神権の権威であることをはっきりと指摘し強調しております。

大管長会及び十二使徒会の指示の下に教会の各補助組織即ち、扶助協会、デゼレット日曜学校組合、ＹＭＭＩＡ及ＹＷＭＩＡ及び初等協会の中央管理局があります。これらの管理局は三人の会長会または監督会とその場合により、また各々その機能を果すに当っての必要に応じ何人でもの男または女或は男と女から成立しているのであります。

全教会水準の補助組織中央管理局に相応じてステーキ部水準に補助組織ステーキ部管理局があります。

同様にワード部水準に役員と教師から成るワード部組織があります。

コーリレーション（相関関係）組織

同様に全教会水準に、何人かの十二使徒会員と管理監督から成るコーリレーション執行委員会があります。この委員会の下にまた、各神権、補助組織及びその他の組織の指導者より成る全教会調整評議会があります。またコーリレーション執行委員会の会員であり十二使徒会の一員である人によって管理される成人、青年及び子供の各コーリレーション委員会もあります。同様に全教会水準に全神権委員会（複数）があります。その各々はコーリレーション執行委員会の会員によって管理されております。これらの全神権委員会は、神権福祉、神権伝道、神権ホーム・ティーチング及び神権系図及び神殿の仕事から成立っております。

コーリレーション組織はステーキ部、ワード部迄降下します。ワード部水準には、ワード部神権と補助組織指導者とその他必要な人たちから成るワード部評議会があります。

ホーム・ティーチャーは神権に於て

神权の系統を遡る
→ペテロ、ヤコブ、ヨハネ迄。

監督を代表する
監督の代表者が教会の各家庭を、より見守り強化するために、ワード部内の家庭を家長の神権に従って五つ以内のグループに分けます。そのようなグループの家族を教えるために同じ神権定員会から家長と彼輩同僚から成るホーム・ティーチャーが任命されますが彼らの義務は彼らが割当てられた各家族の各人を見守り、強化することであります。（教義と聖約二〇・五三）

教会の最後の根本的な単位は家族であります。理想的に各家庭はメルケゼデク神権者である父親によって管理されるべきであります。

このようにすべての場合に権威の経路は大管長会に始まり、神権機構に於てはメルケゼデク神権者またはアロン神権者の一人一人に迄及び教会機構に於てはシオンの家族の長として同じ個人に及ぶのであります。神権及び教会両会ともその影響機構の目的は個人個人のために贖い高める福音のすべての儀式を受ける手段を備え終局に於て彼らに昇栄を得させるためであります。

「実習」

一、神権及び教会の権威機構が定員会としまた家長としての私及び私の定員会にどのような効果を及ぼすでしょうか？

二、あなたがあなたの定員会リーダー監督会ステーキ部長会及び教会幹部を、よりよく支持できる具体的方法を計画しなさい。

第八課

聖なる賜、神権

「レッスン・ファローアップ」

クラス会員たちは、彼らの定員会または、グループ・リーダーを、よりよく支持できる或特別な方法に就て討論するとよろしい。（討論は五分以内）

「レッスンの目標」

神権者の神権が彼の個人的な生涯にどのような意味を持つかに就ての理解を深める。

「序論」

教師は先週に二人または三人の会員に、今週の討論を彼らの神権の系統をペテロ、ヤコブ及びヨハネ迄遡ることによって始めるように割当てるよう提案されていました。

割当てられた各人はクラス会員を、その神権を崇め強化するように刺戟するような各人の系統の特長に就て述べることもできます。

「レッスンの展開」

神権の受領

人がメルケゼデク神権を受けるためには、従うべき定められた手続きがあります。第一に彼は立派な末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でなければなりません。即ち彼は主イエス・キリスト及びその回復された福音に持つ信仰を示し、彼の罪を悔改め、正しい神権を持った人によってバプテスマを受けることであります。同様に彼は聖霊の賜のための按手礼を受けなければなりません。バプテスマも按手礼も共に鍵と権能を持っている人の指示の下に執行されねばなりません。

八才になった時またはそれから十二才になる迄にバプテスマを受けた少年たちは、十二才の年令に達した時に監督に面接されます。彼らが準備されており、価値あると認められた少年は、それぞれ、教師及び祭司の職に聖任されます。

もし人が成人してからバプテスマを受けた場合は、できるだけ早く地理的に権能の鍵を持った人が適当と思った時彼を面接します。もし新しくバプテスマを受けた人が準備されており価値あると認められた時は、彼にアロン神権が授けられ執事の職に聖任されます。彼にとってこの神権のこの職に務める定められた期間はありません。けれども彼を管理する権威者が彼がもっと責任を受ける準備があると信じたら、彼の用意を決めるため面接が予約されます。もしもその面接が彼が用意あり価値あると確認した時は、彼は教師の職に聖任されます。更に不定な時を経て彼は再び面接を受け、もし用意ができ、価値ありと認められた時は、祭司の職に聖任されます。

このような聖任の前に各人は彼がその一会員である大会に〝全体一致〟の原則により、すべての会員が提案された彼の召しを支持するかどうか見るべく提出されます。（教義と聖約二六・二）

メルケゼデク神権の受領

若い人が十九才に達した時、または成人の改宗者が教会の会員となって約一年間経った時彼が用意できており価値あると見える時、その監督によって面接されます。もしもその面接と観察によって監督がその人がメルケゼデク神権を授与される用意ができ価値あると決定した時はステーキ部長に推薦状を用意します。その中に監督はその人がメルケゼデク神権を受けるように申込みます。

ステーキ部に於けるメルケゼデク神権の長として、またステーキ部内の神権の鍵を握る者として、ステーキ部長は、監督からの推薦状を受取り、彼自らその候補者を面接する特権を持っております。（ステーキ部長会の他の会員が面接することもできます）もしもステーキ部長がその人がメルケゼデク神権を受けるべきだという監督の意見に同意したら、彼はそれを高等評議員会に申込みます。高等評議員会はその申込みを検討して、もしそれを支持するなら、その候補者の氏名はステーキ部の神権者たちか或はステーキ部大会に提出されます。上述のすべては候補者の価値を決定するため、また全体一致の原則に従ってなされるのであります。

神権者たちが皆その申込みを支持した

メルケゼデク。
①. 19才以上。
②. 会員になって1年以上。

後、候補者はステーキ部長の指示の下に聖任されます。人がメルケゼデク神権の職を持っていない限り、彼はその神権を授与されるべきであります。その後この同じ儀式の一部として、長老の職に聖任されるべきで、メルケゼデク神権のこの職に含まれるすべての権利、特権賜、力及び祝福もまた彼に授けられるのであります。

人が聖任された時、彼は彼の神権の系統を数段階で、この神権時代の予言者を通じペテロ、ヤコブ、ヨハネ及び主御自身にたどるのであります。

人はいかにして神権の力を保つか？

けれども人は聖なる神権を受けて後、その作用と力を彼の個人的な生活の内にいかに保って行くことができるでしょうか？（教師はここで、クラス会員に彼らがその生活の内に神権の力を維持できておる、ある方法を挙げるように頼んでもよろしい。それから教師は討論を進めることができます。）

Q 先ず神権を持つ者は彼がなすべきであると知っていることを忠実に行い、主のみたまに反するようなことを避けるべきであります。例えば彼は彼が正直、真実貞潔、慈善、高徳、忍耐、親切であり思いやりがあり寛大でよく愛し、助けすべての人に善をなすべきであると知っております。怒らく彼は彼の行動或はあり得る行動の或ものを、注意深く検討して、これらの原則の観点から、それを改善する必要があるでしょう。

Q 二番目に神権を持つ者は聖文の中の或は何処に在っても昔の予言者の教えを学ぶべきであります。彼はまた神の生きた神託から来る言葉をよく考えるべきであります。主はその民を祝福するために生きた予言者を起され、この聖なる神権を受けた人々は確かに、その生きた言葉を懐くべきであります。

Q 三番目に神権を持つ者は彼自身の生活を常に主のみたまにそって行動すべきであります。ブリガム・ヤング大管長が言われたように〝主の言葉があなたに語られた時また主の心があなたに現された時にそれを知ることはあなたの特権であり義務であります〟（教義と聖約第十八巻七十二頁）

更にヤング大管長は大祭司、七十人、長老監督、祭司、教師及び執事を指名して言いました。〝すべての人に対する主のみこころを私が知るべきであると同様に彼らが治め導く人に対する主のみこころを知り理解できるように生活することは彼らの義務であります〟

すべての父親母親にとってその家族に対する彼らの義務に就ての主のみこころを体するように生活することが務めであります。もしも彼らが彼らの子供たちを治めること以上にその持てる神権を行使する召しを受けなかったとしてもその子供たちをいかに教え、導き忠告すべきか知れるように生活することが彼らの義務であります。

Q 四番目に神権を持つ者は充分に王国に参加すべきであります。彼は忠実に福音の規則、戒め及び誓約を守るべきであります。彼は彼の集会に出席すべきであります。彼は積極的に系図の仕事に従事すべきであり、もし神殿が彼の居住地からあまり離れていなければ、しばしば神殿の会期に出席すべきであります。彼はその心に福音を広め他の人々を教会に導きたいと言う望みを持つべきであります。彼はデビド・O・マッケイ大管長の〝すべての会員は宣教師である〟と言う宣言に協力すべきであります。彼は什分の一断食献金、建築資金、宣教師資金、福祉などのようなすべての献金に正直でなければなりません。彼は教会の福祉計画の支持に単に財政的ばかりでなく、でき得れば肉体的にも積極的に参加すべきであります。

Q 五番目に神権を持つ者は、その兄弟たち支持すべきであります。彼は彼の定員会指導者、ワード部指導者、ステーキ部指導者、教会の中央管理局役員、教会幹部を支持すべきであります。予言者ジョセフ・スミスを通じての啓示に主は少くとも兄弟たちを支持することは何を意味するかに就ての一部を示されました。〝この故にすべての談話により、すべての祈りにより、すべての訓戒により、すべての行為によりて、汝の兄弟たちを強くすべし〟（教義と聖約一〇八・七）

神権は聖なる賜

聖なる神権は神の賜であり、神の王国を建てる目的を現し、人がその家族及び友人に奉仕するために人々に与えられたもので、もしも人がこれらのことを忠実に遂行するならば、それは彼自身の昇栄の手段となるのであります。神権は利己的な目的に用いるべきではありません。ロレンゾ・スノー大管長は言いました。

〝私たちはキリストが持っていたと同様の神権を持っております。そして私は彼がなしたと同様になすべきであります。彼が犠牲したと同様に私たち自身の望みと感情を犠牲にすべきであります。恐らく彼が殉教したようには死なないでしょう。けれども神の目的を成し遂げるために犠牲しなければならないでしょう。そうでなければ、私たちは、この聖なる神権にふさわしからず世の救主たちとなれないでしょう。同上第二十三巻三四一―三四二頁

召さるる者は多けれども選ばるる者は少し

各個人がその個人的な生活の内にいかに神権の権能を維持できるかに就て予言者ジョセフ・スミスを通じてもたらされたほどの強力な、崇高な声明はありません。次の通りであります。

〝見よ、召さるる者は多けれども、選ば

る者は少し。選ばるることなきは、これそもそも何の故ぞ。

そは、人々の心甚しくこの世に属けるものの上にあり、唯々人間の誉を得ることをのみ望み、次のごとき一つの戒めを知らざるによる。

曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなりと。

この権能のわれらに与えらるることもあらんは真実なり。されどもし己が罪を蔽いかくさんとし、われらの高慢、空しき野望を充たさんと企て、または幾分にても正しからざることによりて人の子らを支配し、統御し、強制せんとする時は「見よ諸天は退き去り、主の「みたま」悲しむ。主の「みたま」退き去らば、神権またはその人の権威は終りなり。

見よ、その人いまだ覚らざる前、独り驕かるるままにとげあるむちをけり聖徒を迫害し神に叛きて闘をなす。

われら悲しむべき経験によりこのことを知る。およそほとんどすべての人間は少し許りの権威を得たりと思うや、たちまち正しからざる支配を始めんとする生れつきの性癖あり。

これすなわち、召さるる者は多けれども選ばるる者少き所以なり。

いかなる権力も勢力も、神権によりて維持する能わず、まれは維持すべきものにあらず、ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。

また、親切と浄き知識すなわち偽善にあらず奸智にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。（教義と聖約一二一・三四―四二）

「実習」

あなたは回復された教会の歴代大管長の生涯をよく考えて、あなた自身の生活に於て神権の力を強化すべく、従いたいと望む各大管長の一つまたは二つの特性を挙げてごらんなさい。この簡単な表があなたを助けるでしょう。

大管長名	私が従い度いと望む彼の性質の特長
ジョセフ・スミス	
ブリガム・ヤング	
ジョン・テーラー	
ウイルフォード・ウッドラフ	
ロレンゾ・スノー	
ジョセフ・F・スミス	
ヒーバー・J・グラント	
ジョージーアルバート・スミス	
デビド・O・マッケイ	

扶助協会レッスン

社会科学―家庭での福音教授

アルバーター・H・クリスチャンセン

第二課　我々の神権のうけつぎ

一九六七年二月三回目の集会のために

目的　扶助協会のメンバーが特別な鍵や使命そしてその婦人に対する特別な意味を持つ歴史の中に出てくる神権者たちの重要性を理解する。

はじめに

〝神権とは何か？〟〝それは地球上であろうが天であろうが神の律法と統治である。そしてそれは単に正統な力であり神により、神の国の仕事を管理し統制するために認められている権能である〟（Journal of Discourses, 一・二二四）

〝それは天父なる神とその息子と聖霊との名に於て人間の家族の救いのために地球上で活動することができ、そして正統に働くことができる人に与えられる神の権能にほかならないのである。その権能は取るのではなく、また亡くなった先祖からかりるのでもない、それは私たちが生きている今日のこの世で、直接全能の神の面前、天からの仕える天使、霊たちによって与えられるものである。（ジョセフ・F・スミス　救いの教義第五版一九三九年一三九―一四〇頁）

福音は永遠なり

福音は永遠であり永遠から永遠へと続くものである。そして我々は我々が住んでいるこの一定の期間というものは孤立して存在するものではなく永遠の完全な部分であると云う見方を失ってはならない。福音はすべてを包含する未来と同様に広範な過去を持っているのである。我々は何らかの偉大な、素晴しいものの一部なのである。

この世界は神の子供たちのために神の権能により組織されているのである。創世時代でさえもアダムは聖なる神権の力と権能とを持っていた。

アダムは神権を受けた最初の人である。

予言者ジョセフ・スミスは次のように云った。〝神権は最初にアダムに与えられ彼は最初の会長会を持った。そして代々神権の鍵を保持した。彼は神権を天地創造すなわち創世記一章二六、二七、二八節にあるように世界が形成される以前に創造の内に神権を得たのである。彼は各々の生物を支配する権力を持った。彼は聖書に云われているようにミカエル天使長である。それからガブリエルのノアに与えられた。彼は神権に於てアダムの次の権能者である。彼は神によってこの職に召され、この時代の全ての生物の父であった。また彼に統治権が与えられた。これらの人々は先ず地球上でそして次に天上で鍵を持ったのである。（ジョセフ・フィールディング・スミス著〝ジョセフ・スミスの教え〟（第二巻）ソートレーク市、デザートニュースプレスP一五七）

幾年にもわたり神は人間に神の影響力に参加し楽しむ機会を与えられた。彼は多くの人を聖なる神権に於ける特別な鍵と召しに恵まれるように育てられたのである。

鍵をにぎった他の人々

アダム或はミカエルは代々神権の鍵をにぎった。ノア或はガブリエルも神権の鍵を持った。エライジャに〝全地が咀いをもて撃たれざらんがため、先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わしむる力の鍵を託した〟（DC二七・九）のである。

ペテロ、ヤコブ、ヨハネに彼等が現世に在った神権時代の間聖職の鍵を託した。（教義と聖約二七・一二、ヨハネ一五・一六を見よ）

ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに主は次のように云った。

〝すなわちわが王国の鍵と終りの世に於ける、および天と地の両つにあるすべてのものを一つに寄せ集むべき「時満ちたる」時代に於ける福音の神権の時代とを託したる。（教義と聖約二七・一三）

エホバとの聖約

特別な鍵を持ったこれらの人々に加えて、特別な神の召をうけた人がある。

確かにアブラハム、イサク、ヤコブのエホバとの著目すべき聖約は例としてふさわしいものである。聖約の最も明白な

声明は、アブラハムの書の中に記録されている。次の通りである。

わが名はエホバなり。われは始めより終を知る。これを以てわが手汝をおおわん。

われ汝を大いなる国民となし、汝を限りなく恵み、汝の名をすべての国民の中に大いならしめ、汝は汝の末の子孫にとり祝福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行かん。

われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに数えられ、立ち上りて汝をその父として祝福すればなり。

われは汝を祝する者を祝し、汝を咀う者を咀わん。また汝(すなわち汝の神権)により、汝のすえ(すなわち汝の神権)による、そはこの権能は汝によりて継続し、また汝のすえ(すなわち文字通りのすえ、汝の体より出でたるすえ)によりて世界の眷族ことごとく祝福を得ん、すなわち福音の祝福にして救いの祝福、すなわち永遠の生命の祝福を得んと云う約束を汝に与うればなり。(アブラハムの書二・八―一一)

創世から過去の時代を経て我々の日まで神は、その子供たちがその神権に伴う権利と特権と祝福とを享受できるように神権の鍵を準備し保存された。更にアブラハム、イサク、ヤコブにされたような特別な神の召しと聖約を通じて、神はその霊の子たちの継続した導きと祝福のために備えられたのである。これらの鍵と聖約、権力、そして祝福を通じて福音が私たちの手にもたらされたのである。

活動　クラスのメンバーたちにアダム、ノア、エライジャ、アブラハム、ヤコブ、バプテスマのヨハネ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネノ神権相続に於ける役割を立証させなさい。

神はイスラエルから、大神権をとられるアダムの時代からモーセにいたるまでメルケゼデク神権を持った人々の系譜があった(DC八四・六―一六)モーセの律法の中で次のように云っている。

主はまたアロンとその子孫の末に至るまで一つの神権を確認したまい、この神権もまた神の最も聖き神権に等しきかの神権と共に連線として代々いつまでも在るものなり(DC八四・一八)

神は今日我々の時代に次のように啓示された。モーセはイスラエルの子供たちに、彼等が聖別され、そして神の顔を見れるようになるために知りまた行う必要のあることをはっきりとそして熱心に教えた。

されどその民その心を頑固にしたれば、神の御前に出るに堪えざりき。故に主の憤り彼らに向って燃えたれば、主は怒りたまい、彼ら荒野に在る間主の休息に入るべからずと誓いたまえり。この休息とは、すなわち主の無上完全なる栄光なり。

この故に、主はモーセを彼らの中より取り去りたまい、またかの聖なる神権も同じく取り去りたまえり。

されど小神権は続きたり。而して、この神権は天使の人を助くる鍵と備えの福音の鍵とを保つ。

またこの福音は悔改めとバプテスマ、罪の赦し、肉体に関わる誡命の律法の福音にして、主は怒りの中にアロンの一家と共にイスラエルの子らの中にこれをヨハネに至るまで続かせたまえり。而してこのヨハネは神これを育て上げたまい母の胎より聖霊に満たされたる者なり。…(DC八四・二四～二七)

予言者ジョセフ・スミスがメルケゼデク神権がモーセと共に取り去られたかどうかたずねられた時、彼は次のように答えた。

"すべての神権はメルケゼデクである。しかし、そこにちがった部分または階級があるのである。モーセが直接神と会って話すことができた部分はとり去られた。しかし天使の導きを持ってくることは残されたのである。すべての予言者は、メルケゼデク神権を持ち神自身によって聖任されたのである"(ジョセフフィールディングスミス、ジョセフスミスの教え　ソルトレーク市　デゼレトニュープレス　一九三八、一八〇～一八一)

このように我々はイスラエルの頑固さの故にメルケゼデク神権(或は大神権)すなわち、アダムの時代から、モーセの神権時代まで人々の間に続けられた神権は、モーセと共にイスラエルからとられたのである。それから後、予言者イザヤやエレミヤやエリヤのようにメルケゼデク神権を授かった人々は時々起こされたが一般に、イスラエルの人々は、メルケゼデク神権を受けなかった。そして、アロン神権の管理下に在ったのである。アロンは小神権の鍵を与えられ、彼の息子たちは彼と共に祭司の職に仕えるべく召されたのである。

神がアロンとその息子を祭司として選んだ後、彼はイスラエルの様々な種族の長男のもつ神権の義務を解任した。そしてレビの種族の男性を以て彼らに代えたのである。この新しい組織は、またメルケゼデク神権の鍵をにぎるモーセ、小神権の鍵を持つアロン、そして祭司であるアロンの息子、そしてそれより低い順位の祭司であるレビ人からなっていた。

アロンが小神権をつかさどる限り、彼はモーセの指示のもとに働いたのである。しかし、アロンの生きている長男のエレアザルは小神権の鍵をうけ、モーセはイスラエルから取上げられた。彼エレアザルはイスラエルの神の代弁者となった。

アロンとレビ人の祭司はソロモンの死まで重大な争いなくそれぞれの使命に貢献した。しかしイスラエルの北王国(イ

スラエル）と南王国（ユダ）への分裂とヤラベアム王の偶像崇拝確立及びレビの息子たちではない最低の人間の祭司を作ることで危険な状態がおこった。すでに権能を持った祭司たちは北の王国で働らくことを許可されなくなったので、ユダの王国へ帰り、この脱出を以てイスラエルの王国に於る小神権の歴史は終ったのである。我々が知っている限りでは、けっして再びレビ種族はアロン神権内の一グループとして一〇種族の間に作用しなかったのである。

神権はユダヤ人に残っている

当時一〇種族はとらわれ、ついに失われてしまった。しかし、神権はユダヤ王国に実施されて残った。しかしながら多くの困難を通して神権の正しい相続があった。

バプテスマのヨハネと神権

Onias Ⅲ（一七五BC）後、儀式を続けた正しい祭司がいたが、大祭司の職は買売された。そしてそうでなければ汚されたのである。バプテスマのヨハネを神が出現させるまで、イスラエルに於てアロン神権の儀式に於ける他の権能ある主な祭司はいなかった。

ヨハネの誕生は神がそして天使のおとずれによって知らされた程重要なできごとであった。彼の父親は、ザカリアスで忠実なアロン神権をもつ祭司であった。それは彼らだけが祭壇で香をたくことを許されていたからである。そして彼の母は、アロン家の娘の一人でエリザベツと云った（ルカ一・五）。主は今日我々の時代にヨハネについて次のように云っている。彼は彼の母の胎内から聖霊に満されていた。

〝ヨハネいまだ幼かりし時バプテスマを受け、神の天使により生れて八日にしてこの神権に按手聖任せられて権能を受けたるは、ユダヤ人の王国をたおし、その民の目の前に主の道を直くし、すべての能力を御手の中に持ちたもう主の来りたもう時のためにその民を預め備え置かんためなりき〟（DC八四・二八）

ヨハネが産まれた時、メルケゼデク神権の鍵はユダヤ人の間になかった。そしてアロン神権の鍵も失われていたことを思い起すことは大切なことである。アロン神権の鍵を握る祭司としてのヨハネの役割は彼の先祖が持った任務とは異っていた。一五〇〇年の間、彼等は燔祭といけにえがささげられた聖所の祭壇で奉任したのである。ヨハネはすべての人々に悔い改めを呼び福音の最初の儀式を行い人々を彼らも偉大な人から聖霊の力を受けるために準備させながら主のおとずれを先ぶれする先駆者であった。

使徒が神権を握る

主が山上の垂訓を与える前に、また使徒としてのおきてが与えられる数ケ月前に何人かの使徒が祭司は、メルケゼデク神権の或職に聖任された。なぜならば彼等は、バプテスマをほどこす権能を持ったからである。（J・ルーベン・クラーク、ジュニア、Our Lord of Gospel, Salt Lake City, Deseret Book Company 1954 pp 43. 51. と J. Reuleen clerk Jr. on the wooy to Inmortality life. Salt Lake City, Dueret Book Company 1956 page 358 を見よ）

後十二使徒が選ばれ使徒に召された。カイザリヤピリポで行われた十二使徒の会合で神は天の王国の鍵が、与えられるであろうと云うことを約束された。一週間後、彼がペテロ、ヤコブ、ヨハネを高い山の上につれて行き彼等の前にこうごうしくなられた。そしてモーセとエライジャ（新約聖書エライヤス）が彼等に現われた。予言者ジョセフスミスは、神モーセ、エライジャはペテロ、ヤコブ、ヨハネに神権の鍵を授けたとのべた。（マタイ伝一六・一三―二〇、七・一―一三を見よ）

神権回復さる。

末日聖徒は普通、神権の回復をめぐる状態によく通じている。彼等は一八二〇年の春に、天父なる神と、その御子イエスキリスト―救世主―がニューヨーク州にあるパルマイラの近くの森の中で、二代目ジョセフスミスに現われたと云うことを知っている。彼等は彼の現代の予言的使命の準備に於ける最初の指示を与えたのである。一八二三年の九月に少くとも一八二九年六月までに復活した体のモロナイがジョセフスミスをおとずれた。バプテスマのヨハネが天使の導きにより、荒地で神の言葉を受けたようにジョセフスミスは天の教師達によって教ったのである。

バプテスマのヨハネきたる

最初の準備が完了した時そして神がその若い予言者をして神の御名による権能で行動させるための用意が出来た時、神はバプテスマのヨハネにアロン神権の鍵を持たしてジョセフスミスのもとに遣わせた。それは一八二九年五月十五日のことだった。バプテスマのヨハネは、彼がメルケゼデク神権の鍵をにぎっているペテロ、ヤコブ、ヨハネの指示の下に行動していると云った。（ジョセフスミス二・七二）

このようにキリストの道を準備するためにアロン神権の鍵をもつべく神によって特別に起されたヨハネがアロン神権を回復したのである。

大神権の回復

アロン神権の回復のすぐ後にジョセフとオリバーは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人からメルケゼデク神権を受けた。一八三六年四月三日に四つの偉大な示現がカートランド神殿でジョセフスミスとオリバーカウドリに与えられた。最初にイエスキリストが現われ、神殿を彼の家として受け入れた。それから予言者モー

セとエライアスとエライジャが現われ地球上で彼等がもっている鍵をさずけた。エライジャの派遣についてジョセフフィールディングスミスは次のように書いている。

〝教会のある会員達はエライジャは死者のためのバプテスマの鍵、あるいは死者のための救いの鍵を持って来たと云う考えととりちがえている。エライジャの鍵はもっと偉大なものである。それらはシーリングの鍵であり、これらのシーリングの鍵は生存者に関係し、進んで悔い改めた死者を含むのである。(Bruce R. McConkie, Compiler, Doctrines of Saluation Sermons and Writing of Joseph Fielding Smith, Salt Lake City, Bookcraft, 1956, Vol III. page 130)

予言者ジョセフスミスによって書かれた書簡に、彼はいろいろな場合に彼をおとずれた昔の世界からの人々の名前を揚げている。そして次のように記録してある。

〝天使長ミカエルの声、ガブリエルとラファエルの声およびミカエルすなわちアダムより現在に至るまでの天使らは、その神権時代、その権能、その鍵、その誉その威厳、その栄、その神権の権能を宣言し、規則に規則を加え、則に則を加えここにもすこしくかしこにも少しく教え、まさに来らんとすることをわれらに声明して慰めを与え希望を固くす。(DC一二八・二一)(DC一三二・四五―四七も見よ)

このように前の神権時代からの聖なる神権の全ての鍵は、この福音の最後の神権時代の初めに地球上に回復された。

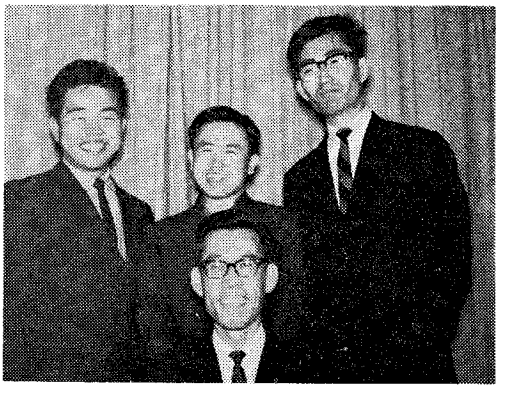
まとめ

ある人は神権のどの鍵もにぎらないかもしれない。しかし彼あるいは彼女は神が各神権時代を通じてこれらの鍵を保存し、そして我々の時代に神権とその鍵を回復しなかったら、現在彼あるいは彼女が分ち与えられている権利、特権及祝福にあずかれなかったであろうという事実を充分に評価し感謝せねばならない。

(我々は婦人、子供は神権の祝福を十分に分け与えられていると云うことを心に留めねばならない)どんな特殊な祝福を婦人や子供が神権を通して受けることができるかクラスで討議しよう。

宿題　このレッスンをくり返し読みなさい。我々の神権の相続に対してより以上の感謝をするためにできるなら一九六七年度メルケゼデク神権の手引きのレッスン一、二、三、四を読なさい。

伝道部日曜学校会長会



全国の兄弟姉妹のみなさん新年おめでとうございます。私達日本人は特別な気持で新年を寿ぎます。旧年のことを一切片付けて忘れた上で、新しい年を喜びと希望と祈りをもって迎えようとします。物事はそう単純に忘れたり整理したり出来ないものですが、それをあえてそう出来るような気持になれることも大きな喜びであるに違いありません。日常の生活が複雑多忙で緊張が多ければ、新年と言う一つの区切りは正に解放であり、新生の機会であると思います。

さて私達伝道部日曜学校の会長会は会長であった小林義生兄弟が昨年十一月の大会で解任されましたので新たに組織されました。彼は日曜学校の為に本当によく責任を果し、今度新たに東中央地方部の第二副地方部長に召されました。そして新しい会長会は私を会長として、米村武敏兄弟が第一副会長、第二副会長には新しく林孝兄弟、書記には引続いて上野秀夫兄弟がなりました。組織の指導者がひんぱんに変ることは好ましいことではありませんが、四人の会長会のうち三人は引続いてこの責任をいただくのですから、大部分は以前からの目標を引継いでそれに新しく検討を加えて実践するのみであります。さし当っては三つの目標があります。

第一、新しい手引にそった正しい日曜学校の運営と指導がなされるようにすること。

第二、手引にそって日曜学校の組織を強化し整えた上で、教師養成を計り、それぞれの支部でより興味のある有効なレッスンがなされるようにすること。

第三、子供日曜学校の内容を充実させること。以上要約した三つの目標は以前から考えられていた当然なされなければならないことでした。私たちは一丸となってこの三つの目標が全国の支部に於いて本当によく達成されるように、皆さんのお役に立って行きたいと思っております。私たちは本当に神様の仕事を通して、少しでも皆さんのお役に立てることを感謝しております。

聖徒の道は
私たちが真理を知る「てだて」であり
私たちの心と心がかよう道です
あなたの霊の進歩のために
あなたの信仰のかてのために
お役に立つ本であればと思います

聖徒の道
一九六七年一月一日発行
振替口座　東京一六二二六番
発行人兼編集人　アドニー・Y・小松
発行所　東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会
電話　四七三―一六一三
印刷所　株式会社三五堂
定価八十円
一年予約七〇〇円（申込は支部長まで）

支部所在地

北海道地方部

旭川	旭川市8条5丁目 MIA集会所　旭川公会堂 電話（0166―2―1545）
室蘭	室蘭市幸町89 電話（0143―2―7054）
小樽	小樽市富岡町1ノ35 電話（0134―2―8224）
札幌	札幌市南20条西16丁目 電話（0122―56―7175）

東中央地方部

群馬	高崎市並榎町275 電話（0272―2―7121）
甲府	甲府市中央3丁目12―2 電話（0552―3―2409）
松本	松本市開智1ノ1ノ6
新潟	新潟市中大畑町557 電話（0252―22―8660）
仙台	仙台市光禅寺通り28 電話（0222―25―0897）
東京中央	東京都港区青山北町6ノ34 電話（03―408―3307）
東京北	東京都中野区江原町1ノ8ノ14 電話（03―953―8244）
東京東	東京都江戸川区西小岩5ノ8ノ6 電話（03―657―5223）
東京南	東京都大田区南千束町2―25―11 電話（03―729―6311）
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺東町1ノ7ノ7 電話（0422―22―6764）
山形	山形市七日町4丁目12ノ23 電話（02362―3―3380）
横浜	横浜市港北区篠原町29 電話（045―40―8772）

西中央地方部

阿倍野	大阪市阿倍野区阪南町中1―11―8 電話（06―623―4315）
福岡	福岡市浄水町46 電話（092―52―8653）
広島	広島市古田町古江400ノ3 電話（0822―71―5309）
金沢	金沢市兼六元町3ノ8 電話（0762―21―2131）
京都	京都市左京区下鴨松原町44
名古屋	名古屋市昭和区北山町3ノ41 電話（052―73―4210）
西ノ宮	兵庫県西ノ宮市仁川町4ノ54 電話（0798―51―0141）
岡町	大阪府豊中市岡町北2ノ18 電話（068―52―1236）
岡山	岡山市学南町1ノ13ノ11 電話（0862―52―3560）
三ノ宮	神戸市灘区篠原本町4ノ35 電話（078―86―2602）
柳井	山口県柳井市今市391

沖縄地方部

普天間	沖縄宜野湾市野嵩区328
那覇	沖縄那覇市崇元寺町1―128―20 電話（3―1620）

建築部事務所　東京都港区青山北町6ノ34
電話（402―4010）

（誤りのある支部の支部長はご一報ください）

無断複製はシナイでください。　20050522-001